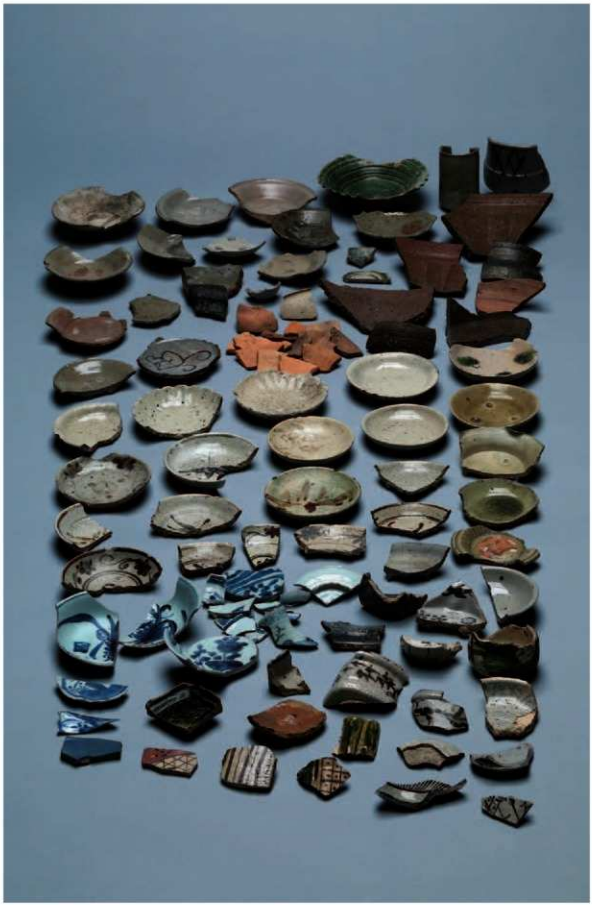
京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成30年度

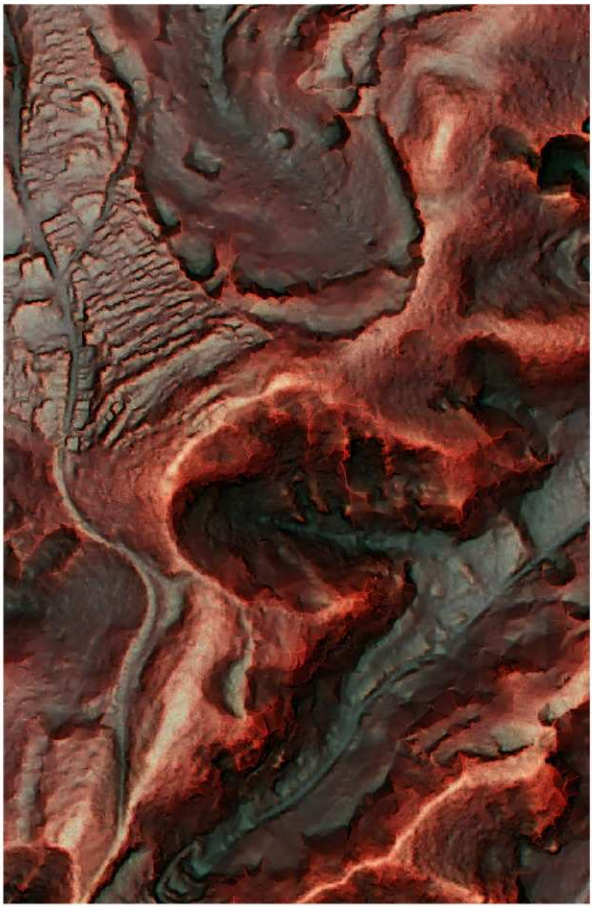
2019年3月

京　都　市　文　化　市　民　局



1　愛宕山遺跡採集遺物集合写真（17A007）

2　山田桜谷古墳と周辺遺跡群　赤色レーザー測量写真（18A006）



3　山田桜谷古墳群赤色レーザー測量写真拡大図（左が北）（18A006）

例　言

1　本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成30年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。平成30年1月から12月まで実施した詳細分布調査のうち，重要な成果のあったものについて本文で報告している。

2　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

3　本書報告の調査のうち，基準点測量した調査の方位および座標は，世界測地系平面直角座標系Ⅵによる。標高はT. P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は，既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4　本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1／2,500）を調整し，作成したものである。このほか，図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13　1/8,000　図版14～28，29－1～3　1/10,000　図版29－4　1/25,000

5　本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は，一部を除き，小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1996年に準拠する。

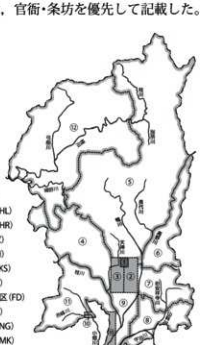
6　本書で使用した土色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じた。

7　調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており，調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は，平安宮跡，平安京跡，長岡京跡については，官衙・条坊を優先して記載した。

8　一覧表の地区分けについては，右の地区設定概念図にもとづいている。

9　遺物整理にあたっては，上茶谷美保，上別府亜紀，早川仁志，三枝愛，義井良作，吉本健吾の協力を得た。

10　調査及び本書作成は，京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課が担当し，（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。なお，「Ⅱ-6　平安京左京九条一坊十二町跡，史跡 教王護国寺境内　付．東寺御影堂（大師堂）の白色資料に関する分析報告」は（公財）京都市埋蔵文化財研究所職員関晃明氏，龍谷大学文学部教授北野信彦氏の玉稿を賜った。



地区設定概念図

本 文 目 次

Ⅰ　調査概要 …… 1

Ⅱ　平安京左京 …… 6
1　平安京左京四条二坊十二町跡（17H435） …… 6
2　平安京左京五条二坊七町跡（17H587） …… 16
3　平安京左京五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡（17H624） …… 19
4　平安京左京六条四坊十五町跡（17H567） …… 22
5　平安京左京八条二坊十町跡（18H205） …… 24
6　平安京左京九条一坊十二町跡，史跡 教王護国寺境内（28N005） …… 28

Ⅲ　平安京右京 …… 35
1　平安京右京三条一坊十一町跡，壬生遺跡（18H481） …… 35
2　平安京右京九条一坊十三・十四町跡，史跡 西寺跡，唐橋遺跡（28C090） …… 37

Ⅳ　その他の遺跡 …… 39
1　愛宕山遺跡（17A007） …… 39
2　市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内（17A006） …… 52
3　得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡（18R225） …… 57
4　円勝寺跡，岡崎遺跡（13R450） …… 59
5　革嶋館跡（18S132） …… 62
6　山田桜谷古墳群（18A006） …… 64

Ⅴ　調査一覧 …… 70
報告書抄録 …… 98

挿 図 目 次

地区設定概念図 …… i

平安京左京四条二坊十二町跡（17H435）

図1　調査位置図 …… 6
図2　調査区配置図 …… 6
図3　立会調査地点　断面図 …… 8

図４　第１区全体図 …… 9
図５　第２区全体図 …… 10
図６　出土遺物実測図１ …… 11
図７　出土遺物実測図２ …… 12
図８　遺構変遷図 …… 14
図９　第１区遺構面検出状況 …… 15
平安京左京五条二坊七町跡（17H587）
図 10 調査位置図 …… 16
図 11 遺構位置図 …… 16
図 12 №１地点　西壁断面図 …… 17
図 13 №２地点　南壁・№３地点　西壁断面図 …… 17
図 14 土坑１　出土遺物実測図 …… 18
図 15 №３地点３層　出土遺物実測図 …… 18
平安京左京五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡（17H624）
図 16 調査位置図 …… 19
図 17 遺構位置図 …… 19
図 18 各調査地点断面図 …… 20
図 19 出土遺物実測図 …… 21
平安京左京六条四坊十五町跡（17H567）
図 20 調査位置図 …… 22
図 21 遺構位置図 …… 22
図 22 遺構断面図 …… 22
図 23 出土遺物実測図 …… 23
図 24 落込み（A-A' 間断面）…… 23
図 25 ピット（B-B' 間断面）…… 23
平安京左京八条二坊十町跡（18H205）
図 26 調査位置図 …… 24
図 27 遺構位置図 …… 24
図 28 調査地点断面図 …… 25
図 29 調査地点平面・断面図 …… 26
図 30 出土遺物実測図 …… 27
平安京左京九条一坊十二町跡，史跡教王護国寺境内（28N005）
図 31 調査位置図 …… 28
図 32 調査地全景 …… 28
図 33 御影堂変遷図 …… 29

図34 調査区配置図 …… 29
図35 床下礎石平面図 …… 30
図36 遺構実測図 …… 31
図37 土坑1壁面 …… 31
図38 出土遺物実測図 …… 32
図39 風化が進む南側柱列の礎石 …… 32
図40 蛍光X線スペクトルと生物顕微鏡拡大画像 …… 33
平安京右京三条一坊十一町跡，壬生遺跡（18H481）
図41 調査位置図 …… 35
図42 調査地点位置図 …… 35
図43 遺構平面・断面図 …… 36
図44 遺構検出状況 …… 36
平安京右京九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡（28C090）
図45 調査位置図 …… 37
図46 調査地点位置図 …… 38
図47 各調査地点断面柱状図 …… 38
図48 出土遺物実測図 …… 38
愛宕山遺跡（17A007）
図49 採集地点位置図 …… 39
図50 採集地点（A地点）現況 …… 40
図51 遺物散布状況 …… 40
図52 遺物実測図1 …… 42
図53 遺物実測図2 …… 43
図54 遺物実測図3 …… 44
図55 遺物実測図4 …… 44
図56 遺物実測図5 …… 45
図57 遺物実測図6 …… 45
図58 遺物実測図7及び拓影 …… 46
図59 遺物写真1 …… 50
図60 遺物写真2 …… 51
市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内（17A006）
図61 2区調査前風景 …… 52
図62 調査位置図 …… 52
図63 調査区配置図 …… 53
図64 1・2区平面及び断面図 …… 54

図 65　1 区東壁 …… 55
図 66　2 区全景 …… 55
図 67　2 区下層堆積状況 …… 55
図 68　出土遺物実測図 …… 55
得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡（18R225）
図 69　調査位置図 …… 57
図 70　遺構位置図 …… 57
図 71　調査地点断面図 …… 58
図 72　ピット 1 検出状況 …… 58
図 73　土坑 5・6 検出状況 …… 58
円勝寺跡，岡崎遺跡（13R450）
図 74　調査位置図 …… 59
図 75　遺構位置及び発掘調査検出遺構関連図 …… 59
図 76　遺構断面図 …… 60
図 77　溝 1 出土遺物実測図 …… 61
革嶋館跡（18S132）
図 78　調査位置図 …… 62
図 79　遺構位置図 …… 62
図 80　遺構断面図 …… 63
図 81　ピット 4・5 検出状況 …… 63
図 82　ピット 7 検出状況 …… 63
山田桜谷古墳群（18A006）
図 83　調査位置図 …… 64
図 84　計測飛行ルートと測量範囲 …… 64
図 85　既住の測量図 …… 65
図 86　調査地点位置図 …… 66
図 87　1 号墳墳丘周囲の造成痕跡 …… 67
図 88　山田桜谷古墳群等高線図 …… 67
図 89　2 号墳付近 …… 68

図　版　目　次

巻頭図版　1　愛宕山遺跡採集遺物集合写真（17A007）
2　山田桜谷古墳と周辺遺跡群　赤色レーザー測量写真（18A006）
3　山田桜谷古墳群赤色レーザー測量写真拡大図（18A006）
図版1　平安宮
図版2　平安京左京北辺～三条　一・二坊
図版3　平安京左京北辺～三条　三・四坊
図版4　平安京左京　四～六条　一・二坊
図版5　平安京左京　四～六条　三・四坊
図版6　平安京左京　七～九条　一・二坊
図版7　平安京左京　七～九条　三・四坊
図版8　平安京右京北辺～三条　三・四坊
図版9　平安京右京北辺～三条　一・二坊
図版10 平安京右京　四～六条　三・四坊
図版11 平安京右京　四～六条　一・二坊
図版12 平安京右京　七～九条　三・四坊
図版13 平安京右京　七～九条　一・二坊
図版14 下鳥羽遺跡・板橋廃寺・伏見城跡・御香宮廃寺・太閤堤（小倉堤，槙島堤）
図版15 伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・御香宮廃寺・指月城跡・泰長老遺跡・
太閤堤（小倉堤，槙島堤）・向島城跡
図版16 1　大徳寺旧境内・御土居跡・雲林院跡・上京遺跡・世尊寺跡・北野天満宮・北野廃寺・
北野遺跡　2　岩倉忠在地遺跡　3　船山須恵器窯跡
図版17 1　上総町遺跡・雲林院跡・寺ノ内旧域・上京遺跡・相国寺旧境内・寺町旧域・世尊寺跡・
室町殿跡（花の御所）・公家町遺跡　2　史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）
3　御土居跡
図版18 1　樫原廃寺瓦窯跡・樫原遺跡・三重古墳　2　上久世遺跡　3　中久世遺跡・
下久世構跡・下久世城跡・大藪遺跡・長岡京跡
図版19 長岡京跡・東土川遺跡・久我殿遺跡・久我東町遺跡・羽束師菱川城跡・
羽束師志水町遺跡
図版20 鳴滝藤ノ木町古墳・常盤柏ノ木古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡・法金剛院境内・
太秦馬塚町遺跡・上ノ段町遺跡・広隆寺旧境内・弁天島経塚（群）・一ノ井遺跡・
森ケ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡・蛇塚古墳
図版21 史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）・北白川廃寺・池田町古墳群・北白川追分町遺跡・

北白川追分町縄文遺跡・小倉町別当町遺跡・吉田本町遺跡・吉田二本松町遺跡・
吉田橋町遺跡・聖護院川原町遺跡・白河街区跡・岡崎遺跡・法勝寺跡・得長寿院跡・
尊勝寺跡・延勝寺跡・円勝寺跡・史跡南禅寺境内
図版 22 寺町旧域・御土居跡・岡崎遺跡・法勝寺跡・史跡青蓮院門旧御所・知恩院跡・
祇園遺跡・建仁寺境内・法観寺旧境内・六波羅蜜寺旧境内・六波羅政庁跡・方広寺跡・
音羽・五条坂窯跡・妙法院境内・法住寺殿跡・鳥部（辺）野
図版 23 1 嵯峨遺跡・広沢古墳群・檀林寺跡・宝幢寺境内・嵯峨北堀町遺跡 2 植物園北遺跡・
深泥池窯跡・芝本瓦窯跡
図版 24 1 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡 2 法性寺跡・今村城跡・月輪遺跡 3 小野廃寺・
史跡醍醐寺境内
図版 25 1 山科本願寺跡（寺内町遺跡） 2 上里北ノ町遺跡・長岡京跡・大原野岩見遺跡・
上里遺跡・芝古墳群 3 中臣遺跡・中臣十三塚 4 長岡京跡・淀城跡
図版 26 1 史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡 2 福西古墳群・大枝遺跡 3 愛宕山遺跡
4 上ノ段町遺跡・西野町遺跡 5 市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園・
大原延暦寺別院境内 6 史跡詩仙堂
図版 27 1 如意寺跡 2 山科本願寺南殿跡 3 元屋敷廃寺 4 勧修寺旧境内
5 鳥丸町遺跡 6 吉祥院日向地蔵一字一石大乗妙典塔 7 上鳥羽遺跡
8 下鳥羽遺跡・芹川城跡
図版 28 1 深草遺跡 2 稲荷山古墳群・伏見稲荷大社境内 3 安楽行院跡・深草坊町遺跡・
嘉祥寺跡 4 深草向ヶ原町遺跡・がんせんどう廃寺 5 太閤堤（小倉堤，槙島堤）・
向島城跡 6 法界寺旧境内 7 松尾十三塚古墳群・松室遺跡 8 山田桜谷古墳群・
浄住寺（谷之堂）跡
図版 29 1 革嶋館跡 2 常照皇寺経塚 3 周山廃寺 4 史跡醍醐寺境内
図版 30 平安京左京四条二坊十二町跡 遺構
1 第１区全景 2 第１区全景

表 目 次

表１ H30 年の詳細分布調査件数 ……1
表２ 詳細分布調査件数の年間推移（その１）……2
表３ 詳細分布調査件数の年間推移（その２）……3
表４ 出土遺物概要表 …… 5
表５ 表採資料組成表 …… 41
表６ 遺物観察表（１）…… 47
表７ 遺物観察表（２）…… 48

Ⅰ 調 査 概 要

本書は，文化庁国庫補助事業に伴う平成30年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では，平成30年1月4日から3月30日までの平成29年度分199件，平成30年4月2日から12月28日までの平成30年度分428件をあわせて報告する。

詳細分布調査の総件数は627件で，前年に比べて25件減少している（表1～3）。しかし，この件数は過去10年間で前年に次いで多い件数にあたる。調査の増加は続くと考えられる。地区ごとの増減傾向をみると，平安京内（平安宮・左京・右京地区）が前年314件，今年319件とわずかながら増加している。また，京都市東部（北白川・洛東地区）で，前年78件が今年107件と増加している。他の周辺部は京北地区（前年と同件数）を除いてすべて減少している（前年258件が今年209件）。

2018年11月に2025年の万国博覧会開催が大阪に決定し，ますます関西が国際観光圏化していくと考えられる。その影響は京都市においても前年と同じく宿泊施設建設（大型ホテル，簡易宿所，ゲストハウス，旅館等）の増加に現れている。宿泊施設建設に伴う詳細分布調査は，前年が平成28年から倍増し80件になり，本年も84件と80件台を維持している。前述のように京都東部（北白川・洛東地区）で詳細分布調査が増大していることは，東部に観光地が比較的多く存在していることから観光に関連する建築物が増加していることに起因していると考えられる。

以下，地区ごとの概要を述べる。

①平安宮（ＨＱ）

平安宮域では，平安宮跡，鳳瑞遺跡，聚楽遺跡，聚楽第跡，二条城北遺跡の5遺跡で83件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが，図書寮跡の調査（17K593）で時期不明であるが落込み，大炊寮跡，二条城北遺跡の調査（18K044）で時期不明の土坑，宮内省・太政官跡，聚楽遺跡の調査（17K820）で時期不明の包含層を検出している。

表1　平成30年の詳細分布調査件数

地　　区	29年度1～3月	30年度4～12月	小計	地　　区	29年度1～3月	30年度4～12月	小計
平安宮（HQ）	20	63	83	洛東地区（RT）	22	57	79
平安京左京（HL）	46	103	149	伏見・醍醐地区（FD）	13	32	45
平安京右京（HR）	37	50	87	鳥羽地区（TB）	5	14	19
太秦地区（UZ）	8	20	28	長岡京地区（NG）	8	13	21
洛北地区（RH）	15	30	45	南桂川地区（MK）	15	26	41
北白川地区（KS）	9	19	28	京北地区（UK）	1	1	2
				合　　計	199	428	627

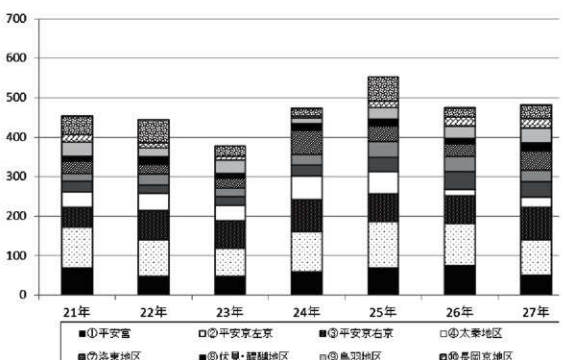
②平安京左京（ＨＬ）

左京域では，平安京跡，公家町遺跡，内膳町遺跡，新在家の構え跡，旧二条城跡，二条城北遺跡，高陽院跡，烏丸丸太町遺跡，堀川御池遺跡，妙顕寺城跡，等持寺跡，妙蓮寺の構え跡，烏丸綾小路遺跡，だいうすの城跡，史跡本願寺境内，東市跡，東本願寺前古墓群，寺町旧域，御土居跡，史跡教王護国寺境内，烏丸町遺跡，西京極遺跡，唐橋遺跡，中久世遺跡の 24 遺跡で 149 件の調査を行った。

本書では一条三坊十五・十六町跡，新在家の構え跡の調査（17H537），四条四坊十二町跡の調査（17H437），五条二坊七町跡の調査（17H587），五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（17H624），六条四坊十五町跡の調査（17H567），八条二坊十町跡の調査（18H205），九条一坊十一町跡，史跡教王護国寺境内の調査（28N005），九条四坊一町跡，烏丸町遺跡の調査（17H120）を報告する。一条三坊十五・十六町跡，新在家の構え跡の調査（17H537）では，京都御苑内で公家町を区画すると考えられる築地の基礎となる石列を検出している。

このほか，二条三坊七町跡の調査（18H210）で平安時代前期の包含層，二条四坊十三町跡の調査（18H242）で室町時代の土坑，三条三坊四町跡の調査（18H052）で室町時代後半の包含層，三条四坊八町跡，等持寺跡の調査（17H722）で室町時代の土坑と包含層，鎌倉時代の土坑を検出している。五条四坊四町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（17H413）で鎌倉時代の土坑，六条三坊十一町跡の調査（17H486）で中世の包含層，八条二坊十三町跡の調査（18H177）では平安時代後期から鎌倉時代の包含層，八条四坊一町跡の調査（18H128）では鎌倉時代の溝状遺構，九条二坊一町跡の調査（17H779）では平安時代の整地層，九条三坊十一町跡，烏丸町遺跡の調査（18H474）

表２　詳細分布調査件数の年間推移（その１）



と九条三坊十四町跡の調査（17H727）では室町時代の整地層を検出している。

また，五条三坊十三町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（18H068）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

③平安京右京（ＨＲ）

右京域では，平安京跡，龍翔寺跡，御土居跡，西ノ京遺跡，壬生遺跡，西院遺跡，西院城跡（小泉城），西京極遺跡，西市跡，衣田町遺跡，西寺跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の13遺跡で87件の調査を行った。

本書では三条一坊十一町跡，壬生遺跡の調査（18H481），九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の調査（28C090）を報告する。九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の調査（28C090）では，唐橋遺跡に伴う土器を多量に包含する落込と西寺に伴う整地層を検出している。

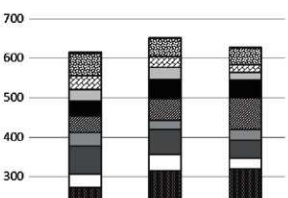
このほか，一条二坊十四町跡，御土居跡の調査（18H385）で御土居の版築遺構，二条四坊十五町跡の調査（18H399），四条二坊八町跡の調査（17H611），六条四坊十六町跡の調査（16H351）と七条二坊八町跡の調査（16H351）でそれぞれ平安時代の包含層，九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡の調査（17H276）では弥生時代の東西溝と包含層を検出している。

また，七条二坊七町跡，西市跡，衣田町遺跡の調査（18H108）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

④太秦地区（ＵＺ）

愛宕山遺跡，嵯峨遺跡，檀林寺跡，宝幢寺境内，嵯峨北堀町遺跡，広沢古墳群，鳴滝藤ノ木町古墳，常盤柏ノ木古墳群，常盤仲之町遺跡，西野町遺跡，太秦馬塚町遺跡，上ノ段町遺跡，蛇塚古墳，広隆寺旧境内，弁天島経塚（群），和泉式部町遺跡，森ケ東瓦窯跡，法金剛院境内の18遺跡で28件の調査を行った。

表３　詳細分布調査件数の年間推移（その２）



愛宕山遺跡の調査（17A007）を報告する。愛宕山遺跡の調査（17A007）では，愛宕山山中において多量の桃山時代の茶陶を採集している。

⑤洛北地区（ＲＨ）

岩倉忠在地遺跡，深泥池窯跡，芝本瓦窯跡，植物園北遺跡，船山須恵器窯跡，上総町遺跡，御土居跡，大徳寺旧境内，雲林院跡，寺町旧域，史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社），寺ノ内旧域，相国寺旧境内，上京遺跡，室町殿跡（花の御所），世尊寺跡，公家町遺跡，北野天満宮，北野遺跡，北野廃寺の20遺跡で45件の調査を行った。

史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）の調査（29N114）では，試掘調査と詳細分布調査を並行しておこなっており，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告する。

このほか，深泥池窯跡の調査（18A002）では遺跡範囲外で遺物を採集しており，遺跡範囲の拡張が必要となった。

⑥北白川地区（ＫＳ）

市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内，北白川廃寺，池田町古墳群，小倉町別当町遺跡，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡，吉田橋町遺跡，聖護院川原町遺跡，得長寿院跡，尊勝寺跡，延勝寺跡，円勝寺跡，法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡，史跡詩仙堂，如意寺跡，史跡南禅寺境内，御土居跡の22遺跡で28件の調査を行った。

市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園の調査（17A006），得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（18R225），円勝寺跡，岡崎遺跡の調査（13R450）を報告する。

このほか，小倉町別当町遺跡の調査（18S503）では弥生時代と鎌倉時代の包含層，得長寿院跡，尊勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（18R424）では中世の包含層を検出した。

⑦洛東地区（ＲＴ）

史跡青蓮院旧仮御所，知恩院境内，御土居跡，寺町旧域，祇園遺跡，建仁寺境内，法観寺旧境内，六波羅蜜寺境内，六波羅政庁跡，方広寺跡，法住寺殿跡，音羽・五条坂窯跡，鳥部（辺）野，妙法院境内，法性寺跡，今村城跡，月輪遺跡，山科本願寺跡（寺内町遺跡），山科本願寺南殿跡，中臣遺跡，中臣十三塚，小野廃寺，勧修寺旧境内の23遺跡で79件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが，建仁寺境内の調査（17S782）では時期不明であるが包含層，山科本願寺跡（寺内町遺跡）の調査（17S685）でも時期不明の包含層，小野廃寺の調査（16S099）でも時期不明の包含層を検出した。

また，中臣遺跡の調査（18N289）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

⑧伏見・醍醐地区（ＦＤ）

伏見城跡，板橋廃寺，御香宮廃寺，指月城跡，泰長老遺跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳），太閤堤（小倉堤，槙島堤），向島城跡，稲荷山古墳群，伏見稲荷大社境内，安楽行院跡，深草坊町遺跡，嘉祥寺跡，がんせんどう廃寺，深草向ケ原町遺跡，史跡醍醐寺境内，小野廃寺，法界寺旧境内の18遺跡で45件の調査を行った。

伏見城跡の調査（16F684）では推定松平下野守（結城秀康または松平忠吉）邸の虎口の階段部分をほぼ完全な形で検出することができた。これは本年最大の発見となった。詳細分布調査前に試掘調査・発掘調査を実施しており，試掘調査成果と合わせて『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

このほか，伏見城跡では5箇所の調査（17F011・17F261・17F633・17F597・17F720）で伏見城期と考えられる造成土を検出している。

⑨鳥羽地区（ＴＢ）

烏丸町遺跡，上鳥羽遺跡，鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡，下鳥羽遺跡，芹川城跡，久我殿遺跡，深草遺跡，吉祥院日向地蔵一字一石大乗妙典塔，羽束師志水町遺跡，淀城跡の 11 遺跡で 19 件の調査を行った。吉祥院日向地蔵一字一石大乗妙典塔の調査（18A001）では塔の下から江戸時代に経典の文字を一字を一石に記載した石が多数出土した。

このほか，下鳥羽遺跡の調査（17S741）で古墳時代の包含層，烏丸町遺跡の調査（18S521）で平安時代から鎌倉時代の包含層を検出している。

⑩長岡京地区（ＮＧ）

長岡京跡，上里遺跡，芝古墳群，大原野石見遺跡，大藪遺跡，淀城跡の６遺跡で 21 件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが，左京九条四坊一町跡の調査（16NG518）で鎌倉時代の包含層を検出している。

⑪南桂川地区（ＭＫ）

史跡・名勝嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡，松尾十三塚古墳群，松室遺跡，浄住寺（谷之堂）跡，革嶋館跡，三重古墳，樫原遺跡，樫原廃寺瓦窯跡，上久世遺跡，中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構え跡，上里北ノ町遺跡，福西古墳群，大枝遺跡の 18 遺跡で 41 件の調査を行った。

今回は顕著な成果はなかったが，中久世遺跡の２箇所の調査で弥生時代の溝（18S223），弥生時代から古墳時代の湿地状堆積（18S138）を検出している。

⑫京北地区（ＵＫ）

周山廃寺，周山古墳群，高梨経塚，高梨遺跡，常照皇寺経塚の５遺跡で２件の調査を行った。今回の調査では特に顕著な成果は得られなかった。

（吉本　健吾）

表４　出土遺物概要表

	Aランク点数（箱数）	内　　訳	Bランク点数（箱数）	Cランク点数（箱数）	出土箱数合計
点数及び箱数	７点（箱）	土師器，須恵器，緑釉陶器，瓦器，瓦質土器，陶磁器，瓦	２箱	10 箱	19 箱

Ⅱ-1　平安京左京四条二坊十二町跡（17H435）

1　調査に至る経緯と経過（図１・２）

調査地は，四条通と油小路通の交差点より北に位置する（図１）。平安京復元では，左京四条二坊十二町の東辺に位置し，敷地の一部が油小路の一部にかかる。今回この区画において，共同住宅の建設が計画されたため，詳細分布調査を実施した。その結果，対象地内の複数箇所で行った断面観察により，平安時代前期から江戸時代に至る包含層が良好に残存することを確認した。また，土坑やピット等，複数の遺構を検出した。

このため建設工事を一時中断し，対象面積 186 ㎡（１区 136 ㎡，２区 50 ㎡）に対して延長調査を実施した（図２）。

2　位置と環境（図１）

この町域には，平安時代中期に昭登（あきなり）親王の御所が，平安時代後期には源行家入道の邸があったとする地歴が残る。

昭登親王（998 ～ 1035）は，花山天皇の第二皇子で，万寿２年（1027）に兵部卿，その後中務卿となり，その在任中に薨じた。藤原実資の日記『小右記』には，万寿２年２月に親王御所が火事で焼失した記録が見えている。

また，源行家（1140 ？～ 1186）は清和源氏である源為義の十男で，平家討伐を命じた以仁王の令旨を，甥である源頼朝に伝えた人物として著名である。行家は，寿永２年（1183）

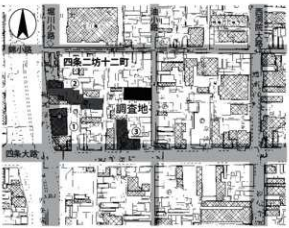


図１　調査位置図（１：5,000）

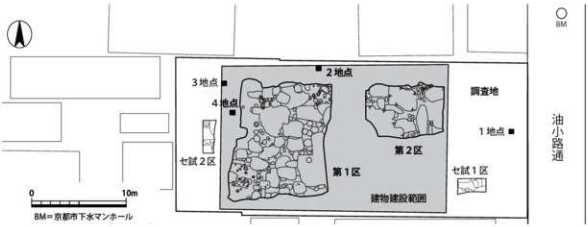


図２　調査区配置図（１：400）

に入京し，従五位下備後守（後に備前守に遷任）に叙されている。その際，この町域に邸を構えたのであろう。行家は３年後に没したが，『尊卑文脈』によると，行家の５世孫までが官人として京内に在住したことがわかる。

これらの資料を裏付けるように，町域で行われた調査では，平安時代や鎌倉時代，室町時代の遺構や包含層が複数箇所で確認されている。昭和 56 年度に調査地の南西区画（図１-③）で行われた発掘調査では，GL-1.9 mの深度において平安時代～江戸時代の遺構が重複して検出された。また，昭和 57 年度に町域南西部で行われた試掘調査（図１-①）では，GL-2.0 mの深度において鎌倉時代包含層が，平成 24 年度にその北側で実施された試掘調査（図１-②）では，GL-2.7 mの深度において鎌倉時代～室町時代の包含層が確認された。

以上の成果から，この町域の遺構面レベルは東が高く，西へ向かって下がること，そのため，邸宅は町域の東半部に集中したことが予測された。

３　調査成果（図２～７）

（１）基本層序（図２・３）

今回の調査では，計画建物範囲のうち４箇所で断面観察を行った（図２・３　１～４地点）。

調査地東端の№１地点では，BM-1.2 mまで盛土（BMは油小路通上マンホール天端），-1.35 mまで黒褐色シルト（鎌倉時代包含層），-1.5 mまで黄灰色シルト（平安時代後期整地層），以下，灰白色泥砂（平安時代包含層）を確認した。このうち整地層上面では，ピット（13 世紀）を１基検出した。

調査地中央北辺の№２地点では，BM-1.3 mまで盛土，-1.4 mまで暗灰黄色粘土質シルト（鎌倉時代包含層），-1.85 mまで黒褐色粘土質シルト（平安時代中期包含層），-2.0 mまで灰黄褐色砂質シルト（平安時代遺構面基盤層），以下，褐灰色砂礫（地山）を確認した。鎌倉時代包含層の除去面では土坑１基（13 世紀），平安時代包含層除去面ではピット（時期不明）を２基検出した。

調査地西端の№３地点では，BM-0.95 mまで盛土，-1.1 mまで黒褐色粘土質シルト（室町時代包含層），-1.3 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代後期整地層），-1.5 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代包含層），-1.75 mまで灰黄褐色砂質シルト（平安時代遺構面基盤層），以下，褐灰色砂礫（地山）を確認した。平安時代後期整地層上面ではピット（12 世紀）を１基，平安時代遺構面基盤層上面では，土坑（平安時代中期）を１基検出した。

同じく調査区西端の№４地点では，BM-1.25 mまで盛土，-1.5 mまで暗オリーブ色粘土質シルト（平安時代後期整地層），-1.75 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代包含層），-1.95 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代遺構面基盤層），以下，褐灰色砂礫（地山）を確認した。平安時代後期整地層上面では，土坑（14 世紀）を１基検出した。

なお，同敷地内において平成２年度に行われた試掘調査では，対象地内２箇所に調査区が設定されている（図２　セ試１区，セ試２区，図３下段）。調査地東端に設定されたセ試１区では，BM-0.35 mまで盛土，-0.55 mまで室町時代包含層，-1.0 mまで鎌倉時代包含層，-1.25 mまで平

4地点
1）2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト
土器片，礫，炭化物入る（遺構埋土）
2）5Y4/3　暗オリーブ色粘土質シルト
土器片，炭化物入る
（平安時代後期整地層）
3）2.5Y4/3　暗オリーブ褐色粘土質シル
ト　礫入る（平安時代基盤層）
4）10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト
5）10YR4/1　暗灰色砂礫（地山）

3地点
1）10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
土器，礫，炭化物入る
2）2.5Y3/2　黒褐色粘土質シルト
土器片，礫入る（遺構埋土）
3）5Y4/3　暗オリーブ色粘土質シルト
土器片，炭化物入る（平安時代後期整地層）
4）2.5Y4/3　暗オリーブ褐色粘土質シルト
礫入る（平安時代基盤層）
5）10YR3/3　暗褐色粘土質シルト　礫入る
6）10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト
7）10YR4/1　暗灰色砂礫（地山）

2地点
1）2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルトに
5Y4/3　暗オリーブ色粘土質シルトブロック30%程度入る
土器片，礫，炭化物入る（鎌倉時代～室町時代包含層）
2）2.5Y3/2　黒褐色粘土質シルト　土器片，礫，炭化物入る
（平安時代中期包含層）
3）10YR3/2　黒褐色粘土質シルト　礫，炭化物入る
しまり良い（平安時代）
4）10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
5）10YR3/3　暗褐色砂質シルト礫入る
6）10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト
7）10YR4/1　暗灰色砂礫（地山）

1地点
1）2.5Y3/1　黒褐色泥砂　土器片，炭化物入る
2）2.5Y6/1　黄灰色泥砂　土器片，炭化物入る
3）7.5Y7/2　灰白色泥砂　土器片入る（整地層）

センター試掘２区
1）10YR4/1　暗灰色砂泥
2）10YR4/2　灰黄褐色泥砂
3）10YR4/2　灰黄褐色泥砂
4）2.5Y3/2　黒褐色泥砂　炭化物含む　鉄分沈着
5）10YR3/4　暗褐色泥砂
6）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色砂泥
炭化物，土師器含む
7）5Y4/2　灰オリーブ色泥砂
8）2.5Y3/2　黒褐色砂泥
9）2.5Y3/3　暗オリーブ色砂泥
10）2.5Y4/2　暗灰黄色砂泥　砂混じる
（平安時代後期）
11）5Y5/4　オリーブ色泥砂（平安時代土坑）
12）10YR4/6　褐色泥砂（地山）

センター試掘１区
1）10YR3/2　黒褐色泥砂
2）10YR4/1　暗灰色砂泥
3）2.5Y4/1　黄灰色泥土　炭化物含む
4）2.5Y5/4　黄褐色砂泥　砂混じる（地山）
5）5Y6/2　灰オリーブ色砂礫
泥砂混じる（地山）
6）5Y6/1　灰色砂（地山）

図３　立会調査地点　断面図（１：40）

安時代後期遺構埋土，-1.4 mまで平安時代遺構面基盤層，以下，灰オリーブ色砂礫を主体とする地山が存在する。また，西端に設定されたセ試２区では，BM-0.75 mまで盛土，-1.25 mまで室町時代包含層，-1.55 mまで平安時代包含層，以下，褐色砂礫を主体とする地山が確認されている。

以上のことから，調査地内には平安時代から室町時代までの包含層が良好に残存すること，また平安時代後期整地層上面と，平安時代中期包含層下面（基盤層上面）ではほぼ共通して遺構が

成立することが明らかとなった。

このため今回の調査では，平安時代後期整地層上面で遺構検出をおこなうことを目標とした。

（2）遺構と遺物（図4～7）

平安時代後期整地層上面では，平安時代後期～鎌倉時代，室町時代，江戸時代の遺構群を重複して検出した。また，整地層を部分的に除去することにより，平安時代中期の遺構を一部検出した。

平安時代中期の遺構は，東西方向にのびる溝2条（溝3，溝50）と，小型のピット群である。

調査区南辺の溝3は，検出長4.3 m，最大幅0.7 m，最大深度0.12 mを測る。断面形状は不定形な皿形で，底面にはやや凹凸がある。埋土はオリーブ褐色粘土質シルトと暗オリーブ色シルト

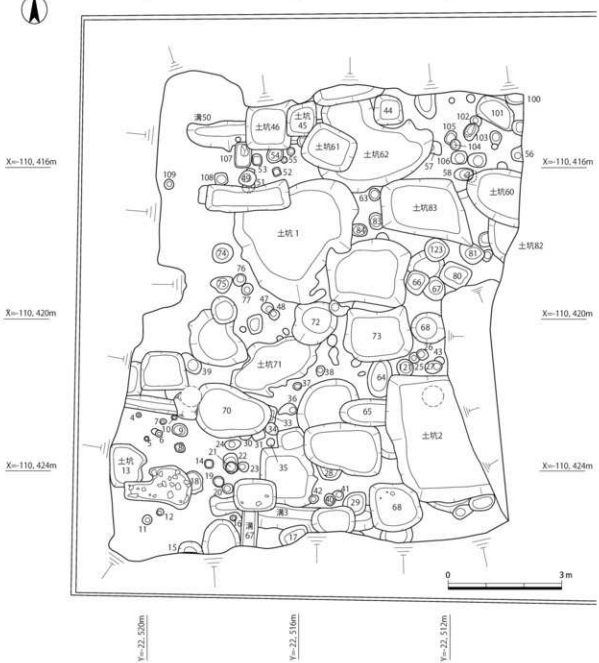


図4　第1区全体図（1：100）

ブロックの混合層で，平安時代後期整地層と同質である。埋土からは，土師器皿，黒色土器，灰釉陶器，黄釉陶器，緑釉陶器，須恵器甕の細片が出土した（図 6-10）。10 世紀～ 11 世紀の遺構である。

調査区北辺の溝 50 は，検出長 1.6 m，最大幅 0.8 m，最大深度 12cm，平面形状は皿形を呈する。後世の土坑群に切られるが，その間隙に残る埋土から，より東へのびることが明らかである。埋土は暗オリーブ色粘土質シルトとオリーブ黒色シルトブロックの混合層で，炭化物，土器片を少数含む。この混合層は平安時代後期整地層に相当することから，整地前にはすでに存在した施設であったと考えられる。遺構内からは，緑釉陶器鉢 1 点，黒色土器椀，土師器皿などが出土した（図 6-41 ～ 43）。10 世紀末～ 11 世紀初頭の遺構である。

平安時代後期～鎌倉時代の遺構は，柱穴，ピット，土坑である。

調査区北西部で検出した土坑 46 は，一辺 1.2 m程度を測る隅丸方形の平面形状をもつ。最大深度は 0.3 mと浅いが，断面形状は長方形に近く直立する壁を有する。また埋土の含水率が高く，非常に軟質であることから素掘りの井戸と考えられる。なお土坑 46 を切って成立する土坑 45（15 世紀），さらにこれを切る土坑 61（16 世紀）はすべて類似した形状をもつ。この地点で井戸の掘り直しが続けて行われた可能性が高い。土坑 46 の埋土からは，白磁椀，四耳壺，瓦器椀，砥石，平瓦が出土した（図 6-36 ～ 39）。概ね 12 世紀～ 13 世紀中葉の製品である。

ピット 58 は，明確な掘り方をもつ柱穴で，最大径 0.5 m，最大深度 0.22 mを測る。柱あたりは径 0.35 mの円形で，埋土は黒褐色礫混じり粘土質シルトを主体とする。西方に位置するピット 49，108 や南に位置するピット 81 とあわせて柱列が想定できるものの，建物の復原は難しい。ピット 58 の埋土からは，土師器皿，白磁壺，瓦質土器鍋の破片等が出土した。

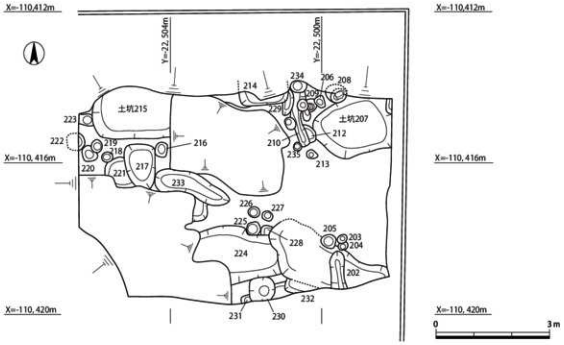


図 5　第 2 区全体図（1：100）

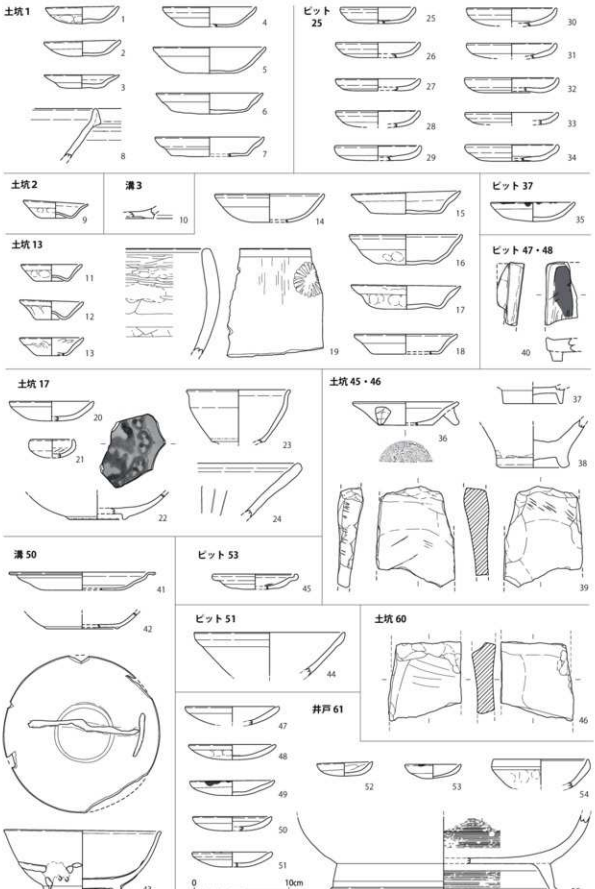


図6　出土遺物実測図1（1：4）

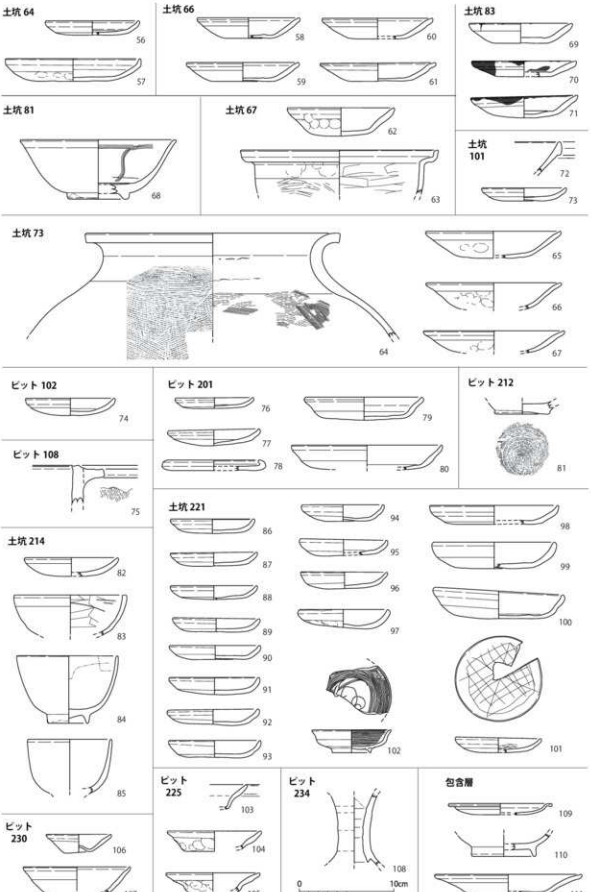


図７　出土遺物実測図２（１：４）

また，後世の攪乱に損なわれるものの，南辺のピット 20，41 など，東西方向を指向する柱列も想定できる。ピット 41 の底面には根石が配されている。埋土から，土師器皿，白磁皿等が出土した。

室町時代の遺構は，土坑，ピット，柱穴（柱列）である。前代と同じく，正方位に柱列を復原できる。出土遺物の生産時期から，14 世紀と 15 世紀の遺構に大別できる。

ピット 107 は，長辺 0.65 m，短径 0.45 mを測る隅丸方形の平面形状をもつ。最大深度は 0.28 mを測る。底面を一部を深く掘り窪め，ここに一辺 0.25 mを測る根石を置く。東に位置するピット 57，56，南に位置するピット 76，ピット 23，このほかピット 67，ピット 27 などとあわせて掘立柱建物を復原することが可能である。柱間は 2.0 から 2.2 mとばらつくが，概ね 7 尺程度である。第 1 区では 3 間× 4 間を数えるが，第 2 区の柱穴と合わせると 5 間× 3 間の規模をもつ建物として復原することが可能である。ピット 107 の埋土からは土師器皿，常滑焼甕，瓦質土器釜等が出土した。15 世紀の製品である。

このほか，柱列としては復原できないが，根石をもつ柱穴は多く認められる。ピット 103 は，長径 0.6 m，短径 0.35 mを測る柱穴で，最大深度は 0.2 mを測る。遺構内には上面に平坦面をもつ礎石が据えられている。埋土からは土師器皿，須恵器甕が出土した。14 世紀の製品である。

4　まとめ（図 8）

以上，左京四条二坊十二町跡の調査成果について概略を述べた。限られた時間での調査であったが，この町域で平安時代中期から江戸時代に至る遺構群を確認できたことの意味は大きいと考える。以下，出土遺物から検証した遺構の変遷を確認し，まとめとしたい。

平安時代中期　町域に昭登親王の御所が営まれたとされる時期である。既往の調査成果から，微高地である町域の東半部を中心に居住域が広がっていたと解釈される。

今回の調査では，東西方向の溝 2 条とピット群を検出した。この 2 条の溝間は約 10 mで，四行八門の地割りにのるものではない。底面に凹凸が認められることから，むしろ雨落ち溝等を想定するべきであるが，建物を復原できていない以上，ここでは可能性にとどめておく。

溝内より出土した緑釉陶器の鉢（図 6-43）には，底面中央に大きな亀裂が認められる。焼き損じの類であり，容器として機能したかどうかは不明であるが，溝内から完形に近い状態で出土したことは注目される。またピット 47，48 からは，墨痕の付着した風字硯の出土があり，識字層の居住を想像させる。

平安時代末期～鎌倉時代　町域に源行家とその後裔が居住したとされる時期である。平安時代後期に敷設された整地層により，敷地内の傾斜はやや緩和された状態となる。

今回の調査では，柱列，土坑，ピットを検出した。建物の復原はできないが，根石や柱あたりをもつ柱穴の存在は，相応の建物が建設されていたことを示す。また，検出された遺構数が多いことから，継続的に居住域として維持されていたと推測される。

第 2 区の土坑 221 からは，内面に格子と「×」を線刻した土師器皿が出土した（図 7-101）。何らかのまじないを行った道具と解される。また，土坑 81 からは，内面を櫛状文で装飾する嗄門鴻

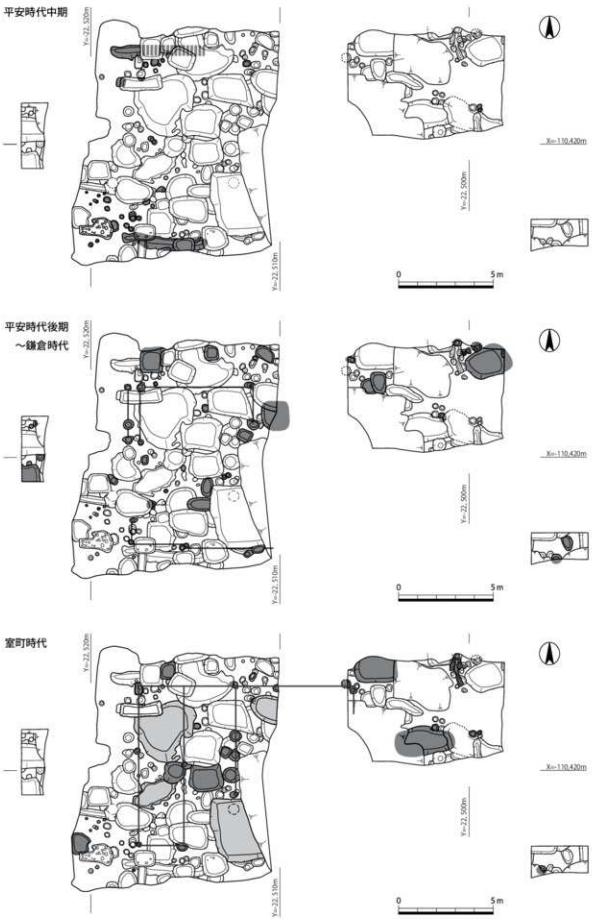


図８　遺構変遷図（１：200）

系の青磁碗（図7-68）の出土がある。居住者の経済状況や精神文化を知る貴重な資料である。

室町時代　出土遺物と遺構の切あいから，大きく2時期の変遷があったと推測される。14世紀に帰属する遺構は大型土坑であり，その規模と出土遺物の多さから，廃棄土坑であると認識される。逆に15世紀後半に属する遺構群は，根石をもつ柱穴の存在が顕著で，掘立柱建物の復原も可能である。遺物は，土師器皿や瓦質土器，砥石等，一般的かつ実用品のみの出土となり，前代までとは異なる居住者の存在を示唆している。

図9　第1区遺構面検出状況（東から）

なお，調査区内では，江戸時代前期の遺構も多く，出土遺物も一定量を得ている。左京四条二坊十二町では，小面積の開発が多く，大規模な発掘調査が実施されてこなかった経緯があるが，今回の調査成果を見る限り，小区画での調査であっても得る情報は非常に多い。このため，さらなる調査報告の蓄積により，当該地域の実態が明らかにされることを期待したい。

（黒須　亜希子）

引用文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要』，1984年。

調査②：京都市文化市民局，『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度，2013年。

調査③：財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（発掘調査編），1983年。

七試1区・2区：京都市文化観光局，『京都市遺跡試掘調査概報』平成3年度，1992年。

参考文献

財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『平成9年度　京都市埋蔵文化財調査概要』，1999年。

Ⅱ－2　平安京左京五条二坊七町跡（17H587）

1　調査の経緯（図10）

本件はホテル新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は下京区岩上通綾小路下る雁金町に位置し，平安京左京五条二坊七町跡の中央部にあたる。当該町に関わる資料などは確認できず，居住者などは不明である。対象地周辺では発掘調査や試掘調査などの事例はなく，様相は明らかでない。ただ周辺ではいくつかの立会調査が行われている。調査地の南西にあたる調査地１[1]ではGL-0.9 mで平安時代の土坑や包含層が確認され，対象地の北西にあたる調査２[2]では-1.05 mで平安時代後期の包含層，鎌倉時代の落込みなどが確認されている。調査３[3]ではGL-0.32 mで室町時代の包含層，-0.49 mで鎌倉時代の土坑，-0.63 ～ 0.9 mで黄褐色砂泥やにぶい褐色砂礫の地山が確認されている。調査４[4]ではGL-1.88 mで平安時代後期の包含層，-2.12 mで褐色砂泥の地山に至る。このように，対象地周辺では，平安時代や鎌倉時代，室町時代の遺構が広がっていることが想定できた。

図10　調査位置図（1：5,000）

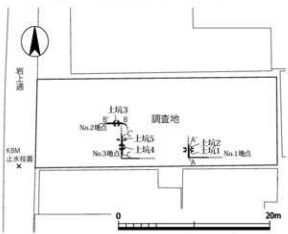


図11　遺構位置図（1：500）

2　調査成果（図11～13）

今回の調査では，№１地点（A-A'），№２地点（B-B'）及び№３地点（C-C'）の断面観察を行い，平安時代末期から鎌倉時代初頭にかけての土坑群を確認した。

№１地点（A-A'）　基本層序は，現代盛土及び近世盛土以下，GL-1.38m（BM-1.25 m）で黄褐色シルトの地山に至る。地山上面で土坑を２基（土坑１・２）確認した。土坑１は幅0.8m以上，深さ0.62mである。土坑２は，幅0.36m以上，深さ0.4mである。土坑１からは多量の土師器皿，土坑２からは青磁椀片が出土した。

№２地点（B-B'）　基本層序は，現代盛土及び暗オリーブ褐色泥砂以下，GL-0.5m（BM-0.3 m）で微砂混じる黄褐色泥砂やにぶい黄橙色砂礫の地山となる。地山上面で土坑１基（土坑３）を確認し

た。土坑３は，幅0.95ｍ，深さ0.2ｍである。

№３地点（C-C'） 基本層序は，現代盛土以下，GL-1.22（BM-0.7ｍ）ｍで固く締まる礫混じり黄褐色泥砂，-1.6m（-1.1ｍ）でにぶい黄褐色泥砂，-1.7m（-1.2ｍ）で微砂混じるにぶい黄褐色泥砂やにぶい黄橙色砂礫の地山となる。固く締まる礫混じり黄褐色泥砂上面で，土坑を２基（土坑４・５）を確認した。土坑４は幅0.78ｍ，深さ0.5ｍである。土坑５は幅0.6ｍ以上，深さ0.55ｍである。両土坑からは，小片ではあるが，鎌倉時代の土師器皿が出土している。

３　遺物（図14・15）

今回は５基の土坑を確認したものの，遺物は小片で，図化できるものは少ない。しかし土坑１（1～26）からは土師器皿がまとまって出土し，また土坑４・５の遺構面となる包含層（№３地点の３層：27・28）からも遺物が確認できたため，報告する。

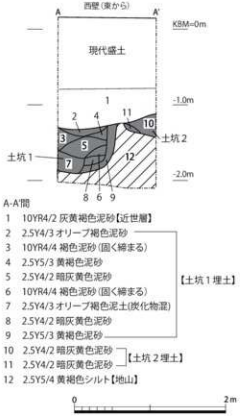


図 12　№１地点　西壁断面図（1：50）

１～25は土師器皿である。１はいわゆるコースター型，２～４は「て」の字状口縁である。15・16・23・25の口縁端部外面には面が施される。17・20・24の口縁部には二段ナデが施さ

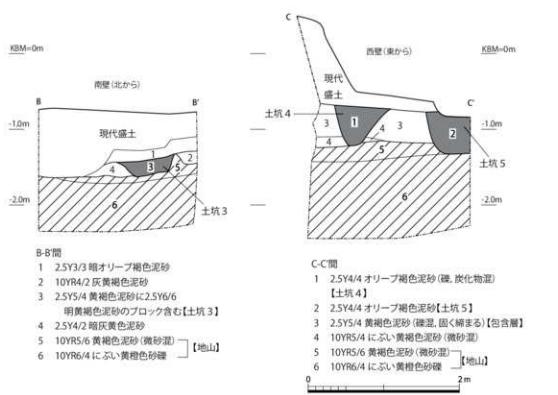


図 13　№２地点　南壁（左）・№３地点　西壁（右）断面図（1：50）

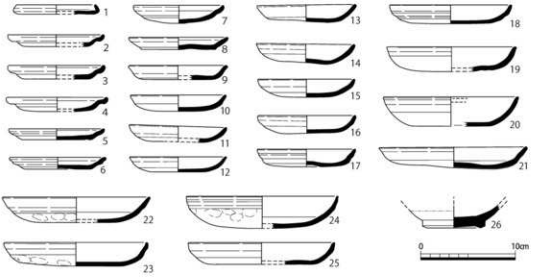


図 14　土坑 1　出土遺物実測図　(1：4)

図 15　№3 地点 3 層　出土遺物実測図　(1：4)

れる。26 は白磁椀の高台である。27 はコースター型の土師器皿，28 は須恵器甕の口縁部である。口縁部はハの字に開き外面はハケ目で 9 本で 1 単位の調整が残る。ともに平安時代末期から鎌倉時代初頭のものである。

4　まとめ

今回の調査では，平安時代末期から鎌倉時代初頭と考えられる土坑群を確認した。対象地周辺は発掘調査事例も少なく，史料などにより居住者も特定できず，様相は明らかではない。ただ，これまでの立会調査で確認されている平安時代から鎌倉時代にかけての遺構が密に広がっていることを追認できたことは，五条二坊七町内の様相を明らかにするための一資料となりえる。今後もこのような調査成果を積み重ねてゆく必要がある。　（清水　早織・奥井　智子）

註

1）「立会一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和56年度』，京都市文化観光局・(財) 京都市埋蔵文化財研究所，1982年。

2）「立会一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報　平成５年度』，京都市文化観光局・(財) 京都市埋蔵文化財研究所，1994年。

3）「立会一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』，京都市文化市民局・(財) 京都市埋蔵文化財研究所，2000年。

4）「立会一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成23年度』，京都市文化市民局，2012年。

Ⅱ-3　平安京左京五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡（17H624）

1　調査の経緯（図16）

調査地は，下京区新町通仏光寺下る岩戸山町に位置し，当該地は平安京跡および烏丸綾小路遺跡にあたる。今回，この場所でホテル建設が計画され，平成29年12月14日付けで文化財保護法第93条第１項に基づく届出が提出された。これを受けて詳細分布調査を指導したものである。なお，調査は平成30年3月19・23・26・27・30日に実施した。

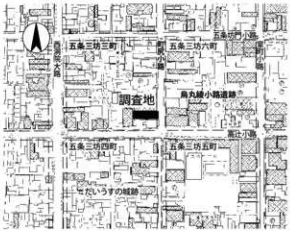


図 16　調査位置図（1：5,000）

本調査地は，平安京左京五条三坊三町跡の南東隅付近にあたり，平安時代中期に菅原是善の『白梅殿』が所在したとされる。

本町域内では，発掘調査はこれまでに実施されておらず，試掘調査については北隣地で平成10年に１件実施されているのみである。また，立会調査も10件ほどしか行われておらず，総じて調査事例が少なく不明な点が多い。これらの調査では，中世を中心とした時期の遺構・遺物などが確認されている一方で，平安時代に遡る確実な遺構はほとんど確認されておらず，平安時代の土地利用については不明確である。なお，場所によってはGL-0.55ｍで室町時代遺物包含層，-1ｍで地山が確認されており比較的浅い深度で遺構が確認される傾向にある。

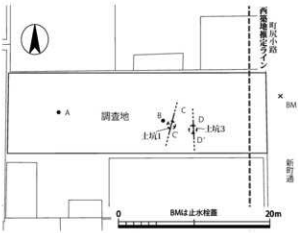
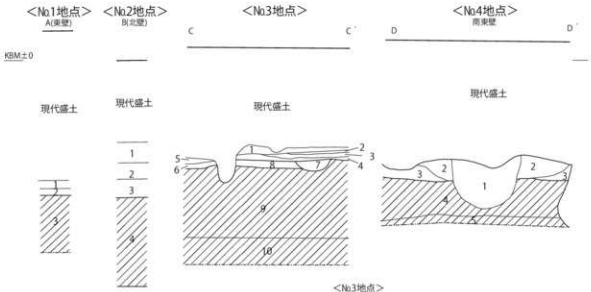


図 17　遺構位置図（1：500）

2　層序と遺構（図17・18）

層序は，現代盛土が1.1～1.5mほどの厚さであり，GL-1.6ｍで中世遺物包含層（№1地点の1層・№2地点の2層，№3地点の1～3層），-1.85ｍで平安時代末の整地層である浅黄色泥砂や黄褐色シルト（№1地点の2層・№2地点の3層，№3地点の8層，№4地点の3層），-2.15ｍ以下は地山（№1地点の3層・№2地点の4・5層，№3地点の9・10層，№4地点の4・5層）となる。



＜№1地点＞
1 2.5Y4/1 暗灰黄色泥土【室町時代遺物包含層】
2 2.5Y6/2 灰黄色微砂～シルト
3 2.5Y7/4 浅黄色粘土【地山】

＜№2地点＞
1 2.5Y4/2 暗灰黄色泥砂
2 2.5Y3/1 黒褐色泥砂
3 5Y7/3 浅黄色泥砂【平安時代後期の整地層】
4 2.5Y6/4 にぶい黄褐色シルト【地山】
5 10YR5/4 にぶい黄褐色砂礫【地山】

＜№3地点＞
1 10YR3/2 黒褐色泥砂(炭・土器片含む)【中世遺物包含層】
2 10YR2/1 黒色泥砂(炭・焼土含む)
3 10YR5/4 にぶい黄橙色シルト(固く締まる)
4 7.5Y6/2 灰オリーブ色粗砂
5 10YR6/3 にぶい黄橙色砂泥
6 10YR7/2 にぶい黄橙色泥砂
7 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト【土坑3】
8 10YR5/6 黄褐色シルト(土器細片・炭含む)【整地層か】
9 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト【地山】
10 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫【地山】

＜№4地点＞
1 10YR5/2 灰黄褐色シルト【土坑1】
2 2.5Y5/3 黄褐色シルト(土器細片・炭化物含む)【土坑2】
3 5Y7/2 灰白色シルト(細砂混じる)【整地層か】
4 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト【地山】
5 5Y7/3 浅黄色細砂【地山】

図 18　各調査地点断面図（1：60）

調査の結果，整地層や遺物包含層，中世の土坑などを検出した。

土坑1　土坑1は№4地点で確認した。土坑2(2層）を切って成立し，規模は幅1.1mで深さは0.7mとなる。埋土からは土師器や須恵器など多くの遺物が出土しており，廃棄土坑と考えられる。

土坑3　土坑3は№3地点で確認した土坑である。平安時代後期の整地層の可能性がある8層を切り込んで成立する。規模は幅0.55m，深さは0.18mである。遺物は出土しておらず時期は明確にし得ないものの，この土坑が本調査で確認したなかで唯一平安時代にさかのぼる可能性のある遺構である。

3　遺物（図19）

調査時点でおおよそコンテナ1箱分の遺物が出土した。そのほとんどの遺物は№2地点の2層と№3地点の土坑1から出土した。2層からの出土遺物は土師器皿が大半を占めるが，瓦器や須恵器等も少量含まれる。遺物は京都Ⅴ～Ⅷ期の遺物が混在して認められる。土坑1からは，土師器や須恵器，焼締陶器が出土した。量的には須恵器や焼締陶器が大半を占め，同一個体と思われる口縁部周辺の破片が多く認められるものの，全体を復元できる量はない。

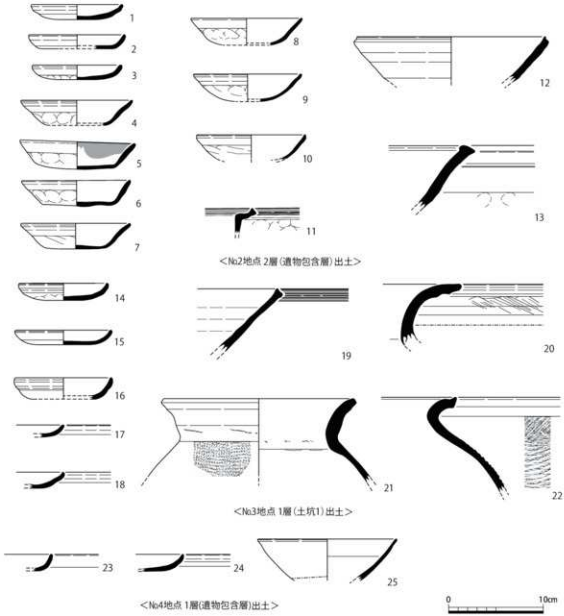


図19　出土遺物実測図（1：4）

4　まとめ

以上，本調査では各調査地点で整地層や土坑などが良好な状態で遺存しているのを確認した。確認できる遺構・遺物はそのほとんどが中世以降のものであり，周辺の調査事例と同様の傾向を示す。しかし，本調査地点では周辺と比較して多くの遺物が確認できることから，近辺にはさらに多くの遺構が展開する可能性がある。加えて，明確に時期を断定できないものの土坑3の存在や№2地点の2層出土遺物に平安時代後期にさかのぼる遺物が含まれることから，平安時代の遺構も周辺に存在する可能性が高い。今後の調査の蓄積が待たれるとともに，遺構面の深度が比較的浅く開発工事の影響を受けやすいことから注視していく必要がある。

（熊井　亮介）

Ⅱ-4　平安京左京六条四坊十五町跡（17H567）

1　調査の経緯（図20）

本件はホテル建設にともなう調査である。調査地は河原町五条交差点の北に位置し，平安京左京六条四坊十五町跡に該当する。当該地では文献史料上邸宅跡などは確認できないが，周辺には大きな邸宅等の記録があり，例えば南に位置する六条四坊十一～十四町には平安時代前期に左大臣源融の『河原院』があったとされ（『拾芥抄』），北の十六町には右大臣藤原良相が居宅の無い藤原氏の女子のために自邸内に設けた施設である「崇親院」があったという（『拾芥抄』）。これまで周辺の河原町通沿いでは，顕著な遺構・遺物が確認されていない。しかし十六町の南西で，平成26年に古代文化調査会が発掘調査（14H094）を行っており，ここでは平安時代後期～室町時代の遺構面が確認された[1]。

今回調査では，対象地の計５か所で土層の確認をおこない，A・B二箇所で土坑・落込み・ピットなどの遺構を確認したほか，A地点では少量だが平安時代末期～鎌倉時代の遺物が出土した。

図20　調査位置図（1：5,000）

図21　遺構位置図（1：1,000）

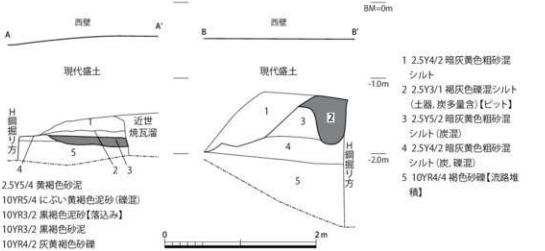


図22　遺構断面図（1：50）

2　層序と遺構（図21～25）

B地点の層序は，GL-0.7ｍまで現代盛土，-1.3ｍまで暗灰黄色粗砂混じりシルト（炭化物混），-1.6ｍまで暗灰黄色粗砂混じりシルト（炭化物・礫混），以下，掘削底である-2.5ｍまで褐色砂礫（流路堆積）であった。盛土直下において大型土坑（①層，井戸か）１基と，ピット（②層・近世前期）１基を検出した。A地点の落込みから鎌倉時代の遺物が出土している。また同地点のGL-1.2mで黒褐色泥砂からなる平安時代末期～鎌倉時代の包含層も確認している。

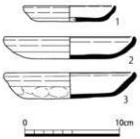


図23　出土遺物実測図（1：4）

落込みから出土した遺物は土師器皿（図23）である。１は口径10.0cm，２・３は口径14.2cmである。落込みの出土遺物が少量のため詳細な時期は不明であるが，Ⅴ期新～Ⅵ期に該当し，平安時代末期～鎌倉時代の遺物と推定される。

3　まとめ

河原町五条は鴨川の屈曲部に近く，付近の詳細分布調査では，これまで流路堆積層のみの確認に留まることが多かった。今回調査で出土した土器は少量だが，調査地の東側では，安定した包含層も確認できており，平安時代後期～鎌倉時代には当地でも生活が営まれていた可能性がある。また，敷地西端で近世の遺構が確認されたことから，近世には河原町通に面した町屋が成立していたことが推測される。

（赤松　佳奈）

註

1）『崇親院跡―平安京左京六条四坊十六町―』古代文化調査会，2015年。

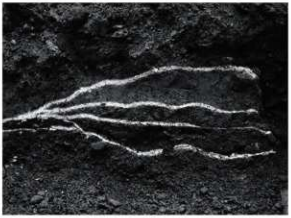


図24　落込み（A-A′間断面）（南から）

図25　ピット（B-B′間断面）（北西から）

Ⅱ-5　平安京左京八条二坊十町跡（18H205）

1　調査経過（図26）

調査地は，塩小路通と油小路通の交差点より北に位置する。平安京左京八条二坊十町の北東隅に相当し，敷地の一部が油小路の路面にかかる。今回，この区画に会社事務所の建設が計画されたため，詳細分布調査を実施した。

その結果，建設に先立つ土留め掘削工事の段階において，平安時代前期から江戸時代前期に至る包含層が良好に残存することを確認した。また，溝やピット等，複数の遺構を検出した。

このため，土留め掘削工事と並行して，部分的に調査区を設定し，遺構面の検出を行った。調査期間は平成30年10月25日～29日のうち計３日間，対象面積は16㎡（１区7.1㎡，２区8.9㎡）である。

2　位置と環境（図26）

調査地が所在する町域には，特に地歴は残されていない。安元２年（1176）に発生した次郎焼亡により，八条二坊の北半部は全焼したとされており，この町域にも少なからずその影響は及んだものと思われる。

その後も官人層が邸宅を構えることはなかったが，周辺の発掘調査成果では，町人や工人の起居を想起させる遺構及び遺物が多数発見されている。

調査区の南30ｍの地点で昭和57年度に実施された発掘調査（図26-①）では，平安時代前期～鎌倉時代の油小路路面のほか，室町時代の鋳造に関連する土坑が検出されている。

また，調査地より北へ50ｍ隔てた区画で行われた発掘調査（図26-②）では，平安時代～江戸時代に至る油小路路面や室町時代の土坑墓のほか，鏡や刀装具の鋳型を含む鋳造関連資料が多数出土した。

このため，今回の調査でも連続する遺構群の検出が予測された。

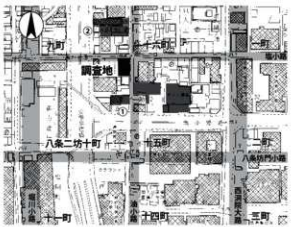


図26　調査位置図（1：5,000）

図27　遺構位置図（1：500）

3　調査成果（図27～30）

（1）基本層序

今回の調査では，掘削範囲のうち４箇所で断面観察を（図27　№１～４地点），２箇所で平面検出を行った（図27　１区・２区）。

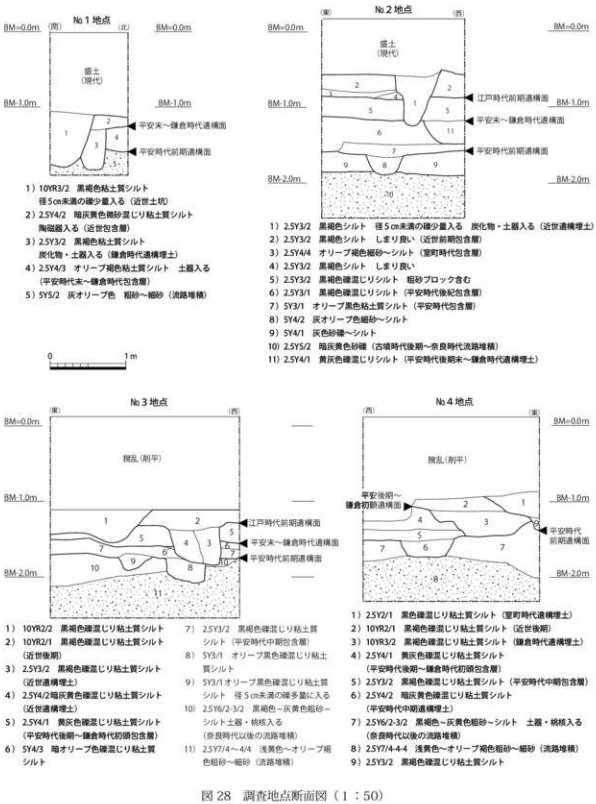
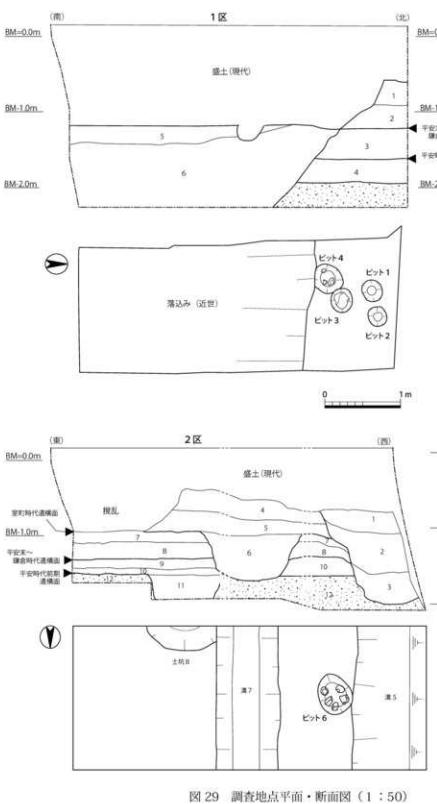


図28　調査地点断面図（１：50）

基本層序は概ねGL-0.8ｍまで現代盛土，-1.0ｍまで江戸時代前期包含層，-1.3ｍまで平安時代後期～鎌倉時代包含層，-1.5ｍまで室町時代包含層，-1.7ｍまで平安時代前期包含層があり，以下，掘削底である-2.7ｍまで奈良時代の流路堆積が続く。遺構は，それぞれの包含層の下面にあり，平安時代前期遺構面，平安時代末期～鎌倉時代初頭遺構面，室町時代遺構面，江戸時代前期遺構面が



【1区】
1）10YR2/2　黒褐色
粗砂混じり粘土質シルトに
5層ブロック30%程度入る
やや軟質　ややしまり悪い
2）2.5Y3/2　黒褐色
粗砂混じり粘土質シルト
径3cm未満の礫少量入る
土器入る　しまり悪い
3）2.5Y3/1　黒褐色
礫混じり粘土質シルト
径5cm未満の少量入る
土器多量入る
4）5Y4/2　灰オリーブ色粗砂
混じり砂質シルトに
5Y4/2灰オリーブ色シルト
ブロック30%程度入る
やや軟質
（平安時代後期整地層）
5）2.5Y3/4　暗オリーブ褐色
粘土質シルト（近世落込み）
6）2.5Y3/2　黒褐色粘土質シ
ルト（近世落込み）

【2区】
1）2.5Y3/4　暗オリーブ褐色粘土質シルトに　2.5Y5/3　黄褐色細砂ブロック10%程度入る　径3cm未満の礫少量入る　炭化物・陶磁器入る
しまり悪い（近世前期溝埋土）
2）2.5Y3/2　黒褐色粘土質シルト
径3cm未満の礫少量入る（溝埋土）
3）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る
しまり悪い
4）10YR2/2　黒褐色粗砂混じり粘土質シルトに　5層ブロック30%程度入る　やや軟質　ややしまり悪い
5）2.5Y3/2　黒褐色細砂混じり粘土質シルト　径3cm未満の礫少量入る
土器入る　しまり悪い
6）2.5Y3/2　黒褐色細砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器入る
7）2.5Y3/2　黒褐色砂礫～シルト
径5cm未満の礫少量入る
しまり悪い
8）2.5Y4/2　暗灰黄色砂礫～シルト
径3cm未満の礫少量入る
9）5Y4/2　灰オリーブ色粗砂混じり砂質シルト　5Y4/2灰オリーブ色シルトブロック30%程度入る
やや軟質（平安時代後期整地層）
10）5Y2/2　オリーブ黒色礫混じりシルト　軟質　水成層
11）5Y3/2　オリーブ黒色砂礫
ウグイス層ブロック20%程度入る
12）5Y3/2　オリーブ黒色砂礫
径3cm未満の礫多量入る
しまり悪い（流路堆積）

図 29　調査地点平面・断面図（1：50）

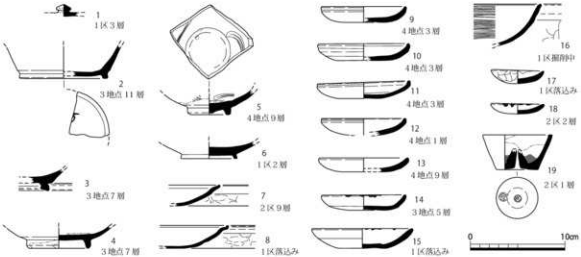


図30　出土遺物実測図（1：4）

介在する。このうち，№3地点と№4地点の平安時代前期遺構面では，宅地の内溝と推測される遺構を確認した。また，奈良時代流路堆積からは，「万」と墨書された須恵器杯身が1点出土した（図30-2）。

（2）遺構

1区では，江戸時代の大規模な落込み（井戸掘り方の可能性がある）とピット4基を検出した。ピット1，3，4は平安時代末期～鎌倉時代，ピット2は室町時代に属する。ピット3の底面には一辺20cmを測る根石が据えられている。またピット4の埋土には拳大の礫が複数含まれている。

2区では，ピット1基と溝2条，土坑1基を検出した。溝5は検出長1.9m，最大深度1.2mを測る直線溝である。№3地点，№4地点で確認できる西岸までを含めると，溝幅は1.8～2.0m程度に復原できる。江戸時代前期の油小路の西限を区切る遺構であると推測される。溝7は同じく南北方向に延びる直線溝で，検出長1.9m，最大幅1.3m，断面形状は椀形を呈する。室町時代包含層の下面において成立する。溝5と同じく油小路と宅地を限る溝である可能性があるが，№3・4地点までは連続しない。

№3地点，№4地点では，平安時代前期遺構面において成立する小溝を1条検出した。最大幅0.7mを測る遺構で，両地点の検出位置から鑑みて南北方向へのびると推測される。宅地内溝の可能性がある。

以上，平安京左京八条二坊十町内における詳細分布調査について報告した。近年，周辺地の調査では，鋳造関連遺構や遺物の出土が相次いで報告されている。これらは文献史料には見出すことができない町人や工人の生活を如実に示すものであり，当該地域の実態を示す貴重な情報であると言える。今後の開発計画には，十分な注意が必要である。

（黒須　亜希子）

註・参考文献

調査①：京都市文化観光局，財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報』，1982年。

Ⅱ-6　平安京左京九条一坊十二町跡，史跡 教王護国寺境内（28N005）

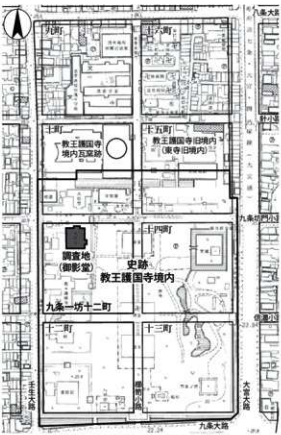


図31　調査位置図（1：5,000）

図32　調査地全景（北東から）

1　調査の経緯（図31・32・34）

東寺の伽藍北西隅に位置する築地で囲われた一角は，空海の住房空間と伝わり，「西院」と呼ばれている。中でも，寝殿が起源とされる御影堂（大師堂）は，空海持仏と伝わる秘仏不動明王坐像と弘法大師坐像が祀られた国宝建造物である。

東寺では，平成27年度より4箇年の計画で，国宝御影堂の保存修理工事を京都府教育委員会（以下，府教委という）に委託して実施している。工事では，檜皮葺屋根葺き替え等とともに，前堂（礼堂）部分の床板を全て取り外し，床材調査を実施するため（図32），府教委の協力のもと床下の確認調査を行った（図34）。なお，床材調査の結果，枘接ぎや加工工具痕等から，前堂が造営された南北朝時代の床板がそのまま使用されている可能性が指摘されている[1]。

床下調査は，平成29年10月5・6・12日，平成30年7月23･24日に実施した。調査の結果，礎石が良好に遺存するとともに，床下の基壇盛土上面は白化粧土で一面が覆われていることが明らかとなった。なお，調査，測量，写真撮影については，（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。また，白化粧土の成分分析を（公財）京都市埋蔵文化財研究所の関晃史氏，龍谷大学教授北野信彦氏から報告して頂いた。

2　御影堂の沿革（図33）

西院の創建については詳らかではなく，長保二年（1000）の『造東寺年終帳』[2]に「修理西院」とあるのが初見である。ここに記載される「寝殿」が御影堂の前身建物と考えられ，屋根修理等を行ったことが記されていることから，遅くとも10世紀には存在していたことがわかる。長治二

年（1105）には，五間四面の大師御房の檜皮葺を修理している[3]。当時は不動明王像のみが祀られていたが，延応二年（1240）に弘法大師像が現在のように内々陣に北面して安置されることとなり，御影堂が成立した（図33）[4]。合わせて御影堂御影供が開始され，弘法大師信仰の高まりとともに東寺の寺院活動において，御影堂は重要な位置を占めることとなった。

しかし，康暦元年（1379），西院西僧房より出火，御影堂を始めとする西院伽藍の全ての建物が焼失するが，朝廷及び幕府の助力もあり，早くも翌年には御影堂を再建，出火時に救出された両像の遷座も行われた。明徳元年（1390）には北面に桁行四間梁間五間の礼堂（前堂）と中門が付加され，現在みられる御影堂の構造が整えられている。

なお，御影堂御影供は現在も続けられており，今日では毎月二十一日の「弘法さん」としても親しまれ，多くの参拝者で賑わいを見せる。

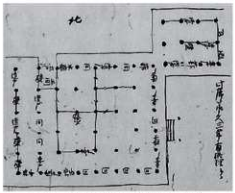
3　床下調査（図35～37）

御影堂の床下の状況から述べる。外観から見る御影堂基壇は亀腹状であるが，実際には縁先の床下のみが盛り上がる土手状となっているとされる[5]。床下には全体的に厚い塵が堆積しており，所々に小動物が運んだと思われるサンダルや菓子袋が点在するほか，小礫や木材の破片も多い。特徴的なものとして，ガラス玉や複数枚重ねられた近世の土師器皿，多数の近世以降の銭貨も認められる。

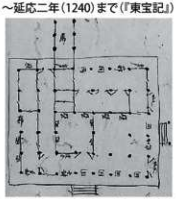
調査は，厚く堆積した塵層の除去から開始し，基壇盛土上面は全面が白化粧土で覆われていることを確認した。また，基壇上面には不定形な凹みが複数認められ，内２箇所で壁面及び断面調査を実施した。礎石及び束石については平面図及び断面図の作成を行った。

礎石調査（図35）

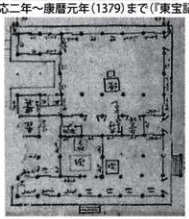
前堂は，側柱列（第１・６・一・五列）の礎石に大型



～延応二年（1240）まで（『東宝記』）



延応二年～康暦元年（1379）まで（『東宝記』）



明徳元年（1390）以降（『東寺伽藍指図』）

図33　御影堂変遷図
（『東寺と弘法大師信仰』から転載）

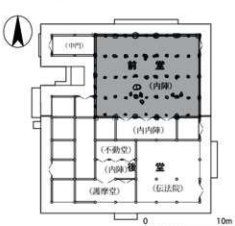


図34　調査区配置図（1：500）

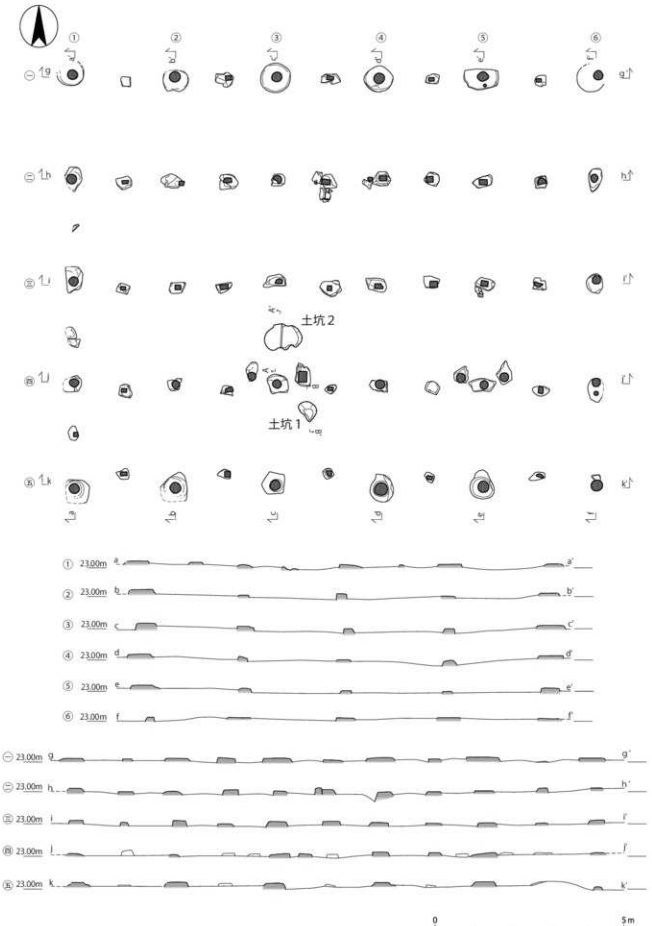


図35　床下礎石平面図（1：100）

の花崗岩を用い[6]，大引を支える束石と第四列の礎石は，ほぼ未加工の自然石であった。南北の側柱列の花崗岩は特に大型で，露出面での直径は 60 ～ 90 ㎝あり，柱座を備えるなど丁寧に加工されたものが多い。また，南側柱列（後堂北側柱列）（第五列）の礎石には被熱による剥離や亀裂が認められ，風化が進んでいるものもある（図 39）。自然石の礎石は，直径 30 ～ 50 ㎝の大きさで，石材の種類は多彩である。

礎石の裾部は白化粧土に覆われ，掘方が認められないが，束石の一部は白化粧土を掘り込んで据え付けられているものもあり，後世に据えたものがあったことがわかる。ただし，束石は基壇盛土上面に直接据えられたものも多い。

礎石天場は北側柱列（第一列）が標高 23.1m，南側柱列（第五列）が 23.2m でほぼ同一であるが，束石天場はやや不揃いである。床面は南から第二列までが僅かに高いものの，標高 23.0m 前後でほぼ平坦である。なお，西院北築地の修理に伴う発掘調査で確認された中世遺構面の標高は 22.4m 附近である[7]。

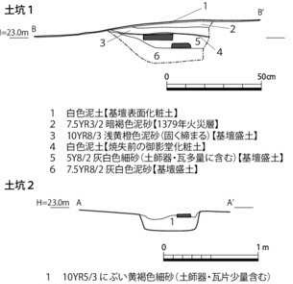


図 36　遺構実測図（1：40・1：20）

図 37　土坑 1 壁面（西から）

その他の遺構

土坑 1 壁面（基壇盛土）（図 36・37）　土坑 1 は，内々陣に安置される大師像のほぼ正面に位置し，南北 55 ㎝，東西 42 ㎝の不定形を呈す。壁面に露出する基壇盛土の観察を行った。基壇上面は化粧土と考える厚さ 0.03 ㎝の白色泥土（1 層）で覆われ，その直下に炭化物を多量に含む火災層（2 層）が 3 ㎝堆積している。GL- 4 ㎝にて固く締まった浅黄橙色泥砂の盛土（3 層）となり，- 8 ㎝にて厚さ 0.02 ㎝の白色泥土（4 層）が再び認められる。白色泥土直下には，瓦及び土師器片を多量に含む灰白色細砂（5 層），-15 ㎝にて灰白色泥砂（6 層）となり，さらに下層へと続く。5 層出土の土師器はⅢ期新段階に属するもので，10 世紀末～ 11 世紀初頭の年代が与えられる。

土坑 2（図 36）　土坑 2 は，第三・四列間に位置する。東西方向の楕円形を呈し，東西 100 ㎝，南北 60 ㎝，深さ 15 ㎝の土坑である。埋土は締まりの無いにぶい黄褐色細砂で，土師器・瓦片を含む。

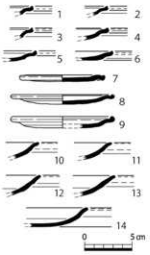


図 38　出土遺物実測図（1：4）

4　遺物（図38）

遺物は，土師器皿，ガラス玉等を確認したが，土坑1壁面5層から出土した土師器皿の一部をサンプルとして持ち帰ったのみであり，他は全て現地保存している。

1～14は全て土師器皿又は坏である。口縁端部は外半し，上方に突起する形状のいわゆる「ての字状口縁」と呼ばれる皿（1～9）と，口縁部が外反したままの皿又は坏（10～14）がある。口径が復元できる7～9は，7が8.8㎝，8・9が10.6㎝である。Ⅲ期新段階に属するもので，10世紀末から11世紀初頭の年代が与えられる。

5　まとめ

前堂の床材調査では，南北朝期の造営時の床材がそのまま使用されている可能性が提示されている。床下調査では，東石に基壇上面を覆う白化粧土を掘り込む掘方が認められるものの，礎石には掘方があるものは認められず，造営後，現在に至るまで床下に及ぶ大規模修理は行われなかったとの見解を補強する成果となった。また，南側柱列（第五列）の礎石には被熱による剥離，亀裂が認められることから，康暦元年（1379）に被災した状態を示していると考えられ，焼失前の礎石を再利用していることになり，再建された御影堂は柱位置や規模を踏襲しているものと捉えられよう。土坑1壁面で確認した現基壇上面の白化粧土直下に炭化物を多量に含む火災層が認められることも，これを裏付けられる。

また，注目すべき成果としては，基壇盛土断面に，ある時期の基壇化粧土と考えられる白色泥土（土坑1-4層）が認められたことである。泥土層直下には10世紀末から11世紀初頭の年代を示す土師器皿を多量に含む盛土層があり，同時期に御影堂の基壇にも手が加えられる大規模な造成が行われた可能性が高い。史料からは長保二年（1000）に西院を修理したことがわかっているが，記載された対象箇所は屋根，遺戸，天井，爐であり[8]，床下に手を加えた記録はなく，今後検討すべき課題といえよう。

（西森　正晃）

図 39　風化が進む南側柱列の礎石

註

1）修理担当の京都府教育委員会文化財保護課長鶴岡典慶氏による。

2）『東寺と弘法大師信仰』東寺宝物館，2001年に掲載。

3）『東寺修理文書案』2）に同じ。

4）2）に同じ。

5）『東寺の建造物』東寺宝物館，1995年による。

6）側柱の礎石の中で，南東隅のみ凝灰岩である。

7）第16回教王護国寺境内史跡等保存整備事業委員会資料による。

8）『造東寺年終帳』による。2）に同じ。

付　東寺御影堂（大師堂）の白色資料に関する分析報告（図 40）

東寺御影堂（大師堂）の床面で検出した白色資料について，サンプリングした試料の分析で得られた結果を以下に報告する。

白色資料の出土時に想定された材質として，土間などによく利用される「漆喰」の可能性が挙げられた。そこで，漆喰の主成分となる炭酸カルシウムの含有を確認するため，稀塩酸を滴下する反応試験を実施したが，炭酸カルシウムの特徴である発泡反応は認められず，続いて蛍光 X 線を用いた材質調査を実施した。

分析には龍谷大学文学部文化財科学室設置の蛍光 X 線分析装置（(株) 堀場製作所 MESA-500 型）を使用した。分析時の設定条件は以下の通りである。分析時間は 600 秒，試料室内は真空，X 線管電圧は 15kV および 50kV，電流は 240 μ A および 20 μ A，検出強度は 200.0 ～ 120.0cps である。

蛍光 X 線分析の結果，検出された元素は主に Fe（鉄）や Ca（カルシウム），Si（ケイ素），Ti（チ

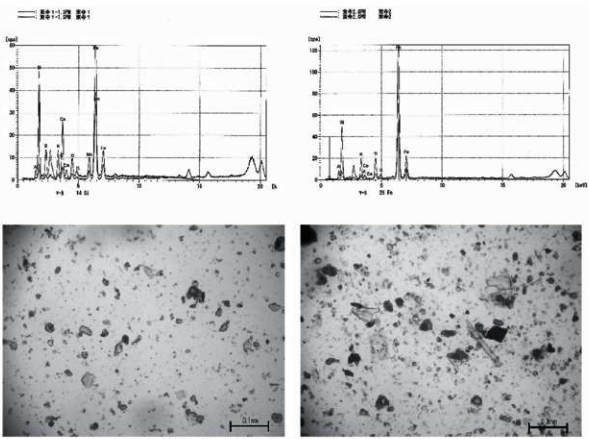


図 40　蛍光 X 線スペクトル（上）と生物顕微鏡拡大画像（下）

タン）などであり，顔料というよりは土壌を分析した際に得られる元素といえる（図⑩上）。また，生物顕微鏡並びに鉱物用偏光顕微鏡を用いた観察から，試料中に微細なガラス質火山灰と考えられる粒子の含有を確認した（図 40 下）。これにより，白色資料の色調は火山灰によるものの可能性が高いと判断した。

以上の結果，白色資料については壁などの上塗り層に使用される意味での「白土」である可能性は高いといえる。これまでに白土が出土している市内の遺跡としては（公財）京都市埋蔵文化財研究所が行った調査成果から，平安京右京五条三坊三町跡の建物柱穴[7]や，堀河院跡の池 1810[8]，平安京左京四条一坊二町跡の石組溝 262[9]で確認されており，これらは全て火山ガラスを主体とした白土が壁土の仕上げとして塗られたものと判断がなされている。但し，本稿で述べた東寺御影堂の白色資料に含まれていた火山ガラスに関しては，その可能性を示唆するに留まり，今後の地球科学分野における，より精緻な分析が待たれる。

（関　晃史）（公財）京都市埋蔵文化財研究所

（北野　信彦）龍谷大学文学部教授

註

7）『平安京右京五条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-2，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2005 年。

8）『平安京左京三条二坊十町（堀河院）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-17，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2008 年。

9）『平安京左京四条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-10，（公財）京都市埋蔵文化財研究所，2015 年。

Ⅲ-1　平安京右京三条一坊十一町跡，壬生遺跡（18H481）

1　調査経過（図41）

調査地は，JR山陰線二条駅の西に位置する。御池通と六軒町通の交差点の南西にあたり，平安京右京三条一坊十一町の北東隅に相当する。また，弥生時代の集落遺跡である壬生遺跡にも含まれている。今回，この区画に保育所の建設が計画されたため，詳細分布調査を実施した。

この町域には，特に地歴は残されていない。しかし，発掘調査による成果は顕著で，平安時代を中心とした遺構の発見が報告されている。調査区より南へ50ｍ隔てた区画において昭和61年度に実施された試掘調査では，GL-0.8ｍの深度において平安時代前期の包含層が確認された（図41-①）。また，調査地の北側隣接地において平成18年度に試掘調査が行われており，GL-0.15～0.6ｍの深度において，平安時代前期に遡る柱穴，土坑のほか，皇嘉門大路の西側溝が確認されている（図41-②）。さらに同敷地内で行われた詳細分布調査では，GL-1.1ｍの深度において平安時代後期の池状遺構が確認された。これらの成果を受けて，工事計画は変更され，遺構面が保護されるに至っている。

以上のことから，今回の調査においても，連続する遺構面の存在が予測された。

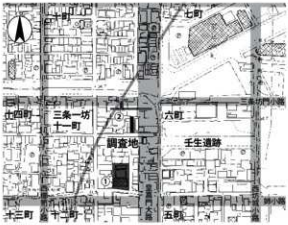


図41　調査位置図（1：5,000）

2　調査成果（図42～44）

（1）基本層序

調査地は，間口が狭く南北に長い形状の敷地である。今回の調査では，建物計画範囲の北東部において遺構検出を行った。

基本層序は，GL-0.35ｍまで盛土，-0.4ｍまで黒褐色細砂混じりシルト（室町時代包含層），-0.55ｍまで暗オリーブ褐色礫混じりシルト（平安時代前期包含層）があり，その直下に黄褐色砂質シルトを主体とする地山が存在する。遺構面は，この地山上面で検出した。

中近世包含層からは，瓦質土器鉢，施釉陶器，

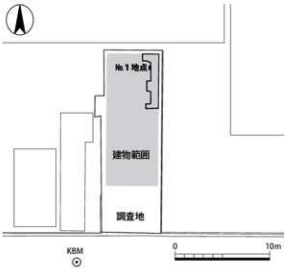


図42　調査地点位置図（1：400）

白磁等が出土した。また平安時代前期包含層からは，土師器甕や皿の細片が出土した。

（2）遺構と遺物

遺構面は，敷地の北東部の標高がもっとも高く，南，西に向かって徐々に下がる。このため，北東部では基礎掘削を終えた段階で遺構が露出していた。今回は，この範囲について報告する。

遺構面では，土坑２基，ピット１基，溝２条を検出した。遺構は，それぞれ古墳時代後期，平安時代中期，室町時代の３時期に属する。ピット１は，調査区北半部において検出した遺構で，平面形状は径0.35ｍを測る円形を呈する。断面形状は碗形で，最大深度は0.2ｍを測る。遺構内には一辺20㎝を測る根石が配されていた。埋土から須恵器鉢，土師器皿，黒色土器椀，平瓦の破片が出土した。10世紀後半の遺構である。

溝４は，北北西－南南東方向にのびる溝で，北端と南端が屈曲してともに西へ続く。検出長は3.7ｍ，最大幅は0.28ｍを測る。残存深度は浅く，埋土は褐色礫混じりシルトを主体とする。その形状から，竪穴建物の壁溝である可能性が考えられる。埋土からは須恵器甕の破片が出土した。６世紀末～７世紀の遺構である。

以上，平安右京三条一坊十一町跡および壬生遺跡における詳細分布調査について報告した。限られた範囲の調査ではあるが，周辺の調査報告を追認する成果となる。なお今回の対象地では，大部分の遺構面が包含層に保護されるかたちで残存する。このため，今後の開発計画には，十分な注意が必要である。

（黒須　亜希子）

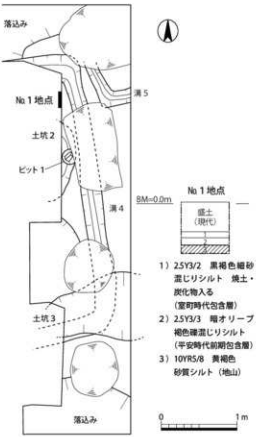


図 43　遺構平面・断面図（1：50）

図 44　遺構検出状況（南から）

引用文献

調査①：京都市文化観光局，財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度，1987年。

調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成18年度，2007年。

Ⅲ-2　平安京右京九条一坊十三・十四町跡，史跡 西寺跡，唐橋遺跡（28C090）

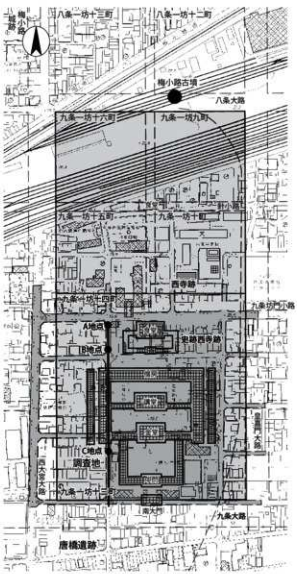


図45　調査位置図（1：5,000）

1　調査の経緯（図45）

本件は，南区唐橋西寺町地先における排水管敷設工事に伴う調査で，史跡西寺跡及び平安京跡，唐橋遺跡に該当する。対象となる工事は，西寺の伽藍西側を南北に貫くもので，途中西僧房を縦断することが想定された。調査期間は，平成29年5月31日から翌年1月11日までの間で，延べ22日に亘り実施した。

西僧房では，これまで数度の発掘調査及び試掘調査を実施しており，礎石抜取穴を6基，柱穴2基，ピット，基壇盛土及び雨落ち溝が確認されている[1]。今回は，西僧房に関連する遺構や伽藍内の土地利用状況に関する情報を得ることを目的とした。

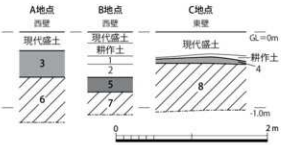
調査の結果，西僧房跡では明確な痕跡は認められなかったものの，西寺期の整地層及び弥生時代から古墳時代にかけての集落跡とされる唐橋遺跡に属する遺構・遺物を確認した。

2　遺構・遺物（図46～48）

層序は，対象地全域でほぼ共通しており，現代盛土，耕作土と続き，GL-0.23～0.42mで西寺期の遺物を含む整地層，GL-0.4～0.8mにて灰色～黄灰色，灰黄色砂礫の地山となる。整地層の厚みは場所によって異なり，0.1～0.35mが残る。整地層以外の遺構では，B地点のGL-0.6mにて，地山が成立面と考えられる深さ0.2mの落ち込みがある。遺物は，A地点の整地層から平安時代前期の軒丸瓦，B地点の落ち込みから土師器甕片が出土した。

図48-1は，土師器甕の頸部である。2は，複弁八葉蓮華文軒丸瓦で，中房は大きく圏線で縁取り，蓮子は1+6である。蓮弁は幅広く盛り上がり，間弁は弁端に接する。瓦当裏面には丸瓦を当て，粘土を当てて接合している。牧之阪瓦窯産か。

図 46　調査地点位置図（1：500）



1　10YR4/1 褐灰色シルト
2　10YR3/1 黒褐色シルト（径5cm以下礫混）
3　5Y5/1 灰色泥土（瓦含）【平安時代整地層】
4　10YR5/8 黄褐色シルト（土器，炭含）【平安時代整地層】
5　2.5Y5/1 黄灰色砂泥（土器含）【弥生時代落込】
6　7.5Y4/1 灰色砂礫【地山】
7　2.5Y4/1 黄灰色砂礫【地山】
8　10YR4/2 灰黄褐色砂礫【地山】

図 47　各調査地点断面柱状図（1：50）

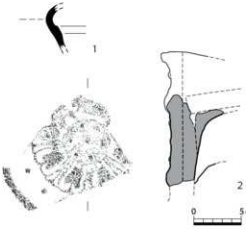


図 48　出土遺物実測図（1：4）

3　まとめ

今回の調査では，西僧房の痕跡は確認できなかったが，西寺期の整地層が広範囲に残存していることを改めて確認できた。遺構面が浅いため，低い基壇と想定される西僧房は削平を受けているものと考えられよう。　（西森　正晃）

註

1）杉山信三『史跡西寺跡』鳥羽離宮跡調査研究所，1979年。
長宗繁一「西寺跡発掘調査　第19次発掘調査」『平安京跡発掘調査報告　昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター，1981年。
「史跡西寺跡」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成9年度』京都市文化市民局，1998年。

Ⅳ-1　愛宕山遺跡（17A007）

1　はじめに（図49）

本件は，市内北西に位置する愛宕山（標高924m）頂上に鎮座する愛宕神社境内で採集した江戸時代前半を主体とする陶磁器類を報告するものである。

平成29年11月24日，京都市考古資料館に愛宕神社の元権禰宜である岡本周次郎氏が陶磁器等を持参され，同館に寄託された。陶磁器は17世紀前半に属するもので，皿，擂鉢等の什器以外に，茶の湯の席で用いる向付等が複数認められ，当時大流行したいわゆる桃山茶陶が含まれていることが明らかになった[1]。後日，岡本氏より採集地点の案内を受け，白雲寺宿坊が所在したと考えられる頂上直下の平場群の一つから続く急斜面に遺物が散布していることを確認した（図49・A地点）（図50・51）。また，散布地点周辺の踏査を行った結果，北側の異なる平場横の緩い谷部においても陶磁器類の散布を確認した（図49・B地点）。この事態を受け，土砂の流出が進むことで遺物が散逸する恐れがあるため，平成29年12月2・11日，平成30年3月23日，4月8日，8月1・5日に踏査を行い，表採に努めた。なお，踏査には平尾政幸氏，南孝雄氏，齋卓史氏の協力を得た。

愛宕山は，平安京の北西（乾）に位置することから，比叡山とともに王城鎮護の霊山として重要視され，古くから神仏習合が進み，廃仏毀釈までは頂上に神宮寺である白雲寺が所在した。本尊に勝軍地蔵を，奥之院には太郎坊大権現が祀られ，頂上付近には室町時代後半以降，愛宕五坊（長床坊・教学院・大善院・威徳院・福寿院）と称される宿坊があり，多方面から多くの信仰を集めていた。

ここでは，遺跡・遺物保護の観点から，詳細な出土場所を示すことは差し控えたい。

図49　採集地点位置図（1：5,000）

図 50　採集地点（A 地点）現況（北から）

図 51　遺物散布状況（東から）

2　遺物（図52～60，表5～7）

採集遺物は，安土桃山時代から江戸時代前半にかけての陶磁器類等で，国産施釉陶器，焼締陶器，土師器を始め，輸入陶磁器や国産磁器，金属製品等も含まれる（表５）。施釉陶器が占める割合が65％と高く，次いで土師器，輸入陶磁器，焼締陶器と続く。施釉陶器は，美濃産が８割以上を占め，他に唐津産や少量であるが高取産も認められる。焼締陶器では，信楽，備前，丹波産があり，東南アジア産のものもある。磁器類では明染付が多く，少量ながら国産の磁器類も含まれる。

また，後述するように，A 地点・B 地点ともに隣接する平場に宿坊が営まれていたと想定でき，文献資料から廃棄年代の下限が特定できることから，採集地点を分けずに報告を行う。個別の採集地点については，表６・７の遺物観察表を参照頂きたい。

１～50 は美濃産の施釉陶器である。１～23 は長石釉製品（図 52）で，菊皿，丸皿，鉄絵丸皿，志野皿があり，採集品の中で占める割合が高い。いずれもロクロ成形で，高台を削り出す。１～３は菊皿で，口縁部を花弁の先端状に切り取る。１は内面のみを丸ノミで菊花状に削り出す。２・３は内面に加え，外面側面に縦方向に沈線を入れ，菊花状に削り出している。４～11 は丸皿で，口径分布は 11.0 ～ 12.5 ㎝である。口縁部がやや内傾するもの（４～７）と外反する端反皿（８～ 11）が認められる。大半が内外面ともに１～３か所のトチン跡を残す。８は釉が透明で，貫入が入る。11 も釉の発色が良好である。やや器高が高く 3.2 ㎝ある。12 は釉が厚くかかり，貫入が入る志野釉の丸皿で，内面側面に鉄絵で袖垣を描く。口縁部は外反する。13 ～ 23 は鉄絵丸皿で，口径は 11.6 ～ 12.4 ㎝である。13 ～ 16 は，内面の口縁部及び体部と底部の境目の圏線の間に，花唐草を配す。見込みの文様は退化した飛鳥文と思われ，二重線で囲うもの（13・16）と囲わないもの（15）がある。内外面ともに１～３か所のトチン跡が残ものが多いが，16 の底部には輪トチン跡が残る。17 ～ 23 は見込みに笹を描いたもので，体部と底部の境目の２重又は１重線で囲う。

24 ～ 43 は織部製品である（図 53）。24 ～ 30 は筒向付である。24・25 は青織部で，型作り成型で内面に布目が残る。外面に銅緑釉を施す。25 は外面に鉄絵で縦縞を描き，長石釉，銅緑釉

表5　表採資料組成表

種別	産地	種類	器形	点数	比率	
土師器	京都	土師器	皿	43	18.1%	
			壷	1		
土師器　計				44		
施釉陶器	美濃	織部	向付・鉢	40	83.5%	65.0%
		志野	向付・鉢	2		
			皿	3		
			不明	1		
		志野	向付・鉢	8		
			皿	6		
			不明	1		
		長石釉	皿	52		
			碗・鉢	1		
		灰釉	皿	7		
		鉄釉	不明	1		
		御深井釉	向付・鉢	2		
		白釉	皿	2		
		御深井釉	向付	5		
			その他・不明	1		
	唐津・高取	灰釉	皿	15	16.5%	
			碗・鉢	3		
			壷	4		
			水指	1		
			不明	1		
		絵唐津	向付	1		
			皿	1		
施釉陶器　計				158	100.0%	
焼締陶器	備前		擂鉢	1		7.4%
			壷・甕	3		
			小坏	1		
			鉢	1		
	丹波		擂鉢	6		
	信楽		擂鉢	1		
			水指又は花入	1		
			甕	1		
	南蛮		鉢	1		
	不明		甕・鉢	2		
焼締陶器　計				18		
磁器	中国	明染付	碗・皿	15		9.5%
		餅花手	皿	1		
		白磁	合子	1		
		青白磁	不明	1		
	伊万里		碗・皿	5		
磁器　計				23		
合計				243	100.0%	

を施す。26は鳴海織部で，ロクロ成形で高台を削り出す。白色土に鬼板を掛け，長石釉を施す。内面及び外面底部近くまで施釉している。27は織部で，ロクロ成形で高台を削り出す。外面体部に鉄絵で文様を描き，長石釉を施す。28は志野織部で，ロクロ成形後，押圧により変形させている。外面口縁部に列点，体部に紅葉を施す。29は鼠志野で，ロクロ成型後に型打ちで四方を入隅としている。碁笥底である。白土に鬼板を施した後に文様を掻き落とし，長石釉を施す。30は青織部で，ロクロ成形後，押圧により変形させている。31はタタラ型打ち成型の鳴海織部の平向付であるが，胎土は白色土で，一部に鬼板を掛け，鉄絵で格子や梅を描き，長石釉を施す。32は青織部筒向付の体部で，型打ち成形で内面に布目を残す。外面に鉄絵で格子に点を描き，長石釉，銅緑釉を施す。33は織部平向付で，外面底部に紐環足を貼り付ける。内面には鉄絵で吊るし柿，唐草，格子に点

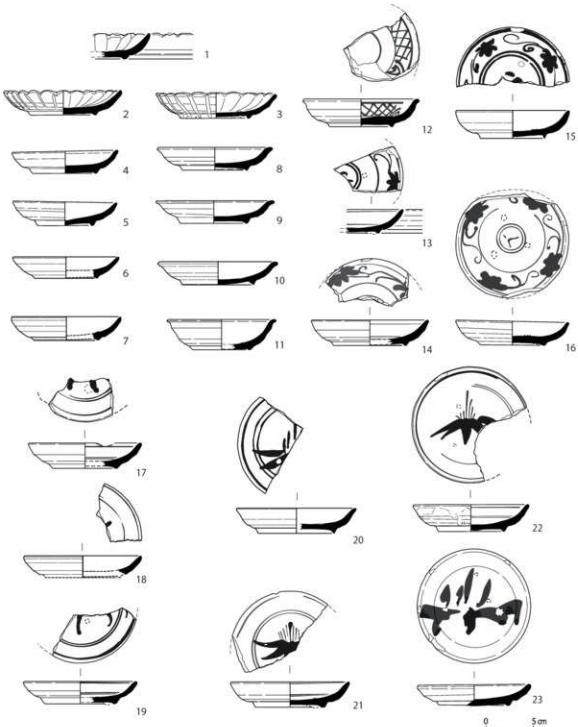


図 52　遺物実測図 1（1：4）

を描き，長石釉を施す。内面にトチン跡が残る。34 はロクロ成形の志野織部鉢の口縁部である。内外面に鉄絵で草花を描き，長石釉を施す。35 は鼠志野鉢又は向付の口縁部である。口縁部は大きく開き，掻き落としで草文を描く。内外面ともに白土に鬼板を施した後に長石釉が施されている。36 は織部鉢又は向付の口縁部で，外側に大きく開く。内面には口縁部に鉄絵で縦縞文を描き，長石釉を施す。37 は志野織部鉢の体部から底部で，底部には 3 箇所に紐環足が貼り付く。見込みに

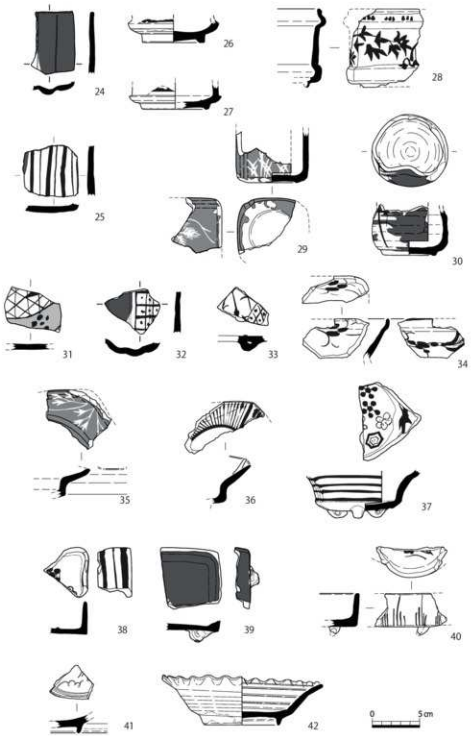


図 53　遺物実測図２（1：4）

は梅花，亀甲を配し，体部に紅葉，外面体部に横縞を描き，長石釉を施す。38・39 はタタラ型打ち成型の織部平向付である。38 は内面に梅花，外面に横縞を描き，長石釉を施す。内面にはトチン跡が残る。39 は外面底部にはケズリ痕が明瞭に認められる。貼付け紐環足が 1 か所残り，設置面に銅緑釉が付着する。40 は型作りの織部平向付で，見込みと外側面に鉄絵で文様を描き，長石釉を施す。外面底部に一か所の貼付け紐環足が残る。41・42 はロクロ成形した総織部である。

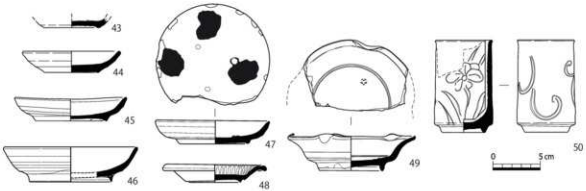


図 54　遺物実測図 3（1：4）

41 は碗で，内面に掻き落としで文様を描き，銅緑釉を施す。42 は内外面ともに全面施釉しており，口縁端部をヘラでヒダをつけ，内面側面に 5 条の沈線を巡らす。

43 ～ 50 は灰釉系の製品である（図 54）。43 は内外面ともに施釉する小皿で，両面に輪トチン跡が残る。44 は全面施釉された丸皿で，高台内に輪トチン跡が残る。45 は丸皿で，内外面に 3 か所のトチン跡がある。46 は胎土が硬質の中皿で，貼付け高台である。47 は内面に緑彩を施し，全面に灰釉を施す丸皿である。内外面にトチン跡が 3 箇所の残る。48 は折縁ソギ皿である。口縁部は外反し，端部はやや肥厚する。内外面に輪トチン跡がある。49・50 は御深井釉である。49 は鉢でロクロ成形後，口縁端部をおさえ，内側に折り曲げている。内面の体部と底部との境目に

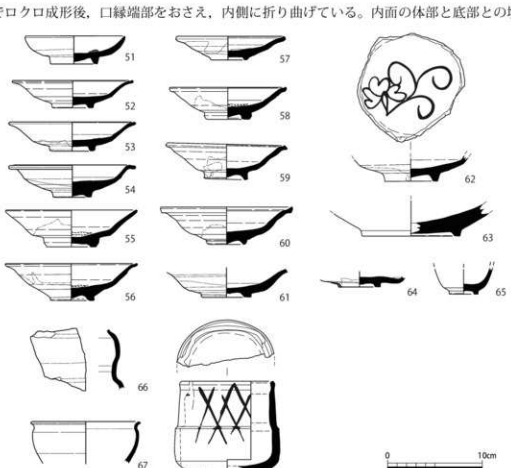


図 55　遺物実測図 4（1：4）

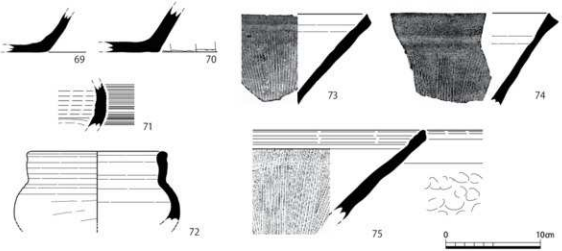


図 56　遺物実測図 5（1：4）

沈線を巡らす。内面にトチン跡が 2 か所残る。50 はロクロ成形の筒向付である。外面に沈線で花文（アヤメか）及び釣り針状の文様を描き，御深井釉を全面に施す。高台内に輪トチン跡がある。

51 ～ 68 は唐津産の施釉陶器である（図 55）。51 ～ 61 は灰釉の皿で，同一器種では美濃長石釉丸皿に次いで高い割合を示す。口径 12 ～ 13 ㎝の口径のものが多く，口縁部が内湾して立ち上

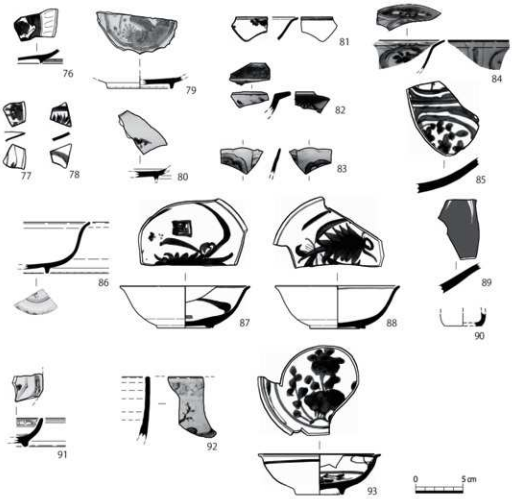


図 57　遺物実測図 6（1：4）

がるもの（51），体部中ほどで屈曲し，口縁端部が外反するもの（52 ～ 54・56）と直線的なもの（55）や口縁端部が外反し，上方に摘み上げられたもの（57 ～ 60）などがある。いずれも釉薬を内面から外面体部下半まで施し，内外面に3か所の胎土目又は砂目を残すものが大半である。62は絵唐津の鉢又は向付である。見込みに鉄絵で草文を描き，灰釉を施す。63は大鉢の底部で，内面に灰釉を施す。64は灰釉の皿底部か。やや歪んでおり，体部が下る。65は飴釉が施された水指の破片と思われる。内外面ともに施釉されている。器壁が薄く高取産の可能性がある。66は鉢で口縁は外反する。土灰釉が施されているが，焼成不良のため，無釉に見える。67は灰釉の壷底部である。68は絵唐津の筒向付である。ロクロ成形後，押圧により変形させている。外面に鉄絵で草文を描き，灰釉を施す。

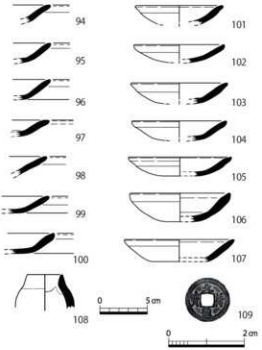


図58　遺物実測図7（1：4）及び拓影（1：2）

69 ～ 75は焼締陶器である（図56）。69・70は備前産で，69は鉢，70は甕底部である。71はヴェトナム産と考えられる鉢体部である。外面に横方向に糸目をつける。72は備前産と思われる小型の壷で建水の可能性もある。73 ～ 75は丹波産の擂鉢で，73が擂目6条，74が7条，75が10条である。

76 ～ 90は輸入磁器（図57）である。89の藍地餅花手と90の白磁を除き，全て明～清初の染付である。小型の製品が多く，小皿や小碗が多い。81・83・84・86 ～ 88は碗，90は合子以外は皿類である。87・88は文様が共通する組物の碗で，清代初頭まで下る可能性がある。91 ～ 93は肥前産の磁器で，91・93は高台に砂が付着する。91は小型の角皿，92は半筒碗か。93は染付の碗である。

94 ～ 107は土師器皿，108は土師器小壺，109は銭貨である（図58）。土師器は破片が多く，口径が復元できるものは少ないが，9㎝代前半～ 10㎝代のものが多い。口縁端部に端面を持つもの（94 ～ 99･107）と器壁がやや肥厚し，口縁端部がやや丸みを持つもの（100 ～ 106）がある。Ⅺ期中～新段階に属するもので，17世紀第二四半期を中心とした年代が与えられる。108は塩壺として用いられたものである。109は「元符通寶」で，北宋の元符元年（1098）年に鋳造された北宋銭である。

表6　遺物観察表（1）

No.	産地	種別	器種	成形	底部	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	採集地点
1		長石釉	鬼瓫	ロクロ	削り出し高台	20			2.7			A
2		長石釉	鬼瓫	ロクロ	削り出し高台	95	12.2	6.8	2.6		目跡：内外面3	A
3		長石釉	鬼瓫	ロクロ	削り出し高台	70	12.5	7.2	2.8		目跡：内外面3	B
4		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.0	6.7	2.4		目跡：内面3	A
5		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	10.8	5.4	2.6		目跡：内外面3	A
6		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15	11.2	6.4	2.3			A
7		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	10	11.6	6.8	2.6			A
8		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	55	12.0	6.8	2.4		釉が良く溶ける，貫入あり 目跡：内面2，外面3	A
9		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	100	12.3	6.9	2.4		目跡：内外面3	A
10		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	25	12.4	7.2	2.5		目跡：内外面1	A
11		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	45	11.2	6.2	3.2		釉がよく溶ける	A
12		志野	丸皿	ロクロ	削り出し高台	25	12.0	6.8	3.0	内面側面：袖垣か	目跡：外面1	A
13		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15			2.5	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A
14		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	30	12.2	7.6	2.7	内面：側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A
15		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.0	6.8	3.0	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A
16		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	80	11.7	6.7	2.7	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内面3，外面輪トチン	不明
17		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	20	11.8	6.8	2.7	内面：見込に笹？	目跡：内外面1	A
18		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15	12.4		(2.0)	内面：見込に笹？		A
19		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	30	11.8	7.2	2.4		目跡：内外面1	A
20		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	35	12.4	8.0	2.7	内面：見込に笹	目跡：内面1，外面2	A
21		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	40	12.4	7.3	2.7	内面：見込に笹	目跡：内面1，外面2	A
22		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	75	12.0	6.9	2.9	内面：見込に笹	目跡：内面2，外面3。釉が厚く，火示くれあり	A
23		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.6	7.4	2.2	内面：見込に笹	目跡：内面4，外面5。文様が粗雑	B
24	美濃	織部	陰向付	型打ち		5					内面に布目残る。青織部	A
25		織部	陰向付	型打ち		5				外面：鉄絵で縦縞	内面に布目残る。青織部	A
26		織部	陰向付	ロクロ	削り出し高台	15		6.4		外面：不明	電海織部	A
27		織部	陰向付	ロクロ	削り出し高台	5		6.4	(2.5)	外面：不明	目跡：内面1	A
28		織部	陰向付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40			8.3	外面：列点，紅葉		A
29		鼠志野	陰向付	ロクロ後型打ち	削り出し碁笥底	30		5.0	(5.3)		目跡：内面2	A
30		織部	陰向付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40		5.6	(5.3)			A
31		織部	向付	タタラ型打ち							白色土に発板	不明
32		織部	向付	ロクロ後型打ち？		5						A
33		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け縁環足						目跡：内面1	A
34		鼠志野	鉢	ロクロ					(4.1)	内外面：草花		不明
35		織部	鉢	ロクロ		15			(3.0)	内面：草		A
36		織部	鉢	ロクロ後押圧		15			(4.7)	内面：縦縞	志野織部	A
37		織部	鉢	ロクロ	貼り付け縁環足	30			(5.2)	内面：梅花，亀甲，紅葉 外面：横縞	目跡：外面1。志野織部	A
38		織部	向付	タタラ型打ち		5				内面：梅花，外面：横縞	目跡：内面1，内面布目痕	B
39		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け縁環足	10					底部外面ケズリ，青織部，内面布目痕	B
40		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け縁環足	10			(4.3)	内面：不明，外面：縦縞	内面布目痕	A
41		織部	碗	ロクロ	削り出し高台	5			(1.8)	内面：不明	総織部	A
42		織部	鉢	ロクロ	削り出し高台	70	16.8	7.6	5.3	内面：5条の圏線	目跡：内外面3。総織部	A
43		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40		5.8	(1.0)		目跡：内外面輪トチン	A
44		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	10	5.6	2.3		目跡：外面輪トチン。総釉	B
45		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.6	7.5	2.5		目跡：内外面3	A
46		灰釉	皿	ロクロ	貼付け輪高台	10	14.4	8.8	3.7		目跡：重ね焼き	A
47		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	80	12.0	7.2	2.6	内面：3ヵ所の圏線彩	目跡：内外面3	A
48		灰釉	鉢縁へ平底	ロクロ	削り出し高台	60	10.8	5.2	2.0		目跡：内外面輪トチン	A
49		御深井釉	鉢	ロクロ	削り出し高台	45	11.4	6.6	4.0		目跡：内外面2	A
50		御深井釉	陰向付	ロクロ	削り出し高台	70	5.8	4.5	9.8	外面：花，釣り針？	目跡：外面輪トチン。総釉	A

表7　遺物観察表（2）

No.	産地	種別	器種	成形	底部	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	採集地点
51		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	10.8	4.9	3.0		目跡：内面胎土目	A
52		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.6	4.2	2.9		目跡：内外面胎土目。総釉	B
53		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	13.2	4.6	3.1		目跡：内外面胎土目	B
54		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	80	13.2	4.0	3.5		目跡：内外面胎土目	B
55		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	13.8	5.2	3.9		目跡：内外面砂目	B
56		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	13.8	4.5	3.9		目跡：内外面胎土目	B
57		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	55	12.2	3.6	2.6		目跡：内外面胎土目	B
58		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.0	6.5	3.4		目跡：内外面胎土目	B
59		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	12.4		3.9		目跡：内外面胎土目	A
60		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	13.8		4.0		目跡：内外面胎土目	A
61		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70		5.2	(3.0)		目跡：外面胎土目	B
62		絵唐津	鉢	ロクロ	削り出し高台	60		5.6	(2.4)	内面：草花		A
63		灰釉	大皿	ロクロ	削り出し高台	40		10.2	(3.3)			A
64		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台			4.3	(1.2)		目跡：外面胎土目	B
65		鉄釉	水指か	ロクロ							高取産か	B
66		灰釉	鉢	ロクロ		20	11.0		(4.4)		焼成不良	A
67		釉	小壺	ロクロ	削り出し高台	40		3.0	(2.6)			B
68		絵唐津	陶硯付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40		5.6	10.3	外面：格子		A
69	備前	焼締陶器	鉢	ロクロ					(4.4)			A
70		焼締陶器	壺	ロクロ					(4.8)			A
71	南蛮	焼締陶器	鉢	ロクロ					(4.5)	外面：糸目		A
72	備前	焼締陶器	小壺	ロクロ		20	14.8		(7.2)			B
73		焼締陶器	擂鉢	ロクロ		20			(9.6)	擂目：6条		A
74	丹波	焼締陶器	擂鉢	ロクロ		15			(9.6)	擂目：7条		B
75		焼締陶器	擂鉢	ロクロ		20			(9.4)	擂目：10条		B
76		染付	皿	ロクロ		10				内外面：不明		B
77		染付	皿	ロクロ						内外面：不明		B
78		染付	皿	ロクロ						内外面：不明		A
79		染付	皿	ロクロ		30		6.6	(1.2)	内面：鳥		A
80		染付	皿	ロクロ		10			(1.1)	内面：不明		A
81		染付	碗	ロクロ						不明		B
82		染付	皿	ロクロ					(2.4)	不明		B
83		染付	碗	ロクロ						不明		B
84	輸入	染付	碗	ロクロ	削り出し輪高台	20			3.1	不明		A
85		染付	皿	ロクロ						不明		B
86		染付	碗	ロクロ		15			5.4	外面：高台内不明		A
87		染付	碗	ロクロ	削り出し蛇の目高台	55	13.6	5.6	4.4	内面：草文？	88と組物	B
88		染付	碗	ロクロ	削り出し蛇の目高台	45	13.4	5.6	4.4	内面：草文？	87と組物	B
89		餅花手	皿	ロクロ						籠地餅花手		B
90		白磁	合子	ロクロ				4.0	(1.3)		外面底部、内面施釉なし	B
91	肥前	染付	角皿	ロクロ					3.0	不明	高台砂付着	A
92		染付	筒形碗	ロクロ					(6.5)	不明		A
93		染付	碗	手びねり		60	12.8	4.8	4.2	内面：見込に花	高台砂付着	B
94		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
95		土師器	皿	手びねり		15			(2.1)			A
96		土師器	皿	手びねり		15			(2.2)			A
97		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
98		土師器	皿	手びねり		15			(1.9)			A
99		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
100		土師器	皿	手びねり		15			(2.2)			A
101	京都	土師器	皿	手びねり		25	9.2		(2.0)			A
102		土師器	皿	手びねり		20	9.6		(1.9)			A
103		土師器	皿	手びねり		20	10.1		(2.2)			A
104		土師器	皿	手びねり		20	9.9		(2.1)			A
105		土師器	皿	手びねり		25	10.8		2.0			A
106		土師器	皿	手びねり		25	10.6		3.0			A
107		土師器	皿	手びねり		25	10.6		2.3			A
108		土師器	塩壺	手びねり		30	3.8		(3.0)			A

（数字）は残器高

3　まとめ

今回，愛宕神社境内で採集された遺物群は，17 世紀前半に位置付けられるものであり，採集資料ながら，施釉陶器が占める割合が非常に高く，市内の同時代の消費遺跡から出土する遺物群とは大きく異なっている。この比率は，同時代にやきものを扱う商店が集約していた三条通の「せともの屋町」界隈の出土品と同じ傾向を示しており，特異な状況といえる。当時の消費地遺跡では，施釉陶器の割合が低いことから，これらが高級食器であり，日常生活に用いるものではなく，供応用であったことを示している。愛宕山の祭神，愛宕大権現は火伏せの神であるとともに，軍神としても崇められたため，多くの信仰を集め，庶民だけでなく，豪商や大名が数多く参詣している[2]。参詣の折には，宿坊にて能や酒食の接待，茶会があったことが知られており[3]，供応用として多くの高級食器を備える必要があったことがわかる。

採集地点については，近世の地誌類に描かれた宿坊群が所在した現在社務所がある平場よりも上部に位置する平場から投棄された状況を示している。愛宕山は正保二年（1645）の全山焼亡したことが知られており，近世に愛宕山の変遷を記した『寺院記』に宿坊群がかつて「鉄鳥居之内，廊下左右ニ有」とあり，「正保炎上以後今之処移」とあることから[4]，宿坊群が火災後に現在社務所がある平場に移転したことを示しており，採集地点上部の平場には 1645 年まで宿坊が所在したことがわかる。したがって，今回採集した遺物は 1645 年を下限とする資料であり，土師器皿の年代観からも祖語はない。

今回の採集品は，これまで廃仏毀釈によって大きく改変され，数少ない記録しか残されていない神仏習合時代の愛宕山の活動を具体的に示すだけではなく，下限年代が明らかな桃山陶器の資料として貴重である。採集品には，御深井釉の製品など，これまで三条せと物や町界隈では出土していない製品も含まれている。採集品の廃棄年代の下限である 17 世紀第二四半期は，それまで京都で出土する施釉陶器で高い割合を占めていた美濃産の製品が激減し，国産の磁器類が増加する過渡期に位置づけられる重要な年代であることから，今後は比較検討を通して，京都における桃山陶器の流行と流通の変遷を明らかにしていく必要がある。

（西森　正晃）

註

1）愛宕神社寄託資料については，「愛宕神社境内採集の「桃山茶陶」について」『京都市文化財保護課研究紀要２』京都市文化市民局文化財保護課，2019 年にて紹介している。

2）愛宕大権現は軍神として大名から厚い信仰が寄せられ，明智光秀や毛利輝元，小早川隆景，伊達政宗臣下の片倉小十郎等が参詣している。徳川家康も江戸開府にあたり，愛宕大権現を勧請し，愛宕神社を開いている。

3）『宗湛日記』天正十五年三月二十八日条，『輝元公上洛日記』天正十六年八月九日条

4）『寺院記』（『愛宕山と愛宕詣り』佛教大学アジア宗教文化情報研究所，2004 年による）

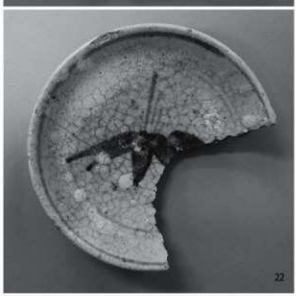


図 59　遺物写真 1

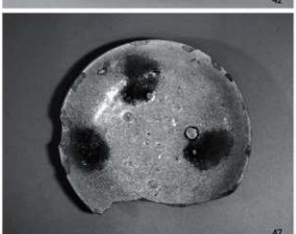


図 60　遺物写真 2

Ⅳ-2　市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内（17A006）

1　調査の経緯（図61～63）

三千院は比叡山延暦寺の寺坊であり，近世には円徳院，円融院，梶井門跡とも号していたが，明治4年（1871）に門跡号が廃され，以後三千院の名が用いられている。本堂は，平安時代末期の阿弥陀三尊像（国宝）を祀る阿弥陀堂（重要文化財）である。

三千院では，平成27年度より阿弥陀堂を含む市指定名勝三千院有清園庭園の修理事業を実施しており，同年度には池東岸及び中島に対して，（公財）京都市埋蔵文化財研究所による考古学的調査を実施，園内の基盤層が山土とほぼ同様の砂質の強い土層であること，護岸の石積工法から作庭時期が江戸時代初期である可能性が指摘されている。

図61　2区調査前風景（南東から）

今回の調査は，整備委員会にて池の西岸が本来阿弥陀堂基壇と接していた可能性が指摘されたため，その事実確認と出土する遺物から作庭時期を探ることを目的として実施したものである。

調査区は委員の指導のもと，池西岸と基壇間の園路上に2箇所設定した（図63）。調査は平成29年2月15・16・18～21日の計6日間実施し，面積は合計2.5㎡である。なお，調査注の掘削及び苔の移植，埋め戻し作業に至るまで，（株）中根庭園

図62　調査位置図（1：5,000）

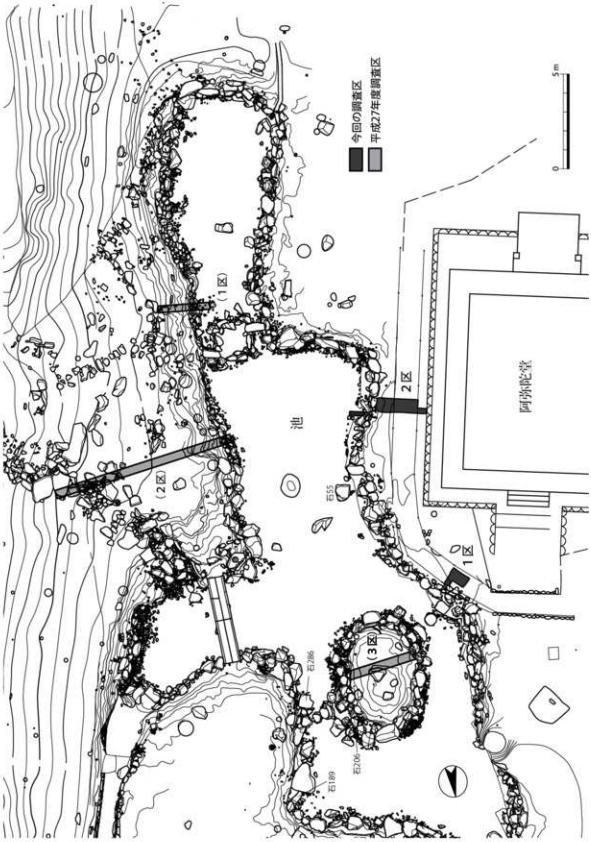
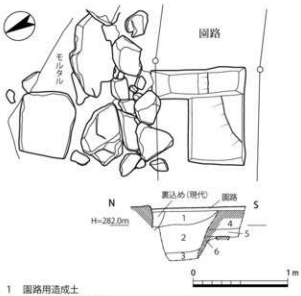


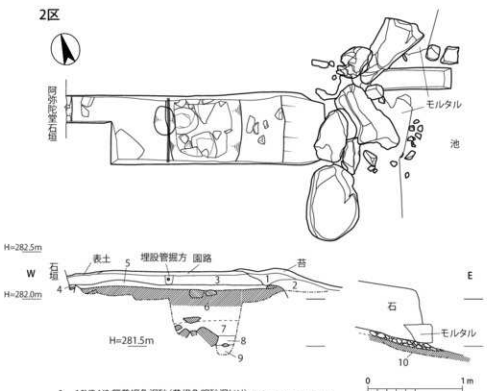
図 63　調査区配置図（1：200）

1区



1　園路用造成土
2　10YR5/1 褐灰色砂泥
（粘性強，径５～10cmの礫多量に混じる）【護岸裏込め土（近現代）】
3　5Y3/2 オリーブ黒色粗砂礫混じり
4　2.5Y7/2 灰黄色砂礫
5　10YR6/2 褐黄褐色砂泥
6　2.5Y7/6 明黄褐色粗砂（径５～15cmの礫多量に混じる）

2区



1　10YR4/2 灰黄褐色泥砂（黄橙色粗砂混じり）
2　灰色泥砂（粘性強）
【池護岸裏込め土】
3　7.5YR3/1 黒褐色泥砂【園路盛土】
4　10YR3/1 黒褐色泥砂【阿弥陀堂石垣掘方】
5　2.5Y8/4 淡黄色粗砂（固く締まる）【旧園路】
6　2.5Y7/6 明黄褐色粗砂礫混じり（径５～20cmの礫多量に混じる）
7　10GY6/1 緑灰色粗砂礫混じり（径５～30cmの礫多量に混じる）【６層が還元化】
8　5Y3/2 オリーブ黒色シルト～細砂（固く締まる）
9　2.5Y5/3 黄褐色細砂（径５～15cmの礫多量に混じる）
10　10Y6/1 灰色細砂礫混じり（径～10cmまでの礫多量に混じる）
【基盤層】

図64　１・２区平面及び断面図（１：40）

研究所の協力を得た。

調査の結果，阿弥陀堂基壇と池西岸間には，山土に類似した砂質の強い基盤層が園路盛土直下で確認できることから，池築造当初から阿弥陀堂基壇には接していないことが明らかとなった。また，平安時代から江戸時代までの土師器皿が出土したものの，作庭時期を特定することはできなかった。

2　遺構・遺物（図63～68）

1区（図63～65）は阿弥陀堂基壇北東側に設定した。層序は，現園路表土以下，GL-0.03ｍで灰黄色砂礫，-0.24ｍにて灰黄色砂泥，-0.32ｍにて礫（花崗岩）を多量に含む明黄褐色粗砂と続く。灰黄色砂礫を掘り込んで，現在の護岸石積みの掘方（裏込め土）となる。裏込め土からはガラス片等が出土している。

2区は基壇東側に設定した（図63・64・66・67）。層序は，現園路表土以下，GL-0.04ｍで黒褐色泥砂の盛土，-0.14ｍにて固く締まった淡黄色粗砂の旧園路路面，-0.2ｍにて径5～20㎝の礫（花崗岩）を多量に含む明黄褐色粗砂の基盤層，-0.68ｍにて固く締まったオリーブ黒色シルト～粗砂，-0.78ｍにて礫を多量に含む黄褐色細砂となる。作庭時期を探る目的で池の汀を掘り下げた2区東端では，池底が灰色細砂礫混じりで，護岸石は池底に小石を密に詰めて敷いた上に据えられていた。

1・2区の遺物は，園路造成土，護岸裏込めから出土した土師器等が出土したが図化できるものは少ない。ここでは，平成27年度以降の修理事業で出土した遺物も併せて報告する（図68）。出土地点を示す石№は(株)中根庭園研究所が護岸石等の石材に付した番号である（図63）。

1～7は全て土師器皿である。1の口縁部は内外面ともにナデを施す。端部はやや上方に突起す

図65　1区東壁（南西から）

図66　2区全景（南東から）

図67　2区下層堆積状況（南東から）

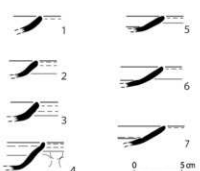


図68　出土遺物実測図（1：4）

る。2の口縁部はナデによる凹みが生じ，僅かに外反する。端部は三角形状を呈す。3の口縁部は，ナデによる2段の凹みが生じ，端部は上方に突起している。1～3は平安時代後期～鎌倉時代に属するものである。4はやや深手の皿で，外面体部下半は指オサエによってやや外反する。口縁端部はやや内側に屈曲し，上方に突起する。鎌倉時代か。5～7は底部内面に明瞭な凹線状の圏線が認められる。いずれも器高は低く，18世紀代に属するものであろう。

1は石286，2は石189，3は石208，4・7は石286，5は2区護岸裏込め（2層），6は石55付近から出土した。

3　まとめ（図65・66）

1区の灰黄色砂礫，2区の礫を多量に含む明黄褐色粗砂以下の土層は，造成土の可能性もあるが，遺物を全く含んでおらず，花崗岩が風化した土層と考えられる（図67）。調査地は扇状地上に位置しており，上流には花崗岩帯が広がることを鑑みると，地山由来の基盤層と判断できる。両区とも，園路舗装土直下が基盤層であることから，池の西岸は当初より阿弥陀堂には達しておらず，西岸の大きな造り替えはなかったと捉えられよう。ただし，1区では護岸石裏込め土からガラス片が出土したことから，堂北東附近の護岸は，近現代に積直しを含めた造り替えがあったことがわかる。

作庭時期については，古くは平安時代に遡る土師器皿が出土しているが，阿弥陀堂が平安時代から当地に所在するため，同時期の遺物の出土が池の作庭時期を示しているとは判断できないため，特定できなかった。今後の調査に期待したい。

（西森　正晃）

Ⅳ-3　得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡（18R225）

1　はじめに（図69）

今回の調査では，計画建物範囲のうち調査地は，東山通と二条通の交差点より北西に位置する（図69）。京都外国語大学岡崎キャンパスの西側にあり，推定される得長寿院の西限付近に相当する。今回，この区画に簡易宿舎の建設が計画されたため，詳細分布調査を実施した。

得長寿院は，鳥羽上皇の御願により長承元年（1132）に落慶法要が営まれた寺院である。「千躰観音堂」の別称をもつ御堂は平忠盛の造営によるもので，堂内には丈六聖観音像とその左右に聖観音像を各五百体並べたとされている。その内容から，忠盛の子清盛が造営した三十三間堂に匹敵する建物規模を誇るものとみられるが，元暦２年（1185）の地震により倒壊したと記される（中山忠親『山塊記』）。

周辺ではこれまでに試掘調査や発掘調査が実施されているが，この建物の発見には至っていない。昭和52年度に，京都外国語大学敷地内で実施された発掘調査（図69-①）では，GL-0.8ｍの深度において平安時代から鎌倉時代の遺構面が確認され，得長寿院の南限（二条大路末の北限）を示すと推定される東西溝や川原石を敷きつめた配石遺構が検出された。

また，平成元年および平成13年度に，遺跡範囲の東限付近で２度にわたって試掘調査が行われた区画（図69-⑤）では，平安時代後期の柱穴が複数検出されたため，計画建物の設計変更を指導している。

その後，遺跡内では複数回にわたる試掘調査（図69-②～④）が実施され，GL-0.7～0.8ｍの深度において平安時代末～鎌倉時代の包含層がいずれも確認されている。ただし顕著な遺構が検出されていないことから，本調査には至っていない。このため今回の調査では，遺構検出の有無に焦点が絞られた。

図69　調査位置図（１：5,000）

図70　遺構位置図（１：500）

2　調査成果（図70～73）

今回の調査では，計画建物範囲のうち，得長寿院の西限に相当する西半部において断面観察を実施した。その結果，平安時代末～鎌倉時代初頭のピット及び土坑を計６基検出した。

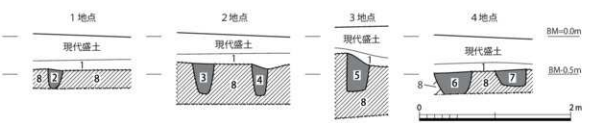
基本層序は，GL-0.3ｍまで盛土，-0.4ｍまで包含層であり，この直下においてオリーブ褐色細砂混じりシルトを主体とする地山に達する。地山上面は２地点と３地点の間が最も高く，東西へ向かって徐々に下がる。この地山上面を成立面とするピットを北壁で４基，土坑を西壁で２基検出した。いずれも断面形状は深い椀形もしくは逆台形で，明確な掘り方をもつ。埋土は，鈍い黄褐色～灰黄褐色礫混じりシルトを主体とする。包含層からは，土師器皿（13世紀？）の細片が少量出土した。

以上のとおり，今回の調査では得長寿院の西限付近において複数の遺構を検出した。限られた範囲内に一定数の遺構が存在することは，この地点に何らかの建物が存在したことを予測させる。得長寿院の構造はいまだ不明な点が多いものの，今後の調査成果の積み重ねにより，解明されることを期待したい。

（黒須　亜希子）

註・参考文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『昭和52年度京都市埋蔵文化財調査概要』，2011年，pp72-73。



1）10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　礫，土器含む
【古代～中世遺物包含層】
2）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混シルト　径１cm大礫少量含む【ピット１】
3）2.5Y4/3　オリーブ褐色礫混シルト【ピット２】
4）2.5Y4/2　暗灰黄色礫混シルト【ピット３】
5）2.5Y3/2　黒褐色礫混シルト【ピット４】
6）10YR4/　にぶい黄褐色礫混シルト締まり悪い【土坑５】
7）10YR4/2　灰黄褐色礫混シルト　締まり悪い【土坑６】
8）2.5Y4/6　オリーブ褐色細砂混シルト　締まり良い【地山】

図71　調査地点断面図（１：50）

図72　ピット１検出状況（南から）

図73　土坑５・６検出状況（東から）

Ⅳ-4　円勝寺跡，岡崎遺跡（13R450）

1　調査の経緯(図74)

本件は京都市美術館改修工事に伴う詳細分布調査である。対象地は京都市美術館内の北広場部分にあたり，周知の埋蔵文化財包蔵地の円勝寺跡，岡崎遺跡に該当する。

京都市美術館は，再整備のため平成26年度から平成29年度にかけて，複数回に分けて発掘調査が行われている。特に調査地西側の平成26年度調査[1]では，弥生時代後期から古墳時代初頭の環濠や円勝寺と成勝寺の境と考えられる南北溝などが確認されたほか，江戸時代末期の加賀藩邸に関連すると考えられる近世の東西堀やそれに伴う柵列や橋の基礎などが確認されている[1]。また調査地北側に隣接する平成29年度調査[2]では，平安時代中期の整地と考えられる土坑状の遺構や平安時代末期から鎌倉時代の二条大路末の南側溝，建物，柵，井戸，室町時代から江戸時代の耕作痕跡のほか，平成26年度調査で確認されていた近世の東西堀（堀27）に伴う柵列の延長が確認されている[2]。

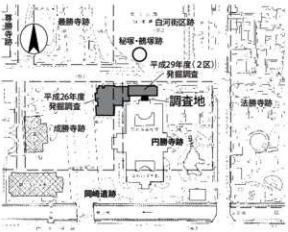


図74　調査位置図（1：5,000）

2　調査成果（図75・76）

今回の調査では№1地点（A-A'）と№2地点（B-C-D）の断面観察を行った結果，東西方向の溝を確認した。各地点での所見を述べる。

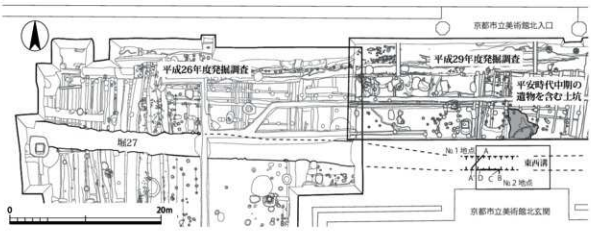


図75　遺構位置及び発掘調査検出遺構関連図　（1：1,000）

No.1地点（A-A'）

基本層序は，現代盛土以下，GL-0.55mで細砂混じりのオリーブ黒色粘質土，-0.86mで黒褐色粘質土，-0.98mで地山である礫混じりにぶい黄橙色粗砂，以下，-1.24mで灰白色粗砂，-1.7 mで浅黄色粗砂，-2.18mで明黄褐色微砂が上層に含む黒褐色粘土に至る。確認した溝は，黒褐色粘質土（図3- 6層）上面で成立していた。検出規模は幅1.16m，深さは0.34 ～ 0.58mである。南側には直径0.1 mの木杭を確認した。杭の先端は溝埋土を突き抜け，地山に達する。護岸に伴うものと考えられる。溝の埋土は，細砂を含む灰色シルトやオリーブ黒色粘土，黒褐色シルト～細砂である。溝埋土からわずかに平安時代中～後期の土師器や瓦片が出土している。

No.2地点（B-C-D）

基本層序（B-C）は現代盛土及び固く締まるオリーブ褐色泥砂以下，GL-0.6 mで溝埋土である暗オリーブ褐色泥砂や黒褐色泥土，-1.05mで地山である微砂混じり黒褐色泥砂，-1.2mで礫混じりのにぶい黄褐色粗砂，-1.3 mでにぶい黄橙色砂～粗砂，-1.65mで灰黄色砂，-2.38mで灰色砂に至る。溝の南側にあたる部分は（C-D），横板と木杭で護岸が施されている。板材は約0.3 m，長さ1.1 m以上，厚さは約0.05mで，二段分確認できた。板材に伴う木杭はいずれも直径0.1mで，杭の間隔は0.3 ～ 0.4mである。東端で確認した杭は残存長が1.16mある。溝埋土からは小片であるが平安時代中～後期の土師器や瓦片が出土している。

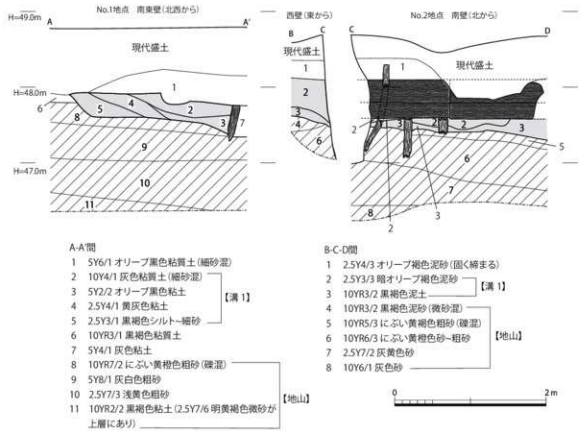


図76　遺構断面図（1：50）

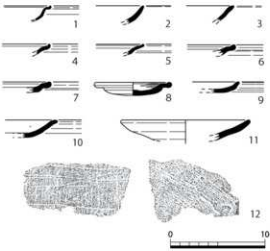


図 77　溝 1 出土遺物実測図　(1：4)

3　遺物

今回の調査では溝埋土と考えられる土層から小片ながら遺物が出土している。1～3 は№ 1 地点 2 層，4～12 は№ 2 地点 2 層から出土している。1～12 は土師器皿である。1・4～8 は口縁部が「て」の字状に成形され，9 の口縁部には二段ナデを施す。12 は丸瓦片である。内面に布目痕跡が確認できる。これら遺物の年代は京都Ⅲ～Ⅳ期，平安時代中～後期と考えられる。

4　まとめ

今回の調査では南側が護岸されている東西方向の溝を確認した。この溝は図 75 で示したように平成 26 年度調査で確認されている近世の堀 27 の延長上にあたる。また堀 27 の南壁には板材や割竹，丸杭を用いた護岸がほどこされており，今回確認した溝と同じ様相を示すことから，同一遺構と考えられ，加州屋敷（加賀藩前田屋敷）に伴う溝が対象地にまで及んでいることを確認した。しかし今回の溝埋土からは近世と判断できる遺物は確認できず，平安時代中期～後期の土師器皿片や瓦片などが出土している。対象地北側の平成 29 年度調査では図 75 に示したように溝に近接する場所で平安時代中期の土坑状の遺構が確認され，またその上面には平安時代後期の整地土が確認されているとのこと[3]から，混入したものと推測できる。混入品ではあるが，対象地内での平安時代の状況を表す一資料と考えられる。

（清水　早織・奥井　智子）

註

1）「円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2014-13，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，2015 年。

2）「円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，　現在報告書作成中。近日刊行予定。図 1 には 2 区のみを掲載。

3）平成 29 年度調査については，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所柏田有香氏より調査成果などのご教示を得た。

Ⅳ-5　革嶋館跡（18S132）

1　調査経過（図78）

調査地は阪急電鉄京都線桂駅の南西に立地する。中世土豪である革嶋氏の居館跡である革嶋館跡の西半部に位置し，かつてその中心と目されていた三宮神社の西側に近接する。今回，この区画に共同住宅の建設が計画されたため，詳細分布調査を実施した。

革嶋館は，平安時代末期に近衛家の荘園であった革嶋荘の経営に関わる政所屋敷が中世には館となり，後に堀と土塁で防御する平城へ発展したものと考えられている。城主は清和源氏佐竹氏の系譜を引く革嶋氏で，平安時代末期に近衛基通領の革嶋南荘に来住し，以後，荘園の下司職を務めた氏族である。室町時代には幕府御家人となったが，本能寺の変で明智光秀に属したため，所領を失ったとされる。しかしその後，江戸時代には再び革嶋地域の地主となった。

江戸時代以後の革嶋館の様相は，『革嶋家文書』（京都府総合資料館所蔵）に詳しく，土塁と堀で囲まれた館の状況が絵図に描かれている。近年では，発掘調査により，その具体的な様相が明らかとなりつつある。

平成20年度に遺跡範囲の南東部で行われた発掘調査（図78-①）では，室町時代～江戸時代の屈曲する堀が検出され，館の南東隅部分であると推定された。続く平成21年度の発掘調査（図78-②）では，東西にのびる堀が北へ曲がる様子が確認されたことにより，館の南西隅であることが明らかとなった。この堀の形状は『革嶋家文書』絵図とほぼ合致することから，当該時期の館がこの地点に存在したことが確実視される。

一方，平成29年度に今回の調査地より北側で行われた試掘調査（図78-③）では，南半部に設定した調査区より鎌倉時代の瓦器を含む土坑が1基検出された。続く今回の調査では，同時期のピット群及び土坑を検出した。これにより，周辺において中世初頭期に遡る遺構が集中することが明らかとなった。

図78　調査位置図（1：5,000）

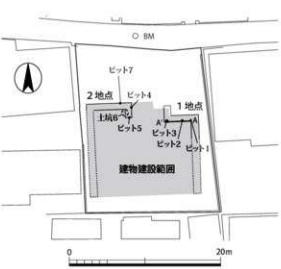


図79　遺構位置図（1：500）

2　調査成果（79～82）

今回の調査では，計画建物範囲のうち，地山を大きく掘り込む北東部及び北西部において断面観察を行った。その結果，北東部（１地点）では，GL-0.15ｍまで盛土，-0.4ｍまで鈍い黄褐色礫混じりシルト（炭化物含む，中世包含層），があり，この下面において鈍い黄褐色砂礫を主体とする地山を確認した。地山上面では，径30～40㎝を測るピットを３基検出した。このうち，最大深度20㎝を測るピット２からは，瓦器椀（13世紀）と土師器皿の破片が出土した。

北西部（２区）ではGL-0.35ｍまで盛土，-0.5ｍまで１地点と同質の中世包含層があり，以下，掘削底である-0.75ｍまで鈍い黄褐色砂礫（地山）を確認した。地山上面では，ピット３基，土坑１基を検出した。このほか，中世包含層からは，東播系須恵器鉢，瓦器椀の破片（ともに13世紀）が出土した。

以上のとおり，今回の調査では限られた範囲内に一定数の遺構が存在することが明らかとなった。これにより室町時代以前の段階で，周辺に人々の集住があった可能性が高まったと言える。革嶋館の前身となる革嶋荘政所屋敷である可能性も含めて，今後の調査情報を待ちたい。

（黒須　亜希子）

註・参考文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『革嶋館跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2009-6，2009年。

調査②：京都市文化市民局，『京都市内遺跡発掘調査報告』平成21年度，2010年，pp.93-107。

京都府教育委員会『京都府中世城館跡調査報告書　第３冊　－山城編－上，2014年，pp.185-187。

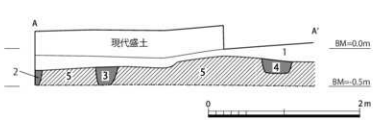


図80　遺構断面図（１：50）

図81　ピット４・５検出状況（北西から）

図82　ピット７検出状況（南から）

Ⅳ-6　山田桜谷古墳群（18A006）

1　調査の経過

山田桜谷古墳群は西京区山田桜谷町および下山田下園尾町に所在する。同古墳群は西山連峰から東に伸びる尾根上に立地し，２基の前方後円墳から構成される（図83）。

古墳群の所在する桂川右岸域一帯は，「乙訓地域」と総称される。この地域では，これまでに 388 基の古墳が確認され，大正時代から調査が進んだことで，首長墓の変遷モデルが提示され[1]，古墳時代の政治・社会を考える上で欠かせない地域のひとつと言える。平成28 年度には首長墓系譜に連なる 11 基の古墳が「乙訓古墳群」として国史跡に指定され，平成 30 年度には８基の古墳が追加指定された。山田桜谷古墳群も，広義の乙訓古墳群に含まれ，将来にわたる保存・活用が求められる。しかし，近年多発する豪雨や台風災害などによる墳丘への影響は看過できない状況である。そのため，遺跡の現状を正確に把握することを目的に，地形測量を実施することとなった。

測量は地域全体の中での古墳群の位置付けを明らかにするために，西京区松尾から山田，御陵を含む一帯で実施した（図84）。また，その範囲の大部分を山林が占めていることから，樹木の間でも地盤面できる航空レーザー測量を選択した。測量はアジア航測株式会社に委託し，実機ヘリによる計測をおこなった。計測日は平成 30 年４月 21 日，飛行高度 500 m，飛行速度 20 m／秒，測量範囲は 3.22k ㎡

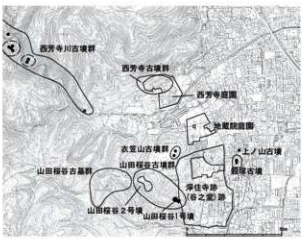


図 83　調査位置図（１：25,000）

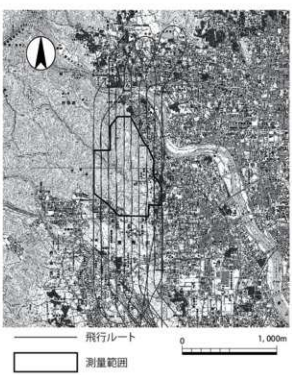


図 84　計測飛行ルートと測量範囲（１：40,000）

とし，計測密度を 10 点／㎡以上，計測コースは 10 コースとした。測量後，10 月 29 日および 12 月 27 日に，2 度の現地踏査をおこない，測量成果と現状の照合に努めた。

2　山田桜谷古墳群の概要

山田桜谷古墳群は昭和 61 年に（財）京都市埋蔵文化財研究所職員が付近を踏査中に発見した[2]。丘陵の稜線上に 2 基の古墳が存在し，丘陵東側の標高 107 m付近に所在する前方後円墳を 1 号墳，その北西，標高 123 m付近に位置するものを 2 号墳としている。2 号墳の墳丘周辺は後世の改変が大きく，正確な墳形の把握はできなかったが，両地点で埴輪を採集・報告している。採集埴輪から，1 号墳は 5 世紀後葉，2 号墳は 5 世紀中葉と想定された。

その後，平成元年に京都大学考古学研究会が墳丘の測量調査を実施し，1 号墳が墳長 48 m，2 号墳が直径 40 m以上の墳丘を有することが判明した[3]。2 号墳の墳形はなおも確定できなかったが，報告段階では前方後円墳であろうと推定している。

同古墳群の発見以前には，山田地区周辺の首長墓として巡礼塚古墳や穀塚古墳などが知られていたが，丘陵上に立地するものは知られていなかった。また，時期的にも 5 世紀中葉は空白期間となっていたため，首長墓系譜の空白を埋める重要な古墳群である。

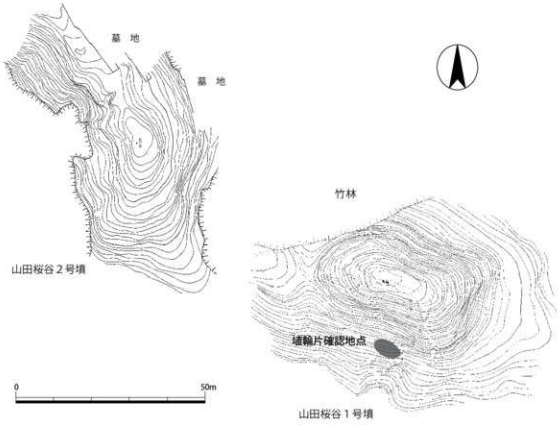


図 85　既往の測量図（1：1,000）
※方位には補正を加えている。

なお，京都大学考古学研究会作成の測量図と，今回作成した測量図を照合すると，方位のズレが見て取れた。そのため，踏査時に方位磁針によって京都大学考古学研究会作成図の方位を補正し，両測量図を重ね合わせて，前者に補正を加えた（図85）。あくまでも応急的な処置であるため，今後より正確な図面を作成する必要があろう。

3　調査成果

測量調査後に現地踏査を実施し，測量図と現況の照合をおこなった。両調査から得られた所見を報告する。赤色立体地図上では，１号墳の所在地点（図86- 調査地１），２号墳の所在地点（同調査地２）に加え，２号墳の北西約270 m地点の尾根上に平坦地および隆起地形を確認した（同調査地３）。両古墳とこの平坦地の３地点を重点的に踏査した。

調査地１（山田桜谷１号墳）　これまでの所見では，１号墳は墳長48 mの前方後円墳とされている。今回の測量図上でも，くびれ部を視認することができ，前方後円墳であることが追認できた。

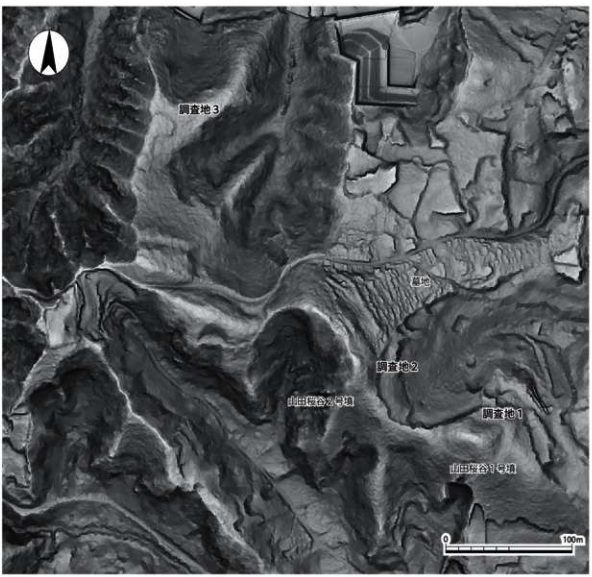


図86　調査地点位置図（１：3,000）

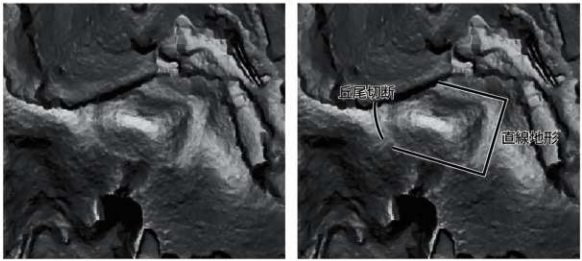


図 87　1 号墳墳丘周囲の造成痕跡（スケールアウト）

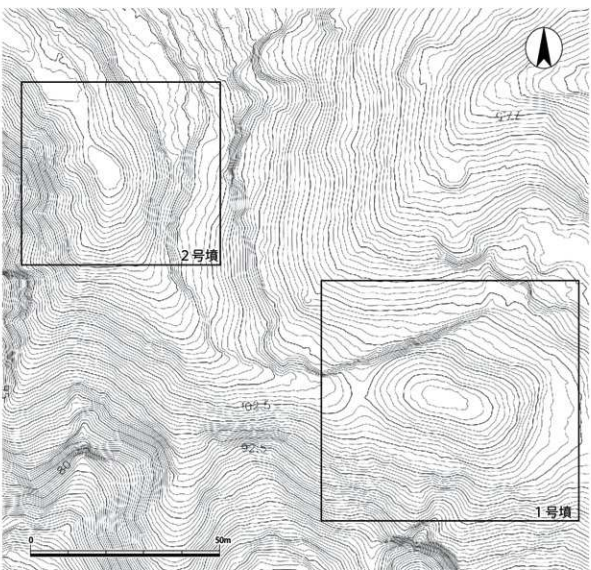


図 88　山田桜谷古墳群等高線図（1：1,000）

また，赤色立体地図からは墳丘北辺および東辺の，これまで想定されていた墳丘の範囲外に，墳形に沿って直線的な段状地形が存在することが見て取れる（図 87）。また南辺でも，やや墳丘との間が狭いものの，並行する直線地形が存在する。これらは，従来の測量図からは確認できておらず，今回の測量図によって初めて確認できた。現地踏査時には樹木の繁茂により，この直線地形は視認できておらず，その実態に言及することができない。古墳造営に伴う造成の痕跡であると考えられるが，今後その性格を追求したい。さらに後円部西側尾根には丘尾切断の痕跡が見て取れ，墳丘外の造成がはっきりと確認できた。北西部は大規模な崩落によって墳丘の一部が失われているが，この崩落による崖面は北側の墓地部分にまで及んでいる。古墳造営以後のある段階で，大規模な土砂崩れが起きたと推定でき，防災的な観点からも注視すべき地形と言えよう。

なお，墳丘上では台風等の影響による倒木があり，根から起きている樹木も複数存在した。それによる墳丘への影響も懸念される。また，墳丘南側のくびれ部付近では埴輪片を採集している。図化に足る大きさの破片ではないが，５世紀後葉という従来の年代観と矛盾するものではない。

調査地２（山田桜谷２号墳） 従来，前方後円墳の可能性を指摘されてきたが，後世の地形改変が大きく，墳形の確定ができていない。今回の赤色立体地図でも尾根上の高まりは確認できるものの，墳形の捕捉はできなかった（図 89）。墳丘と想定されている範囲の北東側は墓地化し，尾根の東西両側が崩落している状況であり，現況からの墳形把握は困難である。今後，地中の状況を確認することで墳形・墳丘規模の復元を進めたい。

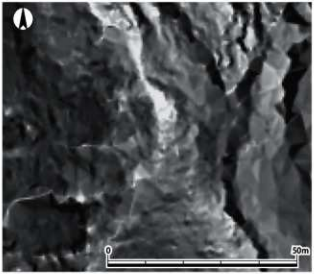


図 89　２号墳付近（1：1,000）

調査地３ ２号墳北西約 270 mの地点である。平坦地上の隆起地形が未発見古墳である可能性があったため，現地を踏査した。現地で確認した結果，古墳の存在を示す痕跡は確認できず，赤色立体地図上の隆起地形は約 0.5 mの高まりであることが判明した。遺物などの散布もないことから，古墳に関連するものではないと判断した。

4　まとめ

山田桜谷古墳の状況を中心に報告したが，今回の測量によって周辺の遺跡との位置関係も明確にすることができた（巻頭図版２）。山田桜谷古墳の北側，北西側には衣笠山古墳群，西芳寺古墳群，西芳寺川古墳群が所在する。これらのうち，後二者は西芳寺川を隔て，山田桜谷古墳群と対峙するような位置関係にあることが，よりはっきりと視認できた。古墳時代後期の群集墳であるこれらの古墳群と首長墓である山田桜谷古墳群を同じ俎上で議論できないことは言うまでもないが，この地域

における古墳の選地を考えるための好材料となろう。

赤色立体地図の特性を活かした成果として，1号墳の北辺，東辺に見える直線地形，丘尾切断地形の確認があげられよう。これまでの測量図では確認できておらず，現地踏査でもはっきりと視認できない程度の段差が地図上に明確に現れている。赤色立体地図が古墳の形態を明らかにするために有効な手段であることが，改めて認識できたと言えよう。

今回の調査によって，山田桜谷古墳群についての基礎資料を得ることができた。今後，発掘調査を含めた詳細な調査を実施し，同古墳群についての未だ不明確な要素を解明するとともに，今回の測量で新たに判明した要素の追求を進めることで，山田地区，ひいては乙訓地域の歴史の中に，山田桜谷古墳群を位置付けていきたい。

（清水　早織・新田　和央）

註

1）都出比呂志「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』史学編22，1988年など。

2）丸川義広・上村和直「山田桜谷古墳群」『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1988年。

3）標智仁ほか「山田桜谷1号墳測量調査報告」『第41とれんち』京都大学考古学研究会，1989年。
石川政澄ほか「山田桜谷地域調査報告」『第42とれんち』京都大学考古学研究会，1990年。

V　調査一覧

I　2018年　1～3月期(平成29年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	**上・中立売通六軒町東入三軒町 地先**	**2/1，14，3/5～23，4/5～19，5/2**	**GL-0.47mで黒褐色シルト，-0.53mで黒褐色礫混シルト，-0.66～-0.8mでにぶい黄褐色砂質シルトの地山。**	**17K673**	**HQ555**	**1**
大蔵省跡	上・六軒町通仁和寺街道上る四番町～六軒町通今出川下る三軒町 地先	2/15・20，3/1	GL-0.3～-0.85mで明褐色礫混シルトの地山。	17K580	HQ583	1
大蔵省跡	**上・仁和寺街道七本松東入上る一番町 地先**	**2/20～4/5**	**GL-0.15mで黒褐色泥砂，-0.3～-0.8mで明黄褐色シルトの地山。**	**17K733**	**HQ591**	**1**
図書寮跡	上・下ノ森通下長者町下る東入風張町 地先	17/12/12～18/2/14	GL-0.3mで黒褐色泥砂，-0.6～-0.9mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って黒色泥砂(にぶい黄褐色砂礫ブロック含)の落込。	17K593	HQ479	1
図書寮跡	**上・三助町，風張町 地先(京都市道)**	**3/28**	**GL-0.98～-2.8mで浅黄色砂礫の地山。**	**17K562**	**HQ656**	**1**
宴松原跡	上・下ノ森通下長者町下る東入風張町～七本松通下長者町下る西入三番町 地先	17/12/5～18/2/14	GL-1.0mまで盛土。	17K581	HQ466	1
宴松原跡，風張遺跡	**中・聚楽廻西町 地先**	**1/17，18 26・30，2/14，3/1**	**GL-0.45mで黒褐色シルト，-0.58mで黒褐色粘質シルトの近世包含層，-0.77mで黒褐色粘質シルト，-0.85mで黄褐色シルトの地山。**	**17K648**	**HQ531**	**1**
宴松原跡	**上・下ノ森通下長者町下る東入風張町 地先**	**3/12・20**	**GL-0.43～-0.55mで黒褐色泥砂。**	**17K764**	**HQ629**	**1**
掃部寮・内蔵寮跡	上・上長者町通千本西入五番町 地先	2/21，3/1	GL-0.5mまで盛土。	17K732	HQ594	1
内蔵寮跡	上・仁和寺街道下る千本通西入六番町 地先	3/19・20，4/3・5・19	GL-0.7mまで盛土。	17K792	HQ636	1
真言院跡	**上・下立売通七本松東入下る長門町～聚楽廻西町 地先**	**3/1～23，4/5**	**№1：GL-0.55～-0.8mで明黄褐色粘質土。№5：GL-0.15～-0.7mで黒褐色泥砂。**	**17K647**	**HQ611**	**1**
中和院跡，聚楽遺跡	上・下立売通千本西入稲葉町466-3	3/12	GL-0.17mで黒褐色和砂混粘土質シルトの近世包含層，-0.33mで黒褐色礫混じり粘土質シルト。	17K706	HQ627	1
南所跡，聚楽第跡	**上・日暮通下立売上る西入分銅町569-3**	**3/12・13**	**GL-0.3mまで盛土。**	**17K749**	**HQ628**	**1**
内匠寮跡，風張遺跡	中・西ノ京左馬寮町 地先	17/12/19～18/1/17	GL-0.78～-0.8mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	17K612	HQ494	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	**中・聚楽廻中町41-4**	**1/25**	**GL-0.17mで暗褐色礫混粘土質シルト，-0.43～-0.51mで暗褐色粘土質シルト(締り悪い)。**	**17K632**	**HQ545**	**1**
豊楽院跡	中・聚楽廻西町～聚楽廻中町 地先	3/1・15	GL-1.05～-1.4mで明黄褐色粘質土の地山。	17K728	HQ608	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	**上・千本通下立売下る小山町908-30**	**1/25・26・29**	**GL-0.22～-0.46mで暗褐色シルト。**	**17K551**	**HQ544**	**1**
宮内省・太政官跡，聚楽遺跡	上・美福通丸太町下る主税町 地先	3/23・26	GL-0.5mで黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明包含層，-0.7～-0.8mで黄褐色泥砂。	17K820	HQ650	1
民部省跡	**上・竹屋町通千本東入主税町911(市立二条中学校内)**	**3/23**	**GL-1.25mまで盛土。**	**17K750**	**HQ638**	**1**
廉院跡	上・竹屋町通美福東入主税町 地先	2/5・8	GL-0.68mまで盛土。	17K087	HQ559	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊七町跡，公家町遺跡，内膳町遺跡	**上・京都御苑3**	**17/7/7～18/11/29**	**GL-0.37mでにぶい黄褐色粘質土，-0.61mでにぶい黄褐色粘質土を切って黒褐色粘質土の土坑，-0.71mでにぶい黄褐色粘質土を切って土坑，-0.9～-0.95mでにぶい黄橙色粘質土(上面に硬化面)。**	**16H474**	**HL 187**	**3**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊十五・十六町跡，新在家の構え跡	**上・京都御苑13の一部**	**17/12/28～18/10/11**	**近世の築地基礎石列を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。**	**17H537**	**HL 506**	**3**
一条四坊九町跡	上・京都御苑438	1/29	GL-0.7mまで盛土。	16H154	HL 549	3
一条四坊九町跡	**上・京都御苑2の一部**	**3/12・13**	**GL-0.75mまで盛土。**	**17H774**	**HL 631**	**3**
二条二坊十六町跡，高陽院跡，二条城北遺跡	上・小川通丸太町上る上御霊前町331-1	2/13・14・19・21	GL-0.73mでに ぶい黄褐色礫混粘土質シルトの近代盛土層，-0.95mで黄褐色砂礫の近世洪水層，-1.12mで褐色粘土質シルト，-1.32～-1.56mで暗褐色礫混粘土質シルトの時期不明包含層。	17H651	HL 576	2
二条三坊十町跡，烏丸丸太町遺跡	**中・室町通丸太町下る道場町11-1**	**17/12/25～18/3/30**	**GL-2.27mで暗褐色粘質土(焼土含)，-2.5～-3.5mで黄褐色砂礫の地山。**	**17H331**	**HL 502**	**3**
三条一坊二町跡	中・西ノ京職司町36，80-1	3/2・6	GL-1.2～-1.8mで明黄褐色砂礫の地山。	17H568	HL 612	2
三条一坊七町跡	**中・西ノ京職司町63-2**	**1/5・9**	**GL-0.7mでにぶい黄褐色砂質シルトの旧表土，-0.78～-1.29mで黄褐色細砂と明黄褐色微砂互層の河川堆積。**	**17H549**	**HL 508**	**2**
三条一坊十四町跡	中・神泉苑御池下る神泉苑町17-1他7筆	2/16	GL-0.61mで明赤褐色泥砂の焼土，-0.71mで灰褐色泥砂，-0.88mでの暗灰黄色砂泥(粘質)を切って暗灰黄色泥砂の土坑，-1.07mで暗灰黄色砂礫。	17H719	HL 584	2
三条二坊九町跡，堀川御池遺跡	**中・二条通堀川東入矢蟹町301，油小路通二条下る二条油小路町284，堀川通二条下る土橋町1**	**17/7/19，12/22，18/4/23**	**GL-0.7mで褐色泥砂(炭含)，-0.91mで黄褐色泥砂の近世包含層。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。**	**17H119**	**HL 215**	**2**
三条二坊九町跡，堀川御池遺跡	中・堀川通二条下る土橋町14-1	1/31	GL-0.93mで赤褐色砂礫の近世以降包含層，-1.32mでオリーブ褐色礫混シルトの時期不明包含層(土師器)，-1.54mで灰黄褐色砂礫の地山。	17H393	HL 554	2
三条二坊十六町跡，妙顕寺城跡	**中・西洞院通二条下る二条西洞院町643，643-2，小川通二条下る古城町359-3**	**1/11・17・18**	**GL-1.7mまで盛土。**	**16H307**	**HL 520**	**2**
三条三坊十五町跡	中・車屋町通押小路下る柴御屋町339，341	3/1	GL-0.98mで灰黄褐色粘質土の江戸中期包含層，-1.24mでに ぶい黄褐色粘質土，-1.53mで明黄褐色粘質土，-1.72mで黄褐色粘質土，-1.94mでに ぶい黄色粘質土の中世後期包含層，-2.04mで明黄褐色砂質シルト，-2.14mで暗灰黄色粘質シルト，-2.21～-2.25mで青灰色粘質シルト。	17H447	HL 609	3
三条四坊八町跡，等持寺跡	**中・堺町通二条下る杉屋町634，柳馬場通二条下る等持寺町22-2**	**3/14・22・30，4/2・3**	**GL-1.06mでオリーブ褐色細砂混シルトの室町包含層，-1.35mでオリーブ褐色粘土質シルトの地山を切って暗灰黄色細砂混シルトの室町土坑とオリーブ褐色粘土質シルトの鎌倉土坑，-1.97～-2.2mでオリーブ褐色細砂混シルトの地山。**	**17H722**	**HL 633**	**3**
四条一坊七町跡	中・壬生馬場町29-3	2/5	GL-0.23mで暗灰黄色泥砂，-0.41mで明黄褐色砂礫の地山，-0.93～-2.1mで明黄褐色砂礫の地山。	17H625	HL 560	4
四条二坊十二町跡	**中・油小路通四条上る藤本町549，醒ヶ井通錦小路下る藤西町592-1**	**1/12～31，2/1～14**	**平安後期～室町の遺構群を検出。本報告6ページ。**	**17H435**	**HL 523**	**4**
四条二坊十三町跡	中・蟷螂山町461-1，461-2	3/6・9・12	GL-2.7mで褐色砂礫の地山。	17H125	HL 618	4
四条三坊四町跡，烏丸綾小路遺跡	**中・新町通四条上る小結棚町438-1，2，炭之座町410**	**2/21・27**	**GL-1.9mまで盛土。**	**17H626**	**HL 595**	**5**
四条三坊十四町跡	中・東洞院通蛸薬師下る元竹田町640，640-3	3/22	GL-1.2mまで盛土。	17H654	HL 645	5
四条四坊五町跡	**中・堺町四条上る八百屋町542-1の一部，545，547-2**	**2/19**	**GL-0.5mまで盛土。**	**17H396**	**HL 588**	**5**
五条二坊一町跡，妙蓮寺の構え跡	下・黒門通四条下る下り松町167	3/12	GL-1.33mで黒褐色粘土質シルトの室町以降包含層，-1.5～-2.01mでオリーブ褐色砂礫の地山。	16H303	HL 630	4
五条二坊七町跡	**下・岩上通綾小路下る雁金町411，409-1，409-2**	**2/16，3/2～12**	**平安末～鎌倉の土坑群を検出。本報告16ページ。**	**17H587**	**HL 582**	**4**
五条二坊十四町跡，烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通仏光寺下る本柳水町782	2/13・23・27，3/9	GL-0.76mで明黄褐色微砂の地山。-1.16～-1.82mで明黄褐色微砂の地山。	17H472	HL 574	4
五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡	**下・新町通仏光寺下る岩戸山町436-1，436-2，436-3，436-4**	**3/19・23・26・27・30**	**鎌倉の土坑を検出。本報告19ページ。**	**17H624**	**HL 639**	**5**
五条四坊二町跡，烏丸綾小路遺跡	下・高倉通綾小路下る竹屋町388-2他4筆	3/5	GL-0.35mまで盛土。	17H681	HL 613	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条四坊四町跡、烏丸綾小路遺跡	**下・高倉通高下る葛籠屋町507-2**	**1/29**	**GL-1.02mで灰黄褐色泥砂の中世包含層を切って黒色粘質土の時期不明土坑、-1.36～-1.46mで黄色砂礫を切ってにぶい黄褐色粘質土の鎌倉土坑。**	**17H413**	**HL 550**	**5**
五条四坊十二町跡	下・高辻通柳馬場東入堀金町160	1/29～2/6	GL-1.4mまで盛土。	17H586	HL 551	5
六条二坊九町跡、烏丸綾小路遺跡	**下・醒ヶ井通松原下る篠屋町59**	**17/5/24～18/7/4**	**GL-1.0mまで盛土。**	**17H084**	**HL 071**	**4**
六条二坊十三町跡、烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通五条下る小柳町502-1, 503-1	2/13	№1：GL-0.7mで黒褐色粘土質シルトの近世近代焼瓦層, -1.2mで黒褐色粘土質シルトの中世包含層, -1.3～-2.0mまで黄褐色シルトの地山を切って暗オリーブ褐色シルト(礫多量)の柱穴と暗褐色粘土質シルトの時期不明ピット。№2：GL-0.51mで暗褐色シルト(炭化物, 焼土, 焼瓦含)の近代包含層, -0.74mで暗褐色砂礫の近世洪水層, -0.9～-1.02mで黒褐色砂質シルトの近世包含層。	17H667	HL 578	4
六条三坊十一町跡	**下・横溝坊町318,316**	**1/22・26・29**	**GL-1.04mでにぶい黄褐色泥砂の中世包含層を切って黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明ピット, -1.36mで黄褐色砂泥, -1.8～-2.14mで黄褐色砂泥の地山。**	**17H486**	**HL 536**	**5**
六条四坊七町跡	下・堺町通五条上る猪屋町228-1, 228-3, 230-1, 230-2	2/13・19	GL-1.7mまで盛土。	17H517	HL 575	5
六条四坊十五町跡	**下・西橋詰町743, 745, 799-9**	**1/19**	**GL-1.14mでにぶい黄橙色砂礫の氾濫堆積, -1.72～-2.18mで黒褐色泥砂の近世包含層。**	**15H746**	**HL 534**	**5**
七条二坊三・七町跡、史跡本願寺境内	下・堀川通花屋町下る門前町60	1/23・26, 2/2	GL-0.7mまで盛土。	29N047	HL 539	6
八条一坊十一町跡	**下・眼喜寺町35-1他**	**2/1**	**GL-0.8mまで盛土。**	**17H401**	**HL 556**	**6**
八条三坊一町跡	下・西洞院通七条下る東塩小路町607-12	3/6・7	GL-1.45mまで盛土。	17H340	HL 619	7
八条四坊七・八町跡	**下・小稲荷町48他 地内**	**3/23**	**GL-0.6mまで盛土。**	**17H497**	**HL 651**	**7**
九条一坊四町、右京八条三条・十一・十四町、四坊三・六・十一・十四町跡、西京極遺跡、御土居跡、唐橋遺跡、中久世遺跡	南・四ツ塚町, 久世中久世三丁目, 吉祥院九条町, 右・西院南寿町, 西院久保田町他 地先	1/12・15・25	№1：GL-0.8mで旧耕作土, -1.14～-1.47mで明黄褐色シルトの地山。№2：GL-0.6～-1.04mで褐色シルトとにぶい黄色砂泥の互層の地山。	17H563	HL 524	6・10・18
九条一坊十一町跡、史跡教王護国寺境内	**南・九条町1**	**17/10/5～18/7/24**	**康暦元年(1379)の焼土層を検出。本報告28ページ。**	**28N005**	**HL 660**	**6**
九条一坊十五町跡、史跡教王護国寺境内	南・九条町1	1/26・29・30	GL-0.22～-0.4mで明黄褐色シルトの地山。盛土内から近世土師器皿が瞰まって出土。	28N069	HL 547	6
九条一坊十五町跡、史跡教王護国寺境内	**南・九条町1**	**3/26**	**GL-0.15mまで盛土。**	**29N102**	**HL 654**	**6**
九条三坊九町跡、烏丸町遺跡	南・東九条上殿田町42他	1/23・24, 3/15	GL-0.04mで暗灰黄色礫混砂質シルト(炭化物含), -0.22mでオリーブ褐色砂質シルトの地山, -0.61～-0.8mで褐色砂礫の地山。	16H697	HL 538	7
九条三坊十四町跡、烏丸町遺跡	**南・東九条北烏丸町19-1**	**17/12/20～18/2/22**	**№1：GL-0.8mで黒褐色粘質土の近世包含層, -1.0mで暗灰色粘土の湿地状堆積を切って時期不明土坑, -1.1～-1.2mで黄灰色礫砂の地山。№2：GL-0.75mで黒褐色泥砂の近世包含層を切って黄灰色泥砂の近世土坑, -1.03～-1.3mでオリーブ灰色シルトの地山。**	**17H610**	**HL 496**	**7**
九条三坊十五町跡、烏丸町遺跡	南・東九条西山王町1他	1/22, 2/22, 3/2	GL-0.59mでにぶい黄色粘質シルト, -0.89～-0.96mで暗灰黄色礫砂。	16H092	HL 535	7
九条三坊十五町跡、烏丸町遺跡	**南・東九条西山王町5-6**	**3/6・8**	**GL-0.7mで黒色泥砂の旧耕作土, -0.82mでオリーブ褐色泥砂の旧耕作土, -1.0mで灰オリーブ色砂の河川堆積, -1.14mでオリーブ褐色砂礫の河川堆積。**	**17H766**	**HL 620**	**7**
九条四坊一町跡、烏丸町遺跡	南・東九条東山王町15, 15-2	2/26, 3/12	GL-0.86mで灰黄色砂, -1.33mで灰色シルト, -1.69～-1.83mでオリーブ色砂礫の地山。	17H754	HL 596	7
九条四坊九町跡	**南・東九条東岩本町15-22**	**1/9**	**GL-0.55mまで盛土。**	**17H592**	**HL 512**	**7**

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊二町，一条二坊一町跡	**上・仁和寺街道御前西入下横町～仁和寺街道天神東入北町 地先**	**17/11/14～18/3/13**	**№3：GL-0.7mで暗褐色粘質土の時期不明包含層。№4：GL-0.7～-0.9mで黄褐色粘質土の地山。**	**17H532**	**HR 420**	**9**
北辺二坊八町跡	北・大将軍西町188	2/13	GL-0.3mまで盛土。	17H645	HR 577	9
一条三坊十一町跡	**中・西ノ京馬代町11-1，11-4**	**2/16・27**	**GL-0.39mで灰黄褐色粗砂混粘土質シルト。**	**17H671**	**HR 585**	**8**
二条四坊十三・十四町跡，龍降寺跡	右・太秦安井奥畑町19-8，22-15，29	3/19・22・23	GL-0.52mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層，-0.6～-0.79mで黄橙色シルトの切って黒色泥砂とにぶい黄褐色シルトの時期不明土坑2。試掘調査済地点。	17H512	HR 642	8
三条二坊三町跡，西ノ京遺跡	**中・西ノ京樋ノ口町4，6，7**	**1/9・17**	**GL-1.02mで褐灰色泥砂(礫混)，-1.26～-1.47mで黄橙色微砂～シルトの地山。**	**17H618**	**HR 515**	**9**
三条二坊十町跡，西ノ京遺跡	中・西ノ京東中合町 地先	17/9/11～18/12/5	巡回時掘削終了。	17H185	HR 302	9
三条二坊十四町跡，西ノ京遺跡	**中・西ノ京下合町2の一部**	**3/6**	**GL-0.4mまで盛土。**	**17H704**	**HR 621**	**9**
三条四坊十四町跡	右・山ノ内西八反田町1-1，五反田18の一部，太秦安井一町田町15-2，太秦安井松本町12-2の一部	3/7	GL-1.57～-2.18mで黄褐色泥砂(微砂混)の地山。	17H653	HR 623	8
三条四坊十五町跡	**右・太秦安井一町田町14他**	**17/12/22，18/07/04**	**GL-2.5mまで盛土。**	**17H379**	**HR 500**	**8**
四条一坊三町跡	中・壬生御所ノ内町47-4	1/9・16	GL-0.9mまで盛土。	17H573	HR 514	11
四条二坊八町跡	**中・壬生上大竹町13**	**2/5**	**GL-0.57mで浅黄色泥砂～砂礫，-0.93mで黒褐色シルトの平安包含層，-1.07mでにぶい黄色砂礫，-1.1m～-1.16mで浅黄色シルトの地山。**	**17H611**	**HR 563**	**11**
四条三坊六町跡	右・西院春栄町53-2，53-25，53-3	1/25・26・30，2/8	GL-0.64mで暗灰黄色泥砂(マンガン多量含)，-0.77mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層，-0.93～-1.38mで明黄褐色シルトの地山。	17H683	HR 546	10
五条一坊十一町跡	**中・壬生松原町2-4**	**2/8**	**GL-0.64mまで盛土。**	**17H547**	**HR 562**	**11**
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町44-3	1/10	GL-0.61mで旧耕作土，-0.76mでにぶい黄橙色シルトの地山，-1.19～-1.34mでにぶい黄橙色礫砂の地山。	17H332	HR 519	11
五条二坊八町跡，壬生遺跡	**中・壬生西土居ノ内町24-4**	**1/16・17・25**	**GL-0.38mで黒褐色泥砂のシルトを切って黒褐色シルトの時期不明柱穴，-0.57mで黄褐色シルトの地山，-0.68mで灰黄色微砂の地山，-0.87～-1.23mで暗灰黄色砂礫の地山。**	**17H488**	**HR 528**	**11**
五条二坊九町跡，御上居跡	右・西院三蔵町25	3/22・30	GL-0.34mで黄灰色シルトの近世包含層，-0.68mで灰黄色砂礫の氾濫堆積，-0.83mで黒褐色粘土の湿地状堆積，-0.94～-1.12mで灰黄色砂礫の地山。	17H738	HR 646	11
六条一坊十二・十三町，七条一坊九・十六町跡	**下・中堂寺粟田町93**	**2/7・9・14・19，3/15，4/4・18・24・25，5/8・15，6/27，7/25**	**№5：GL-1.35mで黒褐色粗砂混粘土，-1.5～-1.7mで黒色微砂混粘土～粘土質シルト(ラミナ入)の湿地状堆積。№7：GL-1.38mで黄灰色砂泥，-1.58mで灰褐色砂泥(砂礫混)，-1.79mで黄灰色シルトの湿地状堆積，-2.05mでオリーブ黒色シルト(微砂混)の湿地状堆積。№8：GL-1.44mで黄褐色シルトの地山。**	**17H655**	**HR 572**	**11・13**
六条一坊十六町跡	下・中堂寺庄ノ内町24-6	2/1・8	GL-0.85mまで盛土。	17H615	HR 557	11
六条二坊十・十一町，六条四坊十・十一町跡	**右・西院東水中町(西大路五条交差点)，西院月双町(葛野大路五条交差点)**	**1/9・10**	**巡回時掘削終了。**	**17H316**	**HR 513**	**10・11**
六条四坊十六町跡	右・西京極葛野町6-1・2・3・4・7	2/5・8	GL-0.6mで灰黄色泥砂の上壌化層，-0.96mでにぶい褐色粗砂(固く締まる)，-1.15mで灰色シルトの平安包含層(上師器)，-1.39～-1.65mで灰色シルトの平安包含層。	16H351	HR 561	10
七条一坊九・十六町跡，衣田町遺跡	**下・西七条西八反田町～西七条東八反田町 地先**	**17/8/23～18/12/20**	**GL-1.4mまで盛土。**	**17H333**	**HR 269**	**13**
七条二坊二町跡，西市跡，衣田町遺跡	下・西七条東石ヶ坪町61の一部，62の一部	3/15	GL-0.32mで灰黄褐色粗砂混シルト，-0.44mで暗灰黄色粘土質シルト，-0.56mで黄灰色礫砂混粘土質シルト，-0.67～-0.71mで黄灰色礫砂。	17H682	HR 635	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
七条二坊八町跡	**下・西七条東御前田町39-1，西七条御前田町52-1**	**2/2・7・13・22，3/22**	**GL-0.84mで褐灰色シルトの平安包含層(瓦)，-0.91mで褐灰色微砂～粗砂の地山，-1.01mで灰黄色粗砂の地山，-1.59mで灰黄褐色砂礫の地山。**	**17H244**	**HR 558**	**13**
七条四坊十三町跡	右・西京極西川町42の一部	1/24	GL-0.68mで旧耕作土，-0.8mでオリーブ褐色シルト(説混)，-0.98mでオリーブ褐色砂質シルト，-1.09mで暗オリーブ褐色砂礫，-1.27m～-1.62mで暗灰黄色砂礫の地山。	17H609	HR 543	12
八条二坊十一町跡，衣田町遺跡	**下・七条御所ノ内中町50-2**	**3/28，4/4**	**GL-0.21mで旧耕作土，-0.44mで灰褐色粘質土の湿地堆積，-0.84mで灰色粘質土の湿地堆積，-1.11～-2.64mで灰黄色砂礫の地山。**	**17H710**	**HR 657**	**13**
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-2(1号地)	17/8/17・23，18/1/12	GL-0.28mで暗褐色粘土質シルトの弥生包含層を切って灰黄褐色粘土質シルトの弥生東西溝(弥生土器)，-0.45mでにぶい黄褐色粘土質シルトの弥生包含層，-0.52～-0.58mで灰黄褐色粘土質シルトの弥生包含層。	17H276	HR 245	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋門脇町21-3(2号地)**	**17/8/17，18/1/12**	**GL-0.33mでにぶい黄橙色粘質シルトの時期不明包含層，-0.43mでにぶい黄橙色粘質シルト(鉄分沈着)，-0.59～-1.5mで黄橙色粘質土の地山を切って灰黄褐色粘質土の時期不明土坑。**	**17H283**	**HR 252**	**13**
九条一坊十町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町29-6の一部，29-7の一部	1/5	GL-0.3mまで盛土。	17H582	HR 509	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	**南・唐橋花園町3(8号地)**	**17/7/10～18/1/30**	**GL-0.28mで灰色砂質土の旧耕作土，-0.39mで灰黄褐色砂礫の地山，-0.86～-1.13mで褐灰色砂礫の地山。**	**17H134**	**HR 195**	**13**
九条一坊十二町跡，西寺跡	南・唐橋花園町3(9号地)	17/7/11・18，18/1/29	GL-0.09mで旧耕作土，-0.24mで褐灰色シルト(粘質，マンガン多量含)を切って褐灰色シルト(鉄分多量含)の落込。	17H135	HR 196	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	**南・唐橋花園町3(1号地)**	**17/7/12，18/2/16**	**GL-0.07mで暗褐色シルトの旧耕作土，-0.14mで暗灰黄色粘土質シルトの旧耕作土，-0.2mで褐色粘土質シルトを切ってオリーブ褐色シルトの平安落込。**	**17H127**	**HR 188**	**13**
九条一坊十二町跡，西寺跡	南・唐橋花園町3(2号地)	17/7/12～18/12/18	GL-0.20mでにぶい黄橙色シルトの地山。	17H128	HR 189	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	**南・唐橋花園町3(4号地)**	**17/7/13～18/12/18**	**GL-0.32mで黄灰色粗砂。**	**17H130**	**HR 191**	**13**
九条一坊十二町跡，西寺跡	南・唐橋花園町3(5号地)	17/7/13～18/8/9	GL-0.3mでにぶい黄褐色泥砂の旧耕作土，-0.65～-0.7mで黄灰色粗砂の地山。	17H131	HR 192	13
九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋西寺町 地先**	**17/5/31～18/1/11**	**唐橋遺跡の落込，西寺期の整地層を確認。本報告37ページ。**	**28C090**	**HR 094**	**13**
九条四坊四町跡	南・吉祥院中河原里南町5	2/7	GL-0.17mでにぶい黄褐色砂泥，-0.4mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	17H590	HR 573	12
九条四坊六町跡	**南・吉祥院中河原里北町3，4，5，7の一部，8の一部**	**3/20**	**GL-0.63mで黒褐色細砂混シルトの旧耕作土，-0.69mで黄灰色細砂混シルト，-0.75～-0.82mで褐色粘土質シルトの地山。**	**16H524**	**HR 643**	**12**

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
愛宕山遺跡	右・嵯峨愛宕町1	17/12/2～18/8/5	桃山茶陶を多量に採集。本報告39ページ。	17A007	UZ 632	26-3
嵯峨遺跡，檀林寺跡	**右・嵯峨天龍寺立石町5-10他**	**3/8～28，4/2・5，6/19・26，7/19**	**GL-0.25mで暗褐色シルト，-0.4mで黒褐色シルトの時期不明包含層，-0.65mで褐色粘土質シルトの地山，-0.78mで褐色砂礫シルトの地山。試掘調査済地点。**	**17S029**	**UZ 625**	**23-1**
嵯峨遺跡	右・嵯峨大覚寺門前井頭町 地内	3/2・6・14	GL-0.8～-1.4mで黄褐色シルトの地山。	17S687	UZ 614	23-1
嵯峨遺跡	**右・嵯峨五島町1-64**	**2/27**	**GL-0.18mまで盛土。**	**17S666**	**UZ 603**	**23-1**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
蛭蟻遺跡，蛭蟻北堀町遺跡	右・蛭蟻天龍寺今堀町15-42(字号地)	2/16・19	GL-0.15mまで盛土。	17S680	UZ 586	23-1
広沢古墳群	**右・蛭蟻広沢池下町**	**2/7・8**	**GL-0.7mまで盛土。**	**17S641**	**UZ 571**	**23-1**
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-111	2/16	GL-0.12mで黒褐色礫混シルト，-0.28mで黄褐色礫混シルトの地山。	17S711	UZ 587	20
法金剛院境内	**右・花園寺ノ内町2-4，18**	**3/7・14**	**GL-0.4mまで盛土。**	**17S697**	**UZ 624**	**20**

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1 地内	17/11/27，12/18・19・20・21・25・26，18/1/9	№1：GL-1.0mで浅黄色粘質土の時期不明包含層，-1.4mで黄褐色粘質土(締りやや無)，-1.8～-2.55mで黄褐色粘質土(締り有)の地山。№4：GL-0.45mで黄色砂礫の地山。-0.55～-0.75mで暗褐色砂礫の地山。	17S369	RH 449	23-2
植物園北遺跡	**北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町45**	**3/14**	**GL-0.3mまで盛土。**	**17S696**	**RH 634**	**23-2**
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町20-8	3/28・30	GL-0.37mでオリーブ褐色礫混シルト(炭化物含)の時期不明包含層，-0.47～-0.57mで褐色シルトの地山。	17S814	RH 658	23-2
植物園北遺跡，芝本瓦窯跡	**左・松ヶ崎芝本町 地内**	**2/6～12/25**	**GL-0.67～-0.92mで旧耕作土。**	**17S686**	**RH 568**	**23-2**
上総町遺跡	北・小山東大野町 地先	2/20・23，3/5・13・30	GL-0.1mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層，-0.33mで明褐色砂質土，-0.4～-0.7mで褐灰色砂礫。	17S729	RH 592	17-1
上京遺跡，寺ノ内旧域	**上・上立売通小川西入御三軒町～小川通上立売上る挽木町 地先**	**17/9/22～18/7/23**	**GL-0.6mまで盛土。**	**17S364**	**RH 325**	**17-1**
上京遺跡	上・烏丸通鞍馬口下る東入上御霊中町456-4	1/11	GL-0.5mで黒褐色礫混シルトの近世包含層。	17S583	RH 521	17-1
上京遺跡	**上・大宮通五辻下る観世町114-4，117，118-1，120-1，122，五辻通大宮西入五辻町36，36-1**	**3/5・9**	**GL-2.47mで明黄褐色シルトの地山，-2.72～-2.98mで灰色シルトの地山。**	**17S449**	**RH 615**	**16-1 17-1**
北野遺跡	北・平野鳥居前町84-4，85-2	1/23	GL直下で黒褐色シルトの時期不明包含層，-0.3～-0.4mで黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの時期不明ピット(土師器)。	17S548	RH 542	16-1
北野天満宮	**上・馬喰町931**	**17/6/19～18/5/2**	**№1：GL-0.13mで黒色泥土，-0.40～-0.47mでにぶい黄色細砂。№3：GL-0.3mでオリーブ褐色泥砂の近世包含層，-0.58mで黄褐色泥砂(礫混)。**	**17S004**	**RH 124**	**16-1**
室町殿跡(花の御所)	上・中御霊図子町136	2/20	GL-0.42mまで盛土。	17S721	RH 590	17-1
室町殿跡(花の御所)	**上・室町通上立売下る裏築地町98-1，98-2**	**1/15・16・29**	**GL-0.2mまで盛土。**	**17S555**	**RH 526**	**17-1**
室町殿跡(花の御所)	上・室町通今出川上る裏築地町～烏丸通今出川上る御所八幡町 地先	2/28，3/1・5・7・13	GL-0.2mで明オリーブ褐色礫混粘土質シルトの近世包含層，-0.4～-0.8mまで褐色砂礫。	17S622	RH 605	17-1
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	**左・下鴨泉川町59**	**2/15，3/19**	**GL-0.19mまで褐色砂泥の時期不明盛土。**	**29N061**	**RH 564**	**17-2**
公家町遺跡	上・寺町通石薬師下る西側染殿町658 地内	17/11/28～18/1/19	GL-0.68～-0.92mで暗褐色泥砂。	17S368	RH 453	17-1

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内	**左・大原来迎院町540**	**2/15・16・18・20・21**	**山土由来の基盤層を確認。報告52ページ。**	**17A006**	**KS 617**	**26-5**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
小倉町別当町遺跡，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡	左・北白川堂ノ前町～北白川小倉町地内	2/6・9，3/5，4/17・26，5/2・11・16	№3：GL-0.15mで黒褐色粘質土の地山，-0.3mで黒色粘質土の地山，-0.5mで灰黄褐色粘質土の地山，-0.75mで明黄褐色砂礫混粘質土の地山，-1.23～-1.3mで黄色砂礫の地山。№4：GL-0.22mで灰黄褐色砂質土の時期不明包含層，-0.62～-1.1mで黒色泥土。	17S528	KS 567	21
吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡	**左・吉田本町他 地内**	**1/23**	**GL-0.5mまで盛土。**	**17S658**	**KS 540**	**21**
白河街区跡	左・白川通，浄土寺馬場町～鹿ケ谷上宮ノ前町 地内	17/7/11～18/1/30	№1：GL-0.28mで灰黄褐色微砂，-0.53mでにぶい黄褐色微砂，-0.68mで黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明包含層，-0.95～-1.68mで明黄褐色粗砂の地山。№10：GL-0.26mで南北方向石列，-0.42～-1.55mで黄橙色砂礫の地山。	17S140	KS 202	21
法勝寺跡，岡崎遺跡	**左・岡崎法勝寺町22**	**2/26，3/12**	**GL-1.45mまで盛土。**	**17R735**	**KS 597**	**21**
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町22	2/26	GL-0.33mまで盛土。	17R736	KS 598	21 22
史跡詩仙堂	**左・一乗寺門口町，一乗寺小谷町，一乗寺松原町**	**1/12，3/12**	**GL-0.25～-0.4mで灰白色粗砂の盛土。**	**29N044**	**KS 522**	**26-6**
如意寺跡	左・鹿ケ谷桜谷町1-1	3/20	GL-0.09mで暗灰黄色礫混シルト，-0.31mで黒褐色礫混シルト，-0.47～-0.62mで褐色細砂礫。	17S672	KS 644	27-1
史跡南禅寺境内	**左・南禅寺福地町86**	**2/27・28，3/1**	**GL-0.55mでにぶい黄褐色砂礫混粘質土，-0.9～-1.1mで明黄褐色砂質土と灰色シルトの互層。**	**29C103**	**KS 604**	**21**

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡青蓮院旧仮御所	東・粟田口三条坊町69-1	2/20	GL-0.12～-0.19mで褐色砂質土。	29C118	RT 593	22
知恩院境内	**東・粟田口三条坊町**	**3/16・23**	**GL-0.55mまで盛土。**	**17S782**	**RT 637**	**22**
建仁寺境内	東・大和大路四条下る三丁目博多町69-1，69-2	1/17・19	GL-0.49mでにぶい黄橙色シルトの近世包含層，-0.65mで黄褐色泥砂，-0.85mでにぶい黄褐色泥砂，-1.05～-1.27mで褐灰色粗砂の時期不明包含層。	17S638	RT 533	22
寺町旧城	**下・寺町通四条下る貞安前之町614-54，河原町通四条下る二丁目稲荷町318-6**	**3/22・26 8/15**	**GL-0.64mでにぶい黄褐色砂礫を切って黄褐色泥砂の落込，-1.13～-1.56mで褐灰色砂礫の氾濫堆積。**	**17S770**	**RT 649**	**22**
法住寺殿跡，六波羅政庁跡	東・茶屋町527	3/22	GL-0.15mまで盛土。	17S674	RT 648	22
法住寺殿跡，六波羅政庁跡	**東・茶屋町527**	**3/26**	**GL-0.25mまで盛土。**	**17S783**	**RT 652**	**22**
法住寺殿跡，六波羅政庁跡，方広寺跡	東・茶屋町527	3/19，4/5	GL-0.33mまで盛土。	10S038	RT 640	22
山科本願寺南殿跡	**山・音羽千本町7-9**	**2/5・8・9**	**GL-0.15mまで盛土。**	**17S561**	**RT 565**	**27-2**
元屋敷廃寺	山・大塚元屋敷町62-40	3/8・13・15	GL-0.41mで黄褐色礫混シルトの地山，-0.64mで褐色礫混シルトの地山，-1.22mで褐色砂礫の地山，-1.42～-2.28mで褐色砂礫の地山。	17S716	RT 626	27-3
中臣遺跡	**山・西野山中臣町41-1，46，50，中鳥井町126**	**17/5/24・26・29，17/8/17**	**GL-0.69mで旧耕作土，-0.83mでにぶい黄褐色シルト(灰黄色シルトブロック混)，-1.01mで黄橙色シルト。**	**16N458**	**RT 082**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町55	17/12/27～18/1/30	GL-1.5mまで盛土。	17N578	RT 505	25-3
中臣遺跡	**山・勧修寺西金ヶ崎388**	**1/9**	**GL-0.3mまで盛土。**	**17N538**	**RT 517**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町30の一部	1/18	GL-0.15mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	17N630	RT 532	25-3
中臣遺跡	**山・東野舞台町47-1，48，49-1，50-1，51-1**	**1/23・26・31**	**GL-1.62mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。**	**17N022**	**RT 541**	**25-3**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中臣遺跡	山・東野錺台町57-15，57-13	1/26	GL-0.13mで黄褐色砂礫の氾濫堆積，-0.28mで暗灰黄色砂礫の氾濫堆積。	17N546	RT 548	25-3
中臣遺跡	**山・勧修寺東金ケ崎町30の一部**	**2/15**	**GL-0.2mまで盛土。**	**17N700**	**RT 581**	**25-3**
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-170，26-60の各一部	3/6	GL-0.32mで旧耕作土，-0.41mで褐色泥砂，-0.69～-0.94mで黄褐色泥砂の地山。	17N742	RT 622	25-3
中臣遺跡	**山・勧修寺西栗栖野町113-5(3号地)**	**3/6**	**GL-0.33mまで盛土。**	**17N693**	**RT 616**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町113-2(1号地)	3/19	GL-0.25mまで盛土。	17N692	RT 641	25-3
小野廃寺	**山・小野御所ノ内町～伏・醍醐御陵東裏町　地内**	**1/9～8/2**	**№1：GL-0.43mで暗オリーブ褐色シルトの時期不明包含層。№4：GL-0.22mでにぶい黄色細砂(小礫混)，-0.46～-1.60mで明褐色泥砂の地山。**	**16S099**	**RT 516**	**24-3**
勧修寺旧境内	山・勧修寺西北出町84	1/5	GL-0.3mまで盛土。	17S556	RT 510	27-4
勧修寺旧境内	**山・勧修寺仁王堂町8-1，8-2**	**3/22**	**GL-0.66mまで盛土。**	**17S212**	**RT 647**	**27-4**

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町西尾～深草大亀谷大山町	17/8/21～18/12/21	GL-0.12mで褐色泥砂の土壌化層，-0.4mで赤褐色シルト～泥砂(固く締まる)の造成土，-0.46mで黄褐色粗砂の造成土。	16F293	FD 261	15
伏見城跡	**伏・観音寺町210-1，211-1，金森出張6-1**	**17/12/22～18/5/14**	**GL-1.45mで明黄褐色砂礫混粘質土の伏見城期造成土，-1.83mで黒褐色粘質土の地山，-1.86mで明黄褐色粘質シルトの地山，-2.13～-2.26mで浅黄色砂礫の地山。**	**17F633**	**FD 501**	**14**
伏見城跡	伏・丹後町他 地内	17/12/25・26，18/1/9・18・19・30，2/8・22	GL-0.45mで褐灰色砂(固く締まる)の時期不明路面，-0.52mで黄褐色粗砂，-0.62mで黄褐色粗砂，GL-1.05mで暗灰黄色泥砂(固く締まる)の時期不明路面，-1.17～-1.3mで黄褐色粘土(固く締まる)の時期不明路面。	17F377	FD 503	14
伏見城跡	**伏・銀座三丁目323の一部，322-3の一部**	**17/12/28，18/1/4・9・18**	**GL-0.48mでオリーブ褐色泥砂(炭化物含)の伏見城期造成土，-0.56～-0.72mで褐色泥砂の伏見城期造成土。**	**17F597**	**FD 507**	**14**
伏見城跡	伏・桃山町下野27-1，27-10の一部	2/7，5/31，6/7～11	近世の推定松平下野守（結城秀康，松平忠吉邸）の虎口を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	16F684	FD 570	15
伏見城跡	**伏・御駕籠町118**	**2/26・27**	**GL-1.15mまで盛土。**	**17F584**	**FD 599**	**14**
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町5-2	2/28	GL-0.58mまで盛土。	17F452	FD 606	15
伏見城跡，御香宮廃寺	**伏・御香宮門前町176**	**17/5/8～18/12/25**	**GL-1.19mで褐色砂質土の近世包含層，-1.25mで黒褐色泥砂の地山を切って暗褐色シルトの近世土坑，-1.95～-2.39mで明黄褐色シルト。**	**16F751**	**FD 057**	**14**
伏見城跡，指月城跡，泰長老遺跡	伏・桃山泰長老159	17/12/15～18/12/21	GL-0.15mで黄褐色泥砂の伏見城期造成土。	17F261	FD 489	15
伏見城跡，桃山古墳群(永井久太郎古墳)	**伏・桃山町島津60-6**	**2/28**	**GL-0.44mで明黄褐色砂礫混粘質土の伏見城期造成土。**	**17F720**	**FD 607**	**15**
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町22	1/30	GL-0.3mまで盛土。	29C087	FD 553	24-3
史跡醍醐寺境内	**伏・醍醐醍醐山国有林無番地(醍醐山国有林31・33林班)**	**2/26，3/2，6/4**	**GL-0.1mで黄褐色泥砂，-0.31mで黄褐色泥砂の地山，-0.67～-1.07mで明褐色粘土の地山。**	**29N056**	**FD 600**	**29-4**
小野廃寺	伏・醍醐古道町 地内	3/27，4/2～10，5/17～31，6/12～26，7/20～30，8/2～21	№11：GL-0.2mで明褐色シルトの地山，-0.38mでにぶい黄色シルトの地山，-0.95～-1.21mで浅黄色シルトの地山。№12：GL-0.35mでオリーブ褐色シルトの時期不明包含層，-0.55mで灰黄色砂礫，-1.15mで黄色粗砂の地山。	17S418	FD 653	24-3

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	**伏・竹田浄菩提院町315，316**	**2/13・14・16・22**	**№2：GL-0.53mで暗オリーブ色シルトと暗オリーブ色粘土質シルトの旧耕作土，-0.66mでオリーブ褐色シルト，-0.8mでオリーブ褐色砂質シルト，-0.9mで暗オリーブ色細砂～シルトの河川堆積，-0.96mで黄灰色微砂～シルトの河川堆積，-1.06mで黄灰色砂礫の河川堆積。**	**17T313**	**TB 579**	**24-1**
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽西芹川町74-3	3/27・29・30	GL-0.66mで暗灰黄色シルト，-0.77mで灰オリーブ色細砂混シルト，-0.81～-0.9mで暗褐色粘土質シルトの古墳包含層(土師器壺，須恵器費体部)。	17S741	TB 655	27-8
久我殿遺跡	**伏・久我本町4-186**	**2/5**	**GL-0.43mで黄灰色シルトの旧耕作土，-0.54mで灰色泥砂の旧耕作土，-0.61mで灰色砂泥，-0.68～-0.89mで灰白色微砂の地山。**	**17S543**	**TB 566**	**18-3 19**
久我東町遺跡	伏・久我東町他 地内	2/19	GL-0.7mで旧耕作土，-1.1mで緑灰色粘土の湿地状堆積，-1.35mで暗オリーブ灰色粘土の湿地状堆積，-1.1mでオリーブ灰色粘土の時期不明湿地状堆積。	17S376	TB 589	19
深草遺跡	**伏・深草キトロ町15-3**	**3/29**	**GL-1.43mまで盛土。**	**17S515**	**TB 659**	**28-1**

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺三坊十四町跡，大藪遺跡	南・久世大藪町371-2，372，374-1の一部	2/26	GL-0.19mまで盛土。	17NG640	NG 601	18-3
左京一条四坊十三町跡	**伏・久我本町11-10**	**1/9**	**GL-1.12～-1.35mで旧耕作土。**	**17NG607**	**NG 518**	**18-3 19**
左京二条四坊四・八町跡、東上川遺跡	南・久世東上川町376-4，376-14，376-15	1/12	GL-1.06mまで盛土。	17NG395	NG 525	1 19
左京五条四坊十三町跡	**伏・羽束師古川町 地内**	**17/12/12・25，18/1/9，5/31**	**№1：GL-1.0mで灰色粘質土(炭化物含)の湿地状堆積，-1.25mでオリーブ灰色粘質土の湿地状堆積，-1.35～-1.55mで灰色粘質土の湿地状堆積。№2：GL-0.7mでオリーブ黒色粘土，-1.02mでにぶい黄褐色泥砂。**	**17NG552**	**NG 483**	**19**
左京六条四坊五町跡	伏・淀樋爪町122他 地内	1/22，8/15	GL-2.26mまで護岸に伴う現代盛土。	17NG480	NG 537	19
左京九条三坊五・十二町跡、淀城跡	**伏・淀本町225**	**17/11/7～18/11/30**	**GL-1.01mで暗灰黄色粘質土，-1.13～-1.42mで黄色細砂。**	**17NG294**	**NG 406**	**25-4**
左京九条三坊十四町跡	伏・納所妙徳寺13-1	2/6	GL-1.09mでにぶい黄色シルト，-1.3mで灰色砂泥，-1.47mで灰褐色砂泥，-1.59mでにぶい黄色砂泥，-1.98mで黒色シルト(細砂混)，-2.23mで灰色砂礫。	17NG540	NG 569	25-4
左京九条四坊一町跡	**伏・納所星柳他 地内**	**1/16・25**	**GL-1.25mで暗オリーブ灰色微砂混粘土(植物遺体含)，GL-0.18mで暗緑灰色微砂混粘土，-0.36mで緑灰色微砂混粘土の鎌倉包含層(瓦器椀)，-0.56～-0.99mで暗緑灰色微砂混粘土。**	**16NG518**	**NG 529**	**25-4**

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
松尾十三塚古墳群	西・嵐山宮ノ前町35-12, 35-18	1/5	GL-0.59mで旧耕作土, -0.7～-0.79mで黄灰色粘土質シルト(炭化物含)。	17S527	MK511	28-7
浄住寺(谷之堂)跡	**西・山田南町27-3の一部**	**1/29**	**GL-0.42～-0.7mで黄橙色シルトの地山。**	**17S617**	**MK552**	**28-8**
革嶋館跡	西・川島玉頭町8-9, 10, 11-1の一部, 11-2, 11-5	17/12/12・15, 18/4/4	GL-0.15～-0.35mで明黄褐色シルトの地山。	17S389	MK484	29-1
中久世遺跡	**南・久世中久世町二丁目112(4号地)**	**17/7/12, 18/4/16**	**GL-0.15mで旧耕作土, -0.25～-0.95mで明黄褐色シルトの地山。**	**17S164**	**MK172**	**18-3**
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(5号地)	17/7/12, 18/4/16	GL-0.65～-0.8mで明黄褐色シルトの地山。	17S165	MK173	18-3
中久世遺跡	**南・久世中久世町二丁目112(8号地)**	**17/7/13, 18/4/16**	**遺跡時掘削終了。**	**17S168**	**MK176**	**18-3**
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(9号地)	17/7/13, 18/4/16	GL-0.08mで灰黄褐色シルトの地山, -0.5mでにぶい黄橙色細砂の地山, -0.78～-0.95mでにぶい黄橙色シルトの地山。	17S169	MK177	18-3
中久世遺跡	**南・久世中久世町二丁目112(6号地)**	**17/7/19, 18/4/16**	**GL-0.36～-0.64mでにぶい黄色泥砂の地山を切って暗灰黄色シルトの時期不明南北溝。**	**17S166**	**MK174**	**18-3**
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(7号地)	17/7/19, 18/4/16	遺跡時掘削終了。	17S167	MK175	18-3
中久世遺跡	**南・久世中久世町五丁目32-7**	**1/16**	**GL-0.4mまで盛土。**	**17S407**	**MK530**	**18-3**
福西古墳群	西・大枝中山町～北福西町 地内	17/7/24～18/4/4	GL-0.25～-0.7mで褐色粗砂混粘土質シルトの地山。	17S141	MK221	26-2
福西古墳群	**西・大枝中山町3-153, 3-225**	**2/13**	**GL-0.47～-0.52mで褐色細砂混粘土の地山。**	**17S529**	**MK580**	**26-2**
福西古墳群	西・大枝中山町7-205	2/26・27	GL-0.9mまで盛土。	17S746	MK602	26-2
福西古墳群	**西・大枝中山町7-202 (2号地)**	**12/18**	**GL-0.6mまで盛土。**	**17S745**	**MK610**	**26-2**
福西古墳群, 大枝遺跡	西・大枝北福西町二丁目～大枝南福西町一丁目他 地内	17/10/18～18/4/10	GL-1.15mで明黄褐色砂泥(礫混, 固く締まる)の地山。	17S086	MK377	26-2

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
周山廃寺, 周山古墳群, 高梨経塚, 高梨遺跡	右・京北町中山39-4(周山中学校敷地)他	1/15・24, 8/1	№3：GL-0.25mで暗褐色粘土質シルト(炭化物含), -0.63～-0.53mで黄褐色礫混シルトの地山。 №4：GL-0.85mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層, -1.3mで明黄褐色泥砂の地山。	16S433	UK 527	29-3

Ⅱ　2018年　4～12月期(平成30年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
兵庫寮跡	上・仁和寺街道七本松東入一番町108-2，108-3	7/9	GL-0.3mまで盛土。	18K273	HQ181	1
兵庫寮跡	**上・下ノ森街道一条下る西町～一番町地先**	**10/31，11/1・8**	**GL-0.2mで黒褐色泥砂，-0.5～-0.6mでにぶい黄褐色砂礫。**	**18K518**	**HQ371**	**1**
大蔵省跡	上・六軒町通今出川下る西入三軒町～六軒町通今出川下る四番町地先	4/27～5/21	GL-0.65～-0.73mで黒褐色泥砂(炭化物含)の近世包含層。	18K040	HQ063	1
大蔵省・主殿寮跡，聚楽第跡	**上・東西俵屋町167～今新在家町205-11地先**	**5/15～6/12**	**GL-0.95mまで盛土。**	**18K087**	**HQ082**	**1**
大蔵省跡，聚楽第跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町地先	10/5	GL-1.35mまで盛土。	18K488	HQ321	1
主殿寮跡，聚楽第跡	**上・今新在家町445-4地先～新白水丸町462-106地先**	**4/6・9・19，5/2**	**GL-0.1mで黒褐色砂混粘質土の近世包含層，-0.3～-0.7mでにぶい黄橙色砂礫混粘質土。**	**17K830**	**HQ008**	**1**
主殿寮跡，聚楽第跡	上・一条通浄福寺東入南新在家町346の一部，347-1の一部	11/30	GL-0.2mまで盛土。	18K557	HQ416	1
茶園跡，聚楽第跡	**上・新白水丸町462-53～下鍛石町208-11地先**	**6/21～28，7/4・11**	**GL-0.65mまで盛土。**	**18K155**	**HQ149**	**1**
茶園跡，聚楽第跡	上・鍛石町10-1～10-10地先	11/12	GL-0.5mまで盛土。	18K555	HQ391	1
内教坊跡，聚楽第跡	**上・和泉町通上長者町上る和水町439-42**	**6/22**	**GL-0.44mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。**	**18K112**	**HQ152**	**1**
内教坊跡，聚楽第跡	上・和泉町通上長者上る和水町439-41	6/22	GL-0.27mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18K135	HQ153	1
内教坊跡，聚楽第跡	**上・神明町444地先**	**9/27**	**GL-0.25mまで盛土。**	**18K408**	**HQ310**	**1**
内教坊跡，聚楽第跡	上・神明町440-2～443-17地先	10/2・5・18，11/7	GL-0.7mまで盛土。	18K472	HQ315	1
正親司跡	**上・仁和寺街道下ノ森西入鳳瑞町地先**	**10/26～11/7**	**GL-0.2mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層，-0.48～-0.65mで黒色礫混粘土質シルト。**	**18K533**	**HQ360**	**1**
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上・下立売御前東入西東町地先	4/27，5/7・8・9	GL-0.7mまで盛土。	18K039	HQ062	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	**上・御前通妙心寺道東入天満屋町地先**	**5/10～31**	**GL-0.85mまで盛土。**	**18K041**	**HQ076**	**1**
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町332-1の一部	5/17	GL-0.35mまで盛土。	18K047	HQ088	1
宴松原跡	**上・利生町地先**	**8/2**	**GL-0.9で灰白色砂礫の地山，-1.36～1.59mまで黄色砂礫の地山。**	**18K302**	**HQ215**	**1**
宴松原跡	上・下長者町通六軒町東入利生町地先	10/9	GL-1.0～-1.45mでオリーブ褐色砂礫の地山。	18K423	HQ325	1
宴松原跡	**上・下長者町通七本松西入鳳瑞町247-44，247-57**	**10/26**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18K475**	**HQ359**	**1**
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町245-15の一部	12/13	GL-0.23～-0.35mで明黄褐色シルト。	18K541	HQ440	1
宴松原跡	**上・下長者町通七本松西入鳳瑞町245-16の一部**	**12/13**	**GL-0.39～-0.56mで明黄褐色泥砂(小礫混)。**	**18K542**	**HQ441**	**1**
宴松原跡	上・下長者町通六軒町西入利生町291-8	12/20	GL-0.3mまで盛土。	18K616	HQ448	1
縫殿寮跡	**上・下長者町通上屋町西入二本松町17**	**7/12・13**	**GL-0.36mまで盛土。**	**17K268**	**HQ188**	**1**
縫殿寮跡	上・弁天町298～299-5地先	10/22・26	GL-1.2mまで盛土。	18K505	HQ347	1
左近衛府跡，聚楽第跡	**上・大宮通上長者町下る東堀町615-13**	**6/28**	**GL-0.37mまで盛土。**	**18K122**	**HQ161**	**1**
左近衛府跡，聚楽第跡	上・東堀町地先	10/23	GL-1.25～-1.56mでオリーブ褐色泥砂。	18K490	HQ354	1
左近衛府跡，聚楽第跡	**上・下長者通大宮西入東辰巳町地先**	**12/12**	**GL-2.0mまで盛土。**	**18K531**	**HQ436**	**1**
職御曹司跡	上・金馬場町170-6～170-1地先	7/13～23	GL-1.05mまで盛土。	18K156	HQ191	1
職御曹司跡	**上・天秤丸町193-3～193-6地先**	**10/3～18**	**GL-0.55mまで盛土。**	**18K443**	**HQ316**	**1**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
内裏跡	上・弁天町301～弁天町301-13 地先	4/10～20	GL-0.7mまで盛土。	18K019	HQ017	1
内裏跡	**上・土屋町通出水上る弁天町305-1**	**5/22**	**遺構時掘削終了。**	**18K060**	**HQ097**	**1**
内裏跡	上・弁天町300-2～300-11 地先	10/24～11/7	GL-0.6mまで盛土。	18K504	HQ357	1
内裏跡	**上・弁天町308-3～308-5 地先**	**11/7・8**	**GL-0.4mまで盛土。**	**18K506**	**HQ383**	**1**
内裏跡，聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-95の一部，914の一部，下立売通千本東入下る中務町489-62の一部	4/9	GL-0.15～-0.26mで暗褐色泥砂。	17K816	HQ011	1
内裏跡，聚楽遺跡	**上・千本通下立売下る小山町908-95，914-1，下立売通千本東入中務町489-62**	**5/14**	**GL-0.4mまで盛土。**	**18K078**	**HQ080**	**1**
内裏跡，聚楽第跡	上・東神明町270-1～田村備前町 地先	10/17	GL-0.5mまで盛土。	18K444	HQ344	1
内裏跡，聚楽遺跡	**上・下立売通千本東入田中町477-18**	**11/28・29**	**GL-0.4mまで盛土。**	**18K526**	**HQ413**	**1**
内裏跡，聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-3	12/6・7	GL-0.42mでにぶい黄褐色泥砂。	18K602	HQ425	1
内膳司跡	**上・出水通千本東入尼ヶ崎横町350-3**	**4/13，5/7**	**GL-1.06mでにぶい黄褐色シルト，-1.25mで黒褐色シルト，-1.40mでにぶい黄褐色シルト，-1.64～-1.77mで灰黄褐色粘質土。**	**17K299**	**HQ026**	**1**
真言院跡	上・下立売通千本西入稲荷町436-1	5/11	GL-0.3mまで盛土。	17K790	HQ032	1
南所跡，聚楽第跡	**上・田村備前町243-3～田村備前町201 地先**	**4/16・17・18・20**	**GL-0.4～-0.7mで黒褐色粘土の近世包含層(土師器皿，近世陶器)。**	**18K020**	**HQ033**	**1**
造酒司跡，風瑠遺跡	中・聚楽廻松下町12-37の一部，12-40	6/21	GL-0.44mで灰黄褐色泥砂。	18K130	HQ148	1
左馬寮跡	**中・西ノ京左馬寮町9-16**	**10/16・17**	**GL-0.26～-0.38mで浅黄色砂質土の地山。**	**18K139**	**HQ337**	**1**
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町9-17	10/16・17	GL-0.22mまで盛土。	18K140	HQ338	1
豊楽院跡	**中・聚楽廻西町104-3**	**4/6**	**遺構時掘削終了。**	**17K852**	**HQ009**	**1**
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町53-3	12/21	GL-0.42mで暗褐色シルト，-0.53mで明黄褐色シルトの地山。	18K650	HQ449	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	**中・聚楽廻中町46-1 地内**	**12/26**	**GL-1.5mまで盛土。**	**18K543**	**HQ452**	**1**
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町43-8	8/8	GL-0.3mまで盛土。	18K329	HQ226	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	**中・聚楽廻中町53-9**	**10/15**	**GL-0.25mまで盛土。**	**18K414**	**HQ335**	**1**
内舎人跡，聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-24	6/11	GL-0.57mまで盛土。	18K055	HQ129	1
内舎人跡，聚楽遺跡	**上・下立売通千本東入下る中務町490-23**	**8/20**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18K322**	**HQ237**	**1**
主水司跡，二条城北遺跡	上・主税町914～936 地先	9/5，11/12	遺構時掘削終了。	18K407	HQ265	1
大膳職跡，二条城北遺跡	**上・一町目839-4～842 地先**	**6/5～7/4**	**GL-0.44mでにぶい黄褐色砂泥の近世包含層，-0.6～-0.8mで黒褐色砂泥(炭含)。**	**18K157**	**HQ111**	**1**
大膳職跡，二条城北遺跡	上・三丁目672-1，左馬松町775，778，南伊勢屋町756-2	6/13	GL-0.65mで明黄褐色粗砂～砂礫，-0.82mで明黄褐色シルト(よく締まる)，-1.03～-1.35mまでにぶい黄褐色シルト(よく締まる)。	17K777	HQ132	1
大膳職跡，二条城北遺跡	**上・松屋町通丸太町上る三丁目669-1**	**8/6**	**GL-0.65mまで盛土。**	**18K331**	**HQ220**	**1**
大炊寮跡，二条城北遺跡	上・左馬松町792-1～792-2 地先	9/26	GL-0.35mで褐色シルトの地山を切ってにぶい黄褐色シルトの時期不明土坑(土師器皿)。	18K044	HQ306	1
大炊寮跡	**上・丸太町通黒門東入蘆屋町535-125**	**12/10**	**GL-0.6mまで盛土。**	**18K619**	**HQ428**	**1**
太政官跡，聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1038-1	8/29	GL-0.53mまで盛土。	18K276	HQ255	1
太政官跡，聚楽遺跡	**上・竹屋町通千本東入主税町 地先**	**9/3～10/23**	**GL-0.3mで褐色泥砂，-0.35m～-0.65mで黄褐色シルトの地山。**	**18K387**	**HQ262**	**1**
太政官跡，聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町 地先	9/3・14，10/18・19	GL-0.9mまで盛土。	18K386	HQ261	1
治部省跡	**中・西ノ京内畑町9の一部**	**9/10・11**	**GL-0.3～-0.35mで灰黄褐色泥砂。**	**18K353**	**HQ271**	**1**
式部省跡	中・西ノ京小堀町2-59	12/25	GL-0.44～-0.55mで黄色砂礫の地山。	18K658	HQ451	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡、内膳町遺跡	**上・小川通一条下る小川町203他**	**7/2・10・13**	**GL-1.19で灰黄褐色泥砂の近世包含層、-1.6mで灰黄色砂礫、-1.9～-2.76mで黄灰色砂礫の地山。**	**18H058**	**HL 168**	**2**
北辺三坊三町跡、内膳町遺跡	上・元上御門町地内	8/8・24	GL-0.15mで暗褐色砂礫シルト、-0.33mで褐色粘土質シルト(炭化物多量、火事痕跡)の近世～近代包含層、-0.48mでにぶい黄褐色礫混粘土質シルトの近世整地層、-0.55mでにぶい黄褐色礫混シルト(拳大礫多量)、-0.85mでにぶい赤褐色シルト(焼土多量含)の近世包含層、-1.0～-1.3mで黒褐色礫混シルトの中近世包含層。	18H187	HL 227	3
一条二坊十三町跡	**上・椹木町通油小路東入東魚屋町355-1、355-3**	**11/26**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18H577**	**HL 408**	**2**
一条三坊五町跡、旧二条城跡	上・室町通椹木町上る武衛陣町232	8/24・27、9/6・10	GL-0.48mで暗褐色礫混シルト(具殻)の近世包含層、-0.83mで黄褐色粘土質シルトの時期不明整地層、-1.05mで暗褐色シルト混砂礫、-1.17～-1.47mでオリーブ褐色砂礫。	18H213	HL 252	3
一条三坊十五町跡、新在家構え跡、旧二条城跡	**上・京都御苑13の一部**	**8/20・21・28、9/3・5・19・25・26・27・28、10/10**	**№7：GL-0.51～-0.79mで暗灰黄色泥砂の近世包含層、№11：GL-0.16mで褐灰色砂質土、-0.29mでにぶい黄褐色砂質土(固く締まる)の時期不明整地層、-0.39mでにぶい黄色砂質土(固く締まる)の時期不明整地層。**	**18H001**	**HL 238**	**4**
二条二坊四町跡、二条城北遺跡	上・大宮通椹木町下る一町目841、843、843-1	9/14・19、11/8	GL-0.52mで近世包含層、-0.68mでにぶい黄褐色泥砂の地山を切って近世土坑、-0.99mで黄橙色シルトの地山、-1.37～-1.91mで明黄褐色砂礫の地山。	18H311	HL 284	2
二条二坊八町跡、二条城北遺跡	**上・堀川通丸太町上る堀川町133**	**7/12・17・18・19・23・25・26**	**№2：GL-0.76mでにぶい黄褐色泥砂(炭化物含)、-0.86～-1.55mでオリーブ褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色粘質泥砂(拳大礫混)の近世土坑。**	**18H198**	**HL 187**	**2**
二条二坊十・十五町跡、高陽院跡、二条城北遺跡	中・油小路通丸太町下る大文字町50他	6/13	GL-0.4mで近代盛土層、-1.0～-1.7mで近世包含層。	17H642	HL 138	2
二条三坊二町跡	**中・新町通丸太町下る大炊町215-1他**	**5/21、7/23**	**GL-1.0mまで盛土。**	**18H125**	**HL 094**	**3**
二条三坊三町跡	中・釜座通竹屋町下る亀屋町327-1、327-4、舟財天町297	8/23	GL-0.6mまで盛土。	18H152	HL 248	3
二条三坊七町跡	**中・丸太町新町大炊町186、188**	**9/13・14・19**	**GL-1.52mで灰色泥砂の平安前期包含層、-1.71～-1.9mで灰色粗砂。**	**18H210**	**HL 283**	**3**
二条三坊十一町跡、烏丸丸太町遺跡	中・両替町通夷川上る松竹町134	6/8～28、7/10	№1：GL-1.08mで黄褐色砂泥、-1.26～-1.42mで灰黄色砂泥。№2：GL-0.72mで近世焼土層、-0.95～-1.23mで淡黄色粗砂。	18H066	HL 116	3
二条四坊二町跡、烏丸丸太町遺跡	**中・間之町通竹屋町上る大津町655-2、東洞院通丸太町下る三本木町440-1**	**4/10・12・20・23・24**	**GL-0.5mで明赤褐色焼土(瓦含)、-0.59mでにぶい黄褐色泥砂、-0.67mでにぶい黄褐色泥砂、-0.72mで黒褐色泥砂(土師器、炭化物含)の近世包含層、-0.89mでオリーブ褐色泥砂(拳大礫多量、染付、炭化物含)の近世包含層。**	**17H690**	**HL 019**	**3**
二条四坊五町跡、烏丸丸太町遺跡	中・高倉通二条上る天守町764	4/10・16・20、5/1	GL-1.95mまで盛土。	17H359	HL 018	3
二条四坊十町跡、烏丸丸太町遺跡	**中・西丁目180 地先(裁判所前 西行)**	**5/23**	**GL-0.7～-1.15mで灰黄褐色粘質土の近世包含層。**	**17H838**	**HL 098**	**3**
二条四坊十三町跡	中・御幸町通二条上る逢磨町609、610	9/21・27・28、10/1	GL-1.85～-2.87mで暗褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色粗砂(礫混)の室町土坑(土師器)。	18H242	HL 295	3
二条四坊十五町跡、烏丸丸太町遺跡	**中・富小路通丸太町下る桝屋町～麩屋町通丸太町下る舟屋町 地先**	**5/31～11/22**	**№3：GL-0.92mで褐灰色粗砂、-1.1～-1.27mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。№4：GL-0.82mで黄色泥砂、-1.1mでオリーブ色粗砂、-1.45～-2.1mで灰オリーブ色砂礫の地山。**	**18H137**	**HL 109**	**3**
三条一坊一・二町跡	中・西ノ京北聖町68-5の一部	10/9	GL-0.4mで黒褐色礫混シルトの近代包含層。	18H480	HL 326	2
三条二坊四町跡	**中・新シ町通油小路下る上一文字町305-1、307**	**5/23・24**	**GL-0.65mまで盛土。**	**18H006**	**HL 099**	**2**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊五町跡	中・岩上通姉小路下る上八文字町476	6/8・11	GL-0.48mで黄橙色泥砂の時期不明整地層，-0.52mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層，-0.66mで黄橙色泥砂の時期不明整地層，-0.69mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層，-0.8mで灰白色泥土の時期不明整地層，-0.91～-1.25mまで黄橙色シルト(礫混)の地山。	18H021	HL 115	2
三条二坊十四町跡	**中・壺屋町457-2**	**8/23，9/10・13・20，10/1・4**	**GL-1.53mで暗オリーブ褐色砂礫を切って暗オリーブ褐色砂礫(拳大礫多量含)と暗灰黄色粗砂の近世以降土坑，-1.58mで褐色泥砂(焼土，炭含)の近世包含層，-1.93～-2.03mで灰褐色泥砂。**	**18H303**	**HL 249**	**2**
三条三坊二町跡	中・釜座通押小路下る下松屋町724-3他	5/17・24	GL-0.35mで淡黄色礫砂の時期不明包含層，-0.67mにぶい黄褐色礫砂(礫混)，-0.91～-2.27mで黒褐色礫混粘質土。	17H795	HL 086	3
三条三坊二町跡	**中・釜座通二条下る上松屋町704，704-6**	**6/11・14・18**	**№1：GL-0.47mでにぶい黄褐色泥砂(礫混)，-0.94mで灰黄褐色泥砂，-1.11mで明赤褐色泥砂(炭含)，-1.36mで灰黄色粗砂，-1.63mで黄褐色泥砂，-1.85mで黄灰色泥砂の中世包含層(土師器)，-1.88mで灰白色粗砂，-1.91m～-2.02mで黄色シルトの地山。**	**17H765**	**HL 128**	**3**
三条三坊四町跡	中・西洞院通姉小路下る姉西洞院町524，524-1，525，525-1，525-2	5/23・24・30	№2：GL-1.15mで暗灰黄色粘質土の室町後半包含層，-1.34mで暗灰黄色粘質土を切って黄灰色礫砂の土坑，-1.44mでオリーブ褐色礫混粘質土，-1.68～-2.09mで明黄褐色礫混粘質土。№3：GL-1.5～-2.0mで明黄褐色砂礫を切って灰黄褐色泥砂(上部を径5cm大礫が覆う)の中世土坑。	18H052	HL 100	3
三条三坊五町跡，烏丸御池遺跡	**中・衣棚通姉小路下る突抜町130，131**	**6/15・20**	**GL-1.13mで黄灰色泥砂の近世包含層，-1.73～-2.08mで暗黄灰色泥砂の近世包含層。**	**17H818**	**HL 139**	**3**
三条三坊十町跡，烏丸御池遺跡，二条殿御池城跡	中・室町通押小路下る御池之町314他2筆	6/12・27，7/18～26，8/22・31	GL-3.02～-3.6mで明黄褐色砂礫の地山。	17H743	HL 130	3
三条三坊十三町跡，烏丸御池遺跡	**中・烏丸通三条上る場之町604**	**4/2**	**GL-1.28～-1.42mで黄灰色泥砂(炭化物含)の近世包含層。**	**17H763**	**HL 001**	**4**
三条三坊十三町跡，烏丸御池遺跡	中・烏丸通姉小路下る場之町586-2外，姉小路通東洞院西入車屋町245-2外，東洞院通三条上る善華院前町451-4外	4/17	GL-3.0m程で石仏群部を検出。	15H092	HL 041	4
三条四坊一町跡	**中・東洞院通二条下る瓦之町382-1，384**	**11/12・19・20**	**GL-1.24mで明黄褐色粘質土，-1.1mで暗灰黄色粘質土の時期不明包含層(土師器，黒色土器，瓦，上面非常に固く締まる)，-1.33～-1.34mでオリーブ黄色粘質土(炭化物少量含)の時期不明包含層。**	**18H569**	**HL 389**	**3**
三条四坊二町跡	中・東洞院通押小路下る船屋町399，401，押小路通高倉西入左京町124-1	12/10・11	GL-1.2mまで盛土。	18H583	HL 430	3
三条四坊七町跡，烏丸御池遺跡，等持寺跡	**中・御所八幡町他**	**4/26～5/24**	**GL-1.00～-1.60mで黒色泥砂(粘性有)。**	**18H057**	**HL 058**	**3**
三条四坊七町跡，等持寺跡	中・堺町通押小路下る扇屋町646	10/29，11/5・12・19・29	GL-0.67mで黒褐色砂泥(拳大礫混)，-1.01mで灰黄褐色泥砂の中世包含層(土師器)，-1.46～-1.86mで黄褐色泥砂(微砂混)。	18H084	HL 362	3
四条一坊一町跡	**中・壬生朱雀町25-13**	**10/22**	**GL-0.66mで灰黄褐色泥砂，-0.93mで灰オリーブ色粗砂の地山，-1.1～-1.33mで明褐色砂礫の地山。**	**18H393**	**HL 349**	**4**
四条二坊三町跡	中・猪熊通蛸薬師下る下瓦町588，590	6/21・25	GL-0.21～-0.39mで灰黄褐色泥砂。	18H081	HL 144	4
四条二坊四町跡	**下・黒門通四条上る立中町～堀川通三条下る下八文字町 地先**	**8/3，12/4**	**GL-1.1mまで盛土。**	**18H327**	**HL 218**	**4**
四条二坊九町跡	中・油小路通三条下る三条油小路町165，165-1，168-1	4/11・23	GL-1.42～-1.62mで褐色シルトの近世包含層。	17H643	HL 020	4
四条二坊十四町跡	**中・錦小路通油小路東入空也町487**	**5/9・10・14・16・17**	**№3：GL-1.22mで暗灰黄色泥砂，-1.6mで黄灰色泥砂の時期不明包含層を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑，-2.06～-2.15mでにぶい黄色シルトを切って黄褐色砂泥の時期不明ピット。**	**17H725**	**HL 073**	**4**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条二坊十四町跡	中・古西町452，空也町498	6/13	GL-0.61mで灰黄褐色砂層，-0.9mで黄灰色泥砂，-1.1～-1.51mで灰白色砂礫の地山。	17H233	HL 133	4
四条三坊一町跡	**中・柳水町81，81-1，80-6の一部**	**11/16**	**GL-0.91mで淡黄色細砂の地山。**	**18H532**	**HL 401**	**5**
四条四坊二町跡，烏丸御池遺跡	中・膳屋町187-3	4/16・18	GL-1.35mまで盛土。	17H850	HL 034	5
四条四坊七町跡	**中・高倉通六角下る和久屋町357，357-2**	**6/14**	**GL-0.65mまで盛土。**	**18H092**	**HL 137**	**5**
四条四坊十四町跡	中・寺町通蛸薬師下る円福寺前町278	12/18・21	№１；GL-0.96mで褐灰色泥砂，-1.2mで黄褐色細砂を切って褐灰色泥砂の時期不明土坑。№２；GL-1.14～-1.35mでオリーブ褐色粗砂の時期不明包含層。	18H431	HL 446	5
四条四坊十六町跡	**中・御幸町通三条下る八百屋町111-1**	**6/5**	**GL-0.7mまで盛土。**	**17H699**	**HL 112**	**5**
五条二坊四町跡	下・高辻大宮町138	10/30	GL-0.97mで明黄褐色砂泥の地山。-1.17mで灰色細砂の地山。-1.45～-1.64mで褐色粗砂の地山。	18H447	HL 370	4
五条二坊九町跡，本禅寺の構え跡	**下・醒ヶ井通四条下る高野堂町405-1，409の一部，413-1，415-2，415-3，417，堀川通四条下る四条堀川町272-5，272-6**	**9/11・13・14・20，10/1・15**	**GL-1.0mまで盛土。**	**18H150**	**HL 278**	**4**
五条二坊十六町跡，烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通四条下る妙伝寺町713-1，713-2，713-3，713-4，715，717	8/29	GL-1.15～-2.7mで明黄褐色砂礫の地山。	17H459	HL 256	4
五条三坊四町跡，だいうすの城跡，烏丸綾小路遺跡	**下・新町通高辻下る御影町467，469**	**6/14**	**GL-2.08～-2.41mで黄色シルトの地山。**	**18H095**	**HL 136**	**5**
五条三坊五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・新町通高辻下る御影町462-3	4/20	GL-1.92mで明黄褐色粘質土の地山。	17H724	HL 049	5
五条三坊十三町跡，烏丸綾小路遺跡	**下・東洞院通高辻下る燈籠町562他**	**11/29，12/13・14・17**	**GL-0.54mで暗灰黄色泥砂を切ってオリーブ黄色泥砂の土坑，-0.73mで灰オリーブ色砂泥(固く締まる)を切って黒褐色泥砂と暗灰黄色泥砂(炭化物含)の平安中期土坑(土師器皿)，-0.88mでにぶい黄色砂泥，-1.03～-1.12mでオリーブ黄色シルト。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。**	**18H068**	**HL 414**	**5**
五条四坊十二町跡	下・魅屋通高辻下る鍵屋町204	4/12・16	GL-0.69mで明赤褐色泥砂の焼土，-0.75mで炭化物層，-0.77mで褐灰色泥砂，-0.82mでにぶい黄褐色砂泥の近世包含層，-1.07mでオリーブ褐色砂泥の近世包含層。	17H785	HL 021	5
五条四坊十三町跡	**下・寺町通高辻下る京極町485-1・2，484，484-2，486，486-1，松原通魅屋町東入石不動之町699-2**	**10/3～9**	**GL-1.19mで炭・近世陶器を含む暗灰黄色泥砂の近世層を確認。**	**18H458**	**HL 312**	**5**
五条四坊十三町跡	下・寺町通高辻下る京極町494	11/19	GL-0.73mでにぶい黄色粗砂の近世包含層，-0.92mで黄褐色砂泥の近世包含層，-1.24mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層(瓦溜)，-1.81～-2.11mで灰黄褐色砂礫の地山。	18H415	HL 402	5
六条一坊七町跡	**下・中堂寺壬生川町22，22-1，23，38，42**	**4/12・19**	**GL-1.01mで黄褐色シルトの地山，-1.25～-2.21mで褐色砂礫の地山。**	**16H541**	**HL 025**	**4**
六条一坊十六町跡	下・上長福寺町244，245，216-9	7/2	GL-0.35mまで盛土。	17H457	HL 167	4
六条三坊一四町跡	**下・猪熊通五条下る柿本町671，699-2**	**5/1**	**GL-0.15mまで盛土。**	**17H678**	**HL 064**	**4**
六条二坊七町跡，烏丸綾小路遺跡	下・五条通堀川西入柿本町575	12/10・11・14	GL-0.82mで暗灰黄色泥砂の中世包含層，-0.93mで浅黄色細砂の地山，-1.23～-1.78mで黒褐色砂礫の地山。	18H243	HL 429	4
六条二坊十一町跡，烏丸綾小路遺跡	**下・油小路通五条下る中金仏町215-6**	**9/10**	**GL-1.67mでオリーブ黄色シルトの時期不明整地層，-1.8mで黄灰色シルト，-2.01mで灰白色砂泥，-2.14mで灰色粗砂，-2.22～-2.68mまで淺黄色粗砂～砂礫。**	**17H829**	**HL 272**	**4**
六条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡	下・楊梅通西洞院東入八百屋町64	7/26・27・30	GL-0.99～-1.31mで灰黄褐色粘質泥砂を切って褐色泥砂(礫混，炭化物含)の時期不明土坑。	18H283	HL 203	5
六条三坊四町跡，烏丸綾小路遺跡	**下・西洞院通五条下る小柳町495-2**	**10/10・11**	**GL-0.5mまで盛土。**	**18H193**	**HL 329**	**5**
六条三坊七町跡，烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通室町西入長刀切町211-1他	4/20，5/2・15	GL-1.21mで褐灰色粘質土の近世包含層，-1.66～-1.93mで褐灰色粘質土。	17H751	HL 050	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊中町跡、烏丸綾小路遺跡	**下・室町上新町の間五条上る小田原町232**	**10/12・15・17・19**	**№2：GL-1.55mでオリーブ黄色粘質シルトの時期不明包含層，-2.15mで灰オリーブ色粘質シルトの中世包含層(土師器)，-2.47mで灰オリーブ色粘質土(炭化物含)，-2.52～-2.7mでにぶい黄色細砂の地山。№3：GL-1.37mで明黄褐色粘質土，-1.56mで同層を切って灰黄褐色粘質土の中世土坑，-2.06mで黄灰色砂礫の時期不明包含層。**	**18H237**	**HL 333**	**5**
六条三坊十町跡、烏丸綾小路遺跡	下・諏訪町通五条上る高砂町375	11/8・12・16	GL-1.36～-1.88mで灰黄色砂質土の地山。	18H534	HL 385	5
六条三坊十一町跡	**下・梅梅通室町東入横諏訪町307-2，309-3**	**11/15**	**GL-0.33mで灰黄褐色粘質土(炭化物少量含)の近世後半包含層，-0.66mで褐灰色粘質土，-0.78mでにぶい黄褐色粘質土(上面硬化，焼土少量含)，-0.88～-1.22mで暗灰黄色粘質土(炭化物少量含)。**	**18H575**	**HL 397**	**5**
六条三坊十三町跡	下・大坂町397-2，397-3，下平野町481-2，483，488	5/7・8・15	GL-0.64mで灰色泥土(炭含)，-0.94～-1.14mで暗灰黄色砂泥。	18H037	HL 070	5
六条三坊十三町跡	**下・下平野町481-3，483-1**	**9/28，10/1・12**	**GL-1.24mで褐灰色粘質土，-1.9～-2.15mで褐灰色粗砂の地山。**	**18H366**	**HL 311**	**5**
六条四坊二町跡	下・万寿寺通高倉西入万寿寺亀屋町182	9/5	GL-0.22mまで盛土。	18H352	HL 266	5
六条四坊四町跡	**下・間之町通五条下る二丁目塗師屋町116**	**12/4**	**GL-0.18mで明褐色泥砂の焼土層，-0.25mで灰黄褐色泥砂，-0.37～-0.41mまで赤褐色泥砂の焼土層。**	**18H405**	**HL 423**	**5**
六条四坊七町跡	下・高倉通五条上る亀屋町164，168，168-1	10/10	GL-0.7mまで盛土。	18H271	HL 328	5
六条四坊八町跡	**下・堺町通松原下る鍛冶屋町244-7，244-3**	**11/8**	**GL-2.48～-2.51mで黄色細砂礫の地山。**	**18H262**	**HL 384**	**5**
六条四坊十三町跡	下・高瀬川筋五条下る平尻町497，498-1，498-2	8/6・7・20・24	GL-1.43mで暗灰黄色砂礫の近世流路堆積，-3.13～-1.85mでオリーブ褐色砂礫の流路堆積。	18H153	HL 221	5
六条四坊十五町跡	**下・御幸町通五条上る安上町616他**	**5/7～7/19**	**鎌倉の落込を検出。本報告22ページ。**	**17H567**	**HL 069**	**5**
七条一坊四町跡	下・朱雀正会町6-1の一部	4/25～5/11	GL-1.38mまで盛土。	17H826	HL 056	6
七条二坊十二町跡、東市跡	**下・油小路通七条上る米屋町165，166**	**7/3**	**GL-1.18mで灰色シルト，-1.37mで暗灰黄色砂礫の氾濫堆積。**	**18H151**	**HL 171**	**6**
七条三坊十三町跡、東本願寺前古墳群	下・常葉町754 地先(烏丸七条 北行)	5/21	GL-1.35mまで盛土。	17H839	HL 091	7
七条四坊八町跡、寺町旧域	**下・富小路通五条下る本塩竈町527**	**8/22**	**GL-0.98mまで盛土。**	**18H209**	**HL 245**	**7**
七条四坊十六町跡	下・加茂川端六軒町西入波止土濃町345，六軒町通高瀬川筋東入早尾町161	6/18・21・22・27	GL-0.45mで暗灰黄色砂泥，-0.63mで黄褐色粗砂，-0.70mで暗灰黄色砂泥，-0.81mでにぶい黄色微砂，-0.97mでオリーブ褐色砂泥，-1.10mで黄褐色砂礫，-2.32～-2.66mで黒褐色砂礫。	17H846	HL 140	7
七条四坊七町跡、寺町旧域	**下・高倉町花屋町下る若松町435-1，富小路通花屋町下る唐物町437**	**7/3**	**GL-1.17mで灰黄褐色砂泥の近代包含層，-1.46～-1.79mで褐色砂礫の地山。試掘調査後の調査。**	**18H204**	**HL 172**	**7**
八条一坊一町跡	下・観喜寺町13他12筆	8/30	GL-1.8mまで現代攪乱。	18H124	HL 258	6
八条一坊十五町跡	**下・観喜寺町地内**	**5/18，11/12**	**GL-0.95mまで盛土。**	**17H375**	**HL 089**	**6**
八条二坊七町跡	下・岩上通木津屋橋下る伊勢松町115-1	8/6・8・9	GL-0.7mまで盛土。	18H192	HL 223	6
八条二坊十町跡	**下・油小路木津屋橋下る北不動堂町490-2，491**	**10/23～11/2**	**奈良の流路，平安～江戸のピットと溝を検出。本報告24ページ。**	**18H205**	**HL 355**	**6**
八条二坊十三町跡	下・猪熊通三哲下る上夷町152，154	8/6・8・9	GL-0.9mで暗灰黄色泥砂，-1.12mで黒褐色泥砂の平安後期～鎌倉包含層，-1.36mで暗灰黄色砂泥の平安後期～鎌倉包含層。	18H177	HL 222	6
八条三坊一町跡、東本願寺前古墳群	**下・七条通新町西入夷之町708**	**8/1・3**	**GL-1.12mで黒褐色泥砂の近世包含層，-1.57mで灰黄褐色泥砂の近世包含層，-1.91mで暗灰黄色粗砂の氾濫状堆積，-2.08mで黒褐色粗砂の氾濫状堆積，-2.29mで明黄褐色粗砂の地山。**	**17H652**	**HL 211**	**7**
八条三坊十五町跡	下・東洞院通塩小路下る東塩小路町 地先	6/8	瀘頭時掘削終了。	18H163	HL 121	7
八条三坊十六町跡、東本願寺前古墳群	**下・七条通烏丸東入真学屋町218**	**9/18・20・27**	**GL-1.27mで黄灰色砂礫の地山，-1.62～-2.21mで黄灰色砂礫の地山。**	**18H396**	**HL 289**	**7**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条四坊一町跡	下・七条通間之町東入材木町491他	10/4・11・24，11/7	№2：GL-1.76mで灰黄褐色粘質土，-2.09mで灰黄褐色粘質土(拳大礫多量混)，-2.37mでにぶい黄橙色粘質土(礫多量混)を切って黒褐色粘質土の室町土坑(土師器皿，瓦質鉢)，-2.65mでにぶい黄色砂礫，-2.8mで浅黄色微砂～シルト，-3.08～-3.2mで明黄褐色細砂。№3：GL-2.2mでオリーブ褐色粗砂を切って黄灰色泥砂(微砂・拳大礫混)と黒褐色泥砂(粗砂含)の鎌倉東西溝状遺構(土師器)。	18H128	HL 318	7
八条四坊九町跡	**下・上之町他 地内**	**7/31**	**GL-0.8～-1.55mで浅黄色砂礫の地山。**	**18H234**	**HL 207**	**7**
八条四坊九町跡	下・西木屋町通七条上る新日吉町137	11/14	GL-0.75～-1.52mでにぶい黄色細砂の地山。	18H439	HL 392	7
八条四坊十六町跡	**下・川端町 地内**	**7/25・27**	**GL-0.89mでにぶい黄褐色泥砂，-1.68～-2.76mで明褐色砂礫の地山。**	**18H233**	**HL 201**	**7**
八条四坊十六町跡	下・七条通木屋町下る大宮町465	10/9	GL-1.23mでオリーブ褐色礫混シルトの近世後期包含層。	18H411	HL 324	7
八条四坊十六町跡，御上居跡	**下・上之町他 地内**	**11/2**	**GL-0.35～-0.49mまでオリーブ褐色砂礫の河川堆積。**	**18H294**	**HL 374**	**7**
八条四坊十六町跡	下・川端町 地内	11/2	GL-0.35mまで盛土。	18H295	HL 375	7
九条二坊一町跡	**南・東寺東門前町70**	**5/17・18・21・22**	**№1：GL-0.50mで浅黄色シルトを切って暗灰黄色泥砂と灰色粘質土の室町東西溝。№2：GL-1.17mでオリーブ黒色泥砂の近世包含層，-1.38mで灰色シルトの地山を切って灰色シルトの室町南北溝(底部竹敷く)，-1.61～-1.98mで黄褐色粗砂の地山。№3：GL-0.46mで灰黄褐色粘質土，-0.8mでにぶい黄褐色粘質土の平安整地層を切って黒褐色粘質土の時期不明土坑，-0.94mでにぶい黄褐色粘質土の地山，-1.33mで黒褐色粘質シルトの地山，-1.52～-2.21mで浅黄色粘質シルト。**	**17H779**	**HL 085**	**6**
九条二坊二町跡	南・東寺東門前町49-1	10/29・31	GL-1.21mで暗灰黄色泥砂，-1.52～-1.74mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	18H388	HL 363	7
九条二坊九町跡	**南・西九条池ノ内町60-1の一部，60-2**	**11/15**	**GL-0.46mで黄灰色砂質土(炭ガラ含)の近代包含層，-1.35～-1.63mで黒褐色粘質土。**	**18H567**	**HL 396**	**6**
九条二坊十町跡，烏丸町遺跡，上居跡	南・西九条池ノ内町94-3，94-4	6/27，7/4	GL-0.16mで褐灰色泥砂(礫混)，-0.27mで暗灰黄色粗砂(礫混)，-0.37mで黒褐色泥砂の近世包含層，-0.59～-1.99mで黒褐色砂礫と粗砂の互層の氾濫堆積。	17H803	HL 159	6
九条三坊二町跡，烏丸町遺跡	**南・西九条院町24-1**	**7/11～27**	**GL-1.53～-2.98mでにぶい黄橙色砂礫の流路堆積。**	**18H260**	**HL 185**	**7**
九条三坊十一町跡，烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町6-6，6-8	9/27	GL-0.66mで灰黄色粘土の室町包含層，-1.0mで黒褐色粘土，-1.15mで灰白色粘土。	18H474	HL 309	7
九条三坊十三町跡，烏丸町遺跡	**南・東九条烏丸町53 地先(大石橋 東行西詰)**	**5/22**	**GL-0.35mで黒褐色粘質土，-0.65mで黄灰色粘質土，-0.8～-1.15mで暗灰黄色細砂混粘質土。**	**17H837**	**HL 090**	**7**
九条三坊十四町跡	南・東九条北烏丸町15	5/1・8	GL-0.98mで灰黄褐色粘質土の室町整地層，-1.12mで褐灰色～明黄褐色微砂混粘質土の地山，-1.39～-2.02mでにぶい黄橙色細砂の地山。	17H727	HL 065	7
九条四坊一町跡，烏丸町遺跡	**南・東九条東山王町15-1**	**5/9**	**GL-0.66mで灰白色微砂の地山，-0.83～-0.98mで灰色細砂の地山。**	**17H731**	**HL 074**	**7**
九条四坊一町跡，烏丸町遺跡	南・東九条東山王町14-1	5/28	平安末期～鎌倉の東御院大路東側溝を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	17H120	HL 104	7
九条四坊十三町跡，烏丸町遺跡，九条河原城跡	**南・東九条河西町31-3**	**5/14・18**	**GL-0.76mで暗灰黄色泥砂，-0.91mで灰白色粗砂，-1.11～-2.40mで明褐色砂礫。**	**17H730**	**HL 081**	**7**

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡	**上・一条通御前西入三丁目西町87-1, 87-2**	**7/9**	**GL-0.48mまで盛土。**	**18H200**	**HR 182**	**9**
一条二坊七町跡	上・上ノ下立売通御前西入二丁目堀川町527, 527-2	10/30	GL-0.50mでにぶい黄褐色泥砂(小礫混), -0.69mでにぶい黄褐色泥上。	18H340	HR 369	9
一条二坊十四町跡, 御土居跡	**中・西ノ京北円町 地内**	**11/14・16・21・29**	**GL-0.22mで褐色混礫シルト, -0.4mで褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.53mで黄褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.63mで黄褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.77～-0.81mでオリーブ褐色混礫シルトの御土居版築堆積。**	**18H385**	**HR 395**	**9**
一条三坊十三町跡	右・花園藪ノ下町2-3の一部	8/22・27	GL-0.35mで黒褐色礫混粘土質シルト, -0.79mで黒褐色細砂～シルト, -0.89mで黄褐色砂泥の地山, -1.3～-1.96mで黄褐色砂礫の地山。	18H227	HR 246	9
二条二坊三町跡	**中・西ノ京冷泉町98-1, 98-2**	**10/17・19**	**GL-1.04～-1.47mで黄灰色砂礫の地山。**	**18H236**	**HR 342**	**9**
二条二坊七町跡	中・西ノ京平町125	8/28	GL-0.4mまで盛土。	18H181	HR 254	9
二条二坊十町跡, 西ノ京遺跡	**中・西ノ京中御門東町103-1**	**7/23**	**GL-1.44mまで盛土。**	**18H191**	**HR 199**	
二条二坊十五町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京中御門東町1-2, 46	9/13・14・18	GL-1.6～-1.7mで黒褐色泥上。	18H323	HR 287	9
二条四坊三町跡	**右・太秦安井藤ノ木町8-3, 8-12, 25の一部**	**9/10・12**	**GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂の旧耕作土, -0.46mで黄色シルトの地山を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑, -0.63～-0.9mで淡黄色砂礫の地山。**	**18H326**	**HR 273**	**8**
二条四坊九町跡	右・太秦安井市道町19-25の一部, 19-26の一部	9/25	GL-0.18～-0.31mで明褐色シルトの地山。	18H395	HR 298	8
二条四坊十四町跡	**右・太秦安井辻ノ内町3-1**	**11/12**	**GL-0.63～-1.0mで黄色細砂礫の地山。**	**18H368**	**HR 390**	**8**
二条四坊十五町跡	右・太秦安井北御所町15	11/21・22・28	GL-0.45mで黒褐色細砂混シルトの平安包含層, -0.55～-1.10mで黄褐色礫混粘土質シルトの地山を切ってピット。	18H399	HR 407	8
三条一坊十一町跡, 壬生遺跡	**中・西ノ京東月光町24-1**	**11/29**	**平安の溝を検出。本報告35ページ。**	**18H481**	**HR 415**	**9**
三条四坊十一町跡	右・山ノ内五反田町9-1の一部	5/16	GL-0.72mで暗灰黄色泥砂, -1.10～-1.42mで明黄褐色シルト。	17H807	HR 083	8
三条四坊十三町跡	**右・山ノ内西八反田町4-2**	**6/20**	**GL-0.2mまで盛土。**	**18H098**	**HR 146**	**8**
三条四坊十三町跡	右・山ノ内西八反田町1-1, 山ノ内五反田町18, 太秦安井一町目町15-2	8/1	GL-4.0mまで盛土。	18H316	HR 212	8
四条一坊二町跡	**中・壬生花井町1-4, 1-5, 1-8, 1-9**	**8/2**	**GL-0.7mまで盛土。**	**18H249**	**HR 216**	**11**
四条二坊十五町跡	右・六角通西大路西入西院西今田町16-23	10/9	GL-0.47mで暗灰黄色礫混シルト, -0.65～-0.7mで黄褐色礫混粘土質シルトの地山。	18H401	HR 323	11
四条三坊七町跡	**右・西院春栄町19-8**	**5/22・23・30**	**GL-0.93mでにぶい黄褐色シルト, -1.2～-1.81mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトと灰黄色シルト(明黄褐色シルトブロック混)の土坑。**	**17H834**	**HR 095**	**10**
四条四坊八町跡	右・山ノ内中畑町23-1, 2	10/19	GL-0.5mまで盛土。	18H370	HR 346	10
五条一坊二町跡, 御土居跡	**中・壬生高樋町65-6**	**7/27・31**	**№1：GL-0.9mで灰色細砂, -1.1mでにぶい黄色泥砂, -1.15mで暗灰黄色泥砂, -1.25m～-1.67mで黄褐色砂礫の地山。№2：GL-0.52mで灰色粘土の旧耕作土, -0.75m～-1.35mで灰黄褐色砂礫の地山。**	**18H215**	**HR 204**	**11**
五条二坊十二町跡, 西院遺跡	右・西院平町29-1	8/6・8	GL-0.86mで灰色泥砂の旧耕作土, -1.0～-1.09mで灰黄褐色シルトの時期不明包含層。	18H263	HR 224	11
五条三坊八町跡, 西院城跡(小泉城)	**右・西院松井町8-1の一部**	**11/9**	**GL-0.88mで灰黄褐色粘質土の時期不明包含層, -1.98～-2.5mで黄色粘質土の地山。**	**18H554**	**HR 388**	**10**
五条三坊十四町跡, 西京極遺跡	右・西院日照町105	9/10・11	GL-0.75mまで盛土。	18H048	HR 277	10
五条四坊二町跡	**右・西院日照町50, 51, 52-2**	**6/8・12・20**	**GL-0.6mで黄色灰色粘質土の近世包含層, -0.73mで暗灰黄色粘質土, -0.89mで黒褐色粘質土, -1.2mで明黄褐色粘質土, -1.57mで明黄褐色砂礫。**	**17H676**	**HR 117**	**10**
六条一坊一町跡	下・中壺寺北町7-2	5/10	GL-1.35mまで盛土。	17H451	HR 077	11
六条一坊四町跡	**下・中壺寺南町131, 130-1の一部**	**6/11**	**GL-0.72mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層, -0.92mで明黄褐色シルトの地山。**	**17H756**	**HR 124**	**11**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条一坊十町跡	下・中壺寺庄ノ内町34-33	4/12	GL-0.43～-0.61mで暗灰黄色泥砂。	17H828	HR 024	11
六条三坊二町跡，西院遺跡	**右・西院南寿町13-6，14-2**	**10/17・18・22**	**GL-0.82mでにぶい黄褐色粘質土，-1.1～1.31mで褐灰色粘土。**	**18H428**	**HR 343**	**10**
六条三坊五町跡	右・西院西溝崎町35の一部	7/17	GL-0.1mまで盛土。	17H815	HR 194	10
六条四坊六町跡	**右・西京極東大丸町28**	**9/7・12・14**	**GL-0.72mで暗灰黄色シルト(炭化物含)，-0.86mでオリーブ褐色シルト(炭化物含)，-0.99mでオリーブ褐色シルト(炭化物含)，-1.13～1.29mで黄褐色粘土質シルトの地山。**	**18H332**	**HR 270**	**10**
七条一坊十一町跡	下・西七条御領町67-2，67-3，68-1，68-2	10/16・19	GL-1.5mまで盛土。	18H508	HR 341	13
七条二坊五町跡，西市跡，衣田町遺跡	**下・西七条北西野町2**	**11/27・28，12/3**	**GL-0.54mで灰黄褐色礫混シルトの旧耕作土，-0.71mで暗灰黄色微砂混シルトの近世後期包含層，-0.83mで黄灰色細砂混シルト，-0.96～1.09mで黄褐色砂礫の地山。**	**18H269**	**HR 409**	**13**
七条二坊七町跡，西市跡，衣田町遺跡	下・西七条西石ケ坪町16，18-1	11/5・9・20	GL-1.38～-2.1mで明黄褐色砂礫の地山。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	18H108	HR 377	13
七条三坊四町跡	**下・西七条北月読町66-1**	**5/30，6/12**	**GL-0.59mで旧耕作土，-0.69mで灰黄褐色泥砂，-0.95mで灰黄褐色粗砂，-1.28～2.16mで黄褐色粗砂の地山を切って褐灰色泥砂の時期不明土坑。**	**17H789**	**HR 108**	**12**
七条四坊五町跡	右・西京極東町12-2	10/23～11/30	計画中止。	18H207	HR 356	12
八条四坊三町跡	**右・西京極畑田町44-4，44-5各一部**	**9/5・7・12**	**GL-0.57mで旧耕作土，-0.64mで暗灰黄色シルト(炭化物含)，-0.7～1.02mでオリーブ褐色泥砂の地山。**	**18H046**	**HR 264**	**12**
九条一坊六町跡	南・唐橋花岡町51，51-1	10/31，11/1	GL-0.24mで黄灰色砂礫，-0.44～-0.62mで黄褐色粗砂。	18H257	HR 372	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋門脇町21-5(4号地)**	**5/21**	**巡回時掘削終了。**	**17H281**	**HR 092**	**13**
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-7(3号地)	9/13	GL-0.29mで黄褐色シルトの地山を切って灰黄褐色シルトの時期不明柱穴。	17H282	HR 286	13
九条一坊十町跡，西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋門脇町36-16**	**7/9**	**GL-0.2m～-0.5mで褐灰色シルトの平安包含層。**	**18H201**	**HR 183**	**13**
九条一坊十町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町32-4	10/11	GL-0.1mでにぶい黄褐色粘質土，-1.23～-0.34mでにぶい黄褐色粘質土(礫含)。	18H392	HR 330	13
九条一坊十町跡，西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋門脇町32-3**	**12/10**	**GL-0.18mで暗灰黄色泥砂，-0.26～-0.37mでにぶい黄褐色泥砂。**	**18H598**	**HR 431**	**13**
九条一坊十三町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋西寺町11	9/3	GL-0.92mまで盛土。	30C039	HR 263	13
九条一坊十五・十六町，二坊二町跡，西寺跡，唐橋遺跡	**南・唐橋門脇町8-2 地先，唐橋平垣町24-2 地先**	**5/28**	**GL-0.67mまで盛土。**	**18H075**	**HR 106**	**13**
九条一坊十五町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町11-14	6/12	GL-0.16～-0.26mで旧耕作土。	18H091	HR 131	13
九条二坊四・五町跡，唐橋遺跡	**南・唐橋大宮尻町22**	**10/30，11/1**	**GL-0.35mで黄褐色砂泥(礫混)，-0.51mで褐色砂泥，-0.57mで灰黄色砂泥(小礫混)，-0.82mで灰黄色微砂，-1.00～-1.46mで灰黄色砂礫。**	**17H809**	**HR 368**	**13**
九条二坊十五・十六町跡	南・吉祥院西ノ庄門口町3，4	9/13・20・27	GL-0.56mで旧耕作土，-0.71mで灰色シルトの水成堆積，-0.92mで灰色シルトの水成堆積，-1.26mで暗灰黄色粗砂～砂礫の水成堆積，-1.48mで浅黄色粗砂の水成堆積，-1.79～-2.48mで明黄褐色砂礫の水成堆積。	18H226	HR 285	13
九条三坊二町跡	**南・吉祥院西ノ庄東屋敷町120**	**4/19・20**	**GL-0.92mで暗灰黄色砂礫の近代包含層，-1.86～-2.38mで橙色砂礫の地山。**	**17H619**	**HR 045**	**12**
九条三坊十三町跡	南・吉祥院中河原西屋敷町26の一部	5/28	GL-0.48mで旧耕作土，-0.56mで灰黄褐色泥砂(炭含)の近世包含層。	18H035	HR 105	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
蜷川遺跡	**右・蜷川天龍寺北造路町30-6**	**7/6**	**GL-0.6mで黒褐色シルトの時期不明包含層，-0.91～-1.12mでにぶい黄褐色シルトの地山。**	**18S148**	**UZ 179**	**23-1**
蜷川遺跡	右・蜷川天龍寺瀬戸川町18-39	9/21	GL-0.39mでにぶい黄橙色泥砂(礫混)の時期不明包含層，-0.6mで黄色シルトの地山，-0.6～-0.71mでにぶい黄色砂礫の地山。	18S285	UZ 296	23-1
蜷川遺跡，宝幡寺境内	**右・蜷川北堀町20-191，20-192，20-201，20-202**	**4/9・10**	**№1：GL-0.6mでオリーブ黒色泥砂とオリーブ褐色泥砂の旧耕作土，-0.92mでオリーブ褐色泥砂，-1.14mで黄褐色泥砂の地山。GL-0.78mでオリーブ褐色泥砂と黄褐色泥砂の旧耕作土，-1.04～-1.25mでオリーブ褐色泥砂(炭含)の時期不明包含層。**	**17S810**	**UZ 012**	**23-1**
蜷川遺跡，宝幡寺境内	右・蜷川北堀町32-3，32-27，32-28	5/24	GL-0.48mでオリーブ褐色粘質土，-0.75～-0.98mで明黄褐色砂礫混粘質土。	17S525	UZ 102	23-1
蜷川遺跡，宝幡寺境内	**右・蜷川北堀町20-248**	**10/9・10・11**	**GL-0.35～-0.38mで明黄褐色粘質土の時期不明包含層。**	**18S389**	**UZ 327**	**23-1**
鳴滝藤ノ木古墳	右・鳴滝藤ノ木町3-4	12/18	聞き取り調査と古墳の石材を確認。	18A004	UZ 197	20
常盤柏ノ木古墳群	**右・常盤柏ノ木町2-2の一部**	**6/25**	**GL-0.3mまで盛土。**	**17S698**	**UZ 156**	**20**
常盤柏ノ木古墳群	右・常盤下田町9-6 地内	7/23	GL-1.4～-1.57mで黄褐色泥砂(礫多量含)。	18S228	UZ 198	20
常盤仲之町遺跡	**右・太秦東蜂岡町9-39の一部**	**6/8**	**GL-0.5mまで盛土。**	**18S104**	**UZ 122**	**20**
常盤仲之町遺跡	右・常盤深町1-9	8/17	GL-0.7mまで盛土。	18S346	UZ 232	20
西野町遺跡	**右・蜷川野手代ノ道町14-19，14-20**	**4/13**	**GL-0.13～-0.23mで黄褐色シルトの地山。**	**17S844**	**UZ 027**	**26-4**
太秦馬塚町遺跡	右・太秦聞日町21-29の一部	9/12・14・20	GL-0.37mで黒色泥土の時期不明包含層，-1.5mで黄灰色泥土の土壌化層，-0.67～-1.2mで黄色粘質土の地山。	17S772	UZ 281	20
上ノ段町遺跡	**右・太秦蜂子ノ辻町30-4，36-7の一部，38-1の一部**	**5/22・25**	**GL-1.82～-1.95mで明黄褐色粘質土の地山。**	**17S646**	**UZ 096**	**20**
上ノ段町遺跡	右・蜷川野神ノ木町5-6の一部，5-9の一部	6/11	GL-0.84mで黄色粗砂の地山。	17S718	UZ 127	26-4
上ノ段町遺跡	**右・太秦多藪町5-1，5-3，2-4**	**9/18**	**GL-0.61mでにぶい黄色泥砂の旧耕作土，-0.75mで灰黄色シルトの時期不明包含層，-0.81～-0.98mで明黄褐色シルトの地山。**	**18S351**	**UZ 290**	**20**
蛇塚古墳	右・太秦面影町21-15，25-31，20-51	11/5	GL-0.3mまで盛土。	18S441	UZ 378	20
広隆寺旧境内，弁天島経塚(群)	**右・太秦東蜂岡町5他，太秦蜂岡町36-8他**	**12/3**	**GL-0.31～-0.74mで黄褐色泥砂の時期不明包含層。**	**18S551**	**UZ 418**	**20**
和泉式部町遺跡，森ケ東瓦窯跡	右・太秦森ケ東町4-44	10/15	GL-0.09～-0.33mで黄褐色砂質土の地山。	18S361	UZ 334	20
一ノ井遺跡	**右・太秦一ノ井町8-6の一部**	**8/16**	**GL-0.43mで旧耕作土，-0.57～-0.81mで明黄褐色シルトの時期不明包含層。**	**18S235**	**UZ 231**	**20**
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町7-1，8，8-2，9-1	9/27	GL-0.25mで灰白色シルトの地山を切って黒色泥砂と褐灰色シルトの時期不明ピット。	18S435	UZ 307	20

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
岩倉忠在地遺跡	**左・岩倉大鷺町547，548，549**	**6/7**	**巡回時掘削跡了。**	**17S831**	**RH 118**	**16-2**
深泥池窯跡	左・松ケ崎大谷	4/5	5地点で遺物採集(須恵器，軒丸瓦)。採集地点は遺跡外に広がる。	18A002	RH 007	23-2
植物園北遺跡	**北・上賀茂向畑手町50～上賀茂豊田町59地先**	**4/9～5/2**	**GL-0.55mで暗褐色シルト(礫混)，-0.75mで明褐色シルト(礫混)。**	**17S842**	**RH 013**	**23-2**
植物園北遺跡	北・上賀茂向畑手町75～上賀茂松本町69地先	4/9～5/16	GL-0.16mで褐灰色シルト，-0.43mで暗褐色シルト，-0.7mで黄褐色シルトの地山。	17S843	RH 014	23-2
植物園北遺跡	**北・上賀茂荒草町33-6～上賀茂石計町14地先**	**4/24・25，5/2・16・18**	**№1：GL-0.6～-0.8mまでにぶい黄褐色シルトの地山。№2：GL-0.53mで灰色粘質土，-0.66～-1.20mで灰オリーブ色砂泥(小礫混)。**	**18S034**	**RH 051**	**23-2**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町18	6/4・12・13・14・19	№2：GL-0.36mで黒褐色礫混シルト，-1.09～-1.73mで黒褐色砂礫。№3：GL-0.18mで黄褐色泥砂の地山，-0.55mで明黄褐色泥砂の地山，-1.41m～-1.89mで灰黄色礫の地山。	17S781	RH 110	23-2
植物園北遺跡	**北・上賀茂岡本口町23**	**6/27・29**	**GL-0.27mで灰黄褐色泥砂，-0.37～-0.62mで明褐色粗砂の地山。**	**18S143**	**RH 160**	**23-2**
船山須恵器窯跡	北・西賀茂今原町25-1	11/26	GL-0.07～-0.12mで黄褐色粘土質シルトの地山。	18S626	RH 410	16-3
大徳寺旧境内	**北・紫野大徳寺町26-55**	**12/10**	**GL-0.26mで褐色泥土，-0.39～-0.49mで明褐色泥土。**	**18S631**	**RH 432**	**16-1**
御上居跡	北・紫野花ノ坊町35	10/16・22，11/6	GL-1.5～-1.87mでにぶい赤褐色粗砂(明黄褐色細砂ブロック含，締り有)の地山。	16S561	RH 339	16-1
雲林院跡	**上・大宮通鞍馬口上る若宮堅町～北・紫野雲林院町 地先**	**5/1・8・16・18・24**	**GL-0.8～-0.9mで明黄褐色粘質土(礫多量混)。**	**18S062**	**RH 066**	**16-1 17-1**
雲林院跡	北・紫野雲林院町32-5	6/22・25	№1：GL-0.53mで黒褐色泥土，-0.80mでにぶい黄褐色泥土，-1.04～-1.10mで黄褐色砂礫。№2：GL-0.18mで黒褐色泥砂，-0.53～-0.83mでにぶい橙色シルト。	18S090	RH 155	16-1 17-1
寺町旧域	**北・鞍馬口通寺町東入北側上善寺門前町340**	**4/18**	**GL-0.3～-0.69mでにぶい黄褐色砂礫混粘質土の地山。**	**17S344**	**RH042**	**17-1**
寺町旧域	上・寺町通今出川上る表町34-1，34-3	9/26，10/1・4	GL-1.54mでオリーブ褐色微砂混泥砂，-1.74mで黒褐色砂礫の氾濫堆積を切って暗オリーブ褐色泥砂の近世以降土坑。	18S105	RH 294	17-1
寺町旧域	**北・天寧寺門前町297，298-3**	**10/22**	**GL-0.19mでにぶい黄褐色泥砂，-0.37～-0.56mで灰黄褐色泥砂(炭含)の時期不明包含層。**	**18S498**	**RH 350**	**17-1**
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	4/16～23，5/17～29，6/12～29，7/2，9/3～28，10/2～31，11/2	№2：盛土以下，GL-0.24mで暗灰色黄色砂質土の時期不明包含層，-0.36～-0.38mで明黄褐色砂質土。№6：GL-0.1～-0.13mで築地塀の近世基礎石。№7：GL-0.22mで明黄褐色砂質土の地山。№14：GL-0.27mで灰黄褐色砂泥，-0.44～-0.53mで暗褐色泥砂の中世包含層。№32：GL-0.15mで黄褐色粗砂～砂礫の氾濫堆積と切って灰黄褐色粗砂(大礫多量混)の時期不明土坑。**『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。**	29N114	RH 036	17-2 21
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	**左・下鴨泉川町59**	**7/9・10**	**GL-0.5mで黄色砂礫。**	**30N009**	**RH 177**	**17-2 21**
相国寺旧境内	上・下柳原北半町204	10/22・24	GL-1.43～-1.65mでオリーブ褐色砂礫。	18S502	RH 351	17-1
室町殿跡(花の御所)	**上・新町通室町通之間上立売下る瓢箪図子町62-1，64**	**7/27**	**GL-0.2mまで盛土。**	**18S314**	**RH 205**	**17-1**
室町殿跡(花の御所)	上・新町通今出川一丁上る東入中御霊図子町124-2，127	9/27	GL-0.3mまで盛土。	18S344	RH 308	17-1
室町殿跡(花の御所)	**上・衣棚通上立売下る瓢箪図子町地先**	**9/14**	**GL-0.4mまで配管復見。**	**18S430**	**RH 288**	**17-1**
上京遺跡	上・寺之内通大宮東入妙蓮寺前町340-1，340-3	4/16	GL-0.1mまで盛土。	17S753	RH 035	16-1 17-1
上京遺跡	**上・西堀川通元誓願寺上る門前町400**	**6/20・22**	**GL-0.75mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層，-1.01～-1.30mで黄褐色泥砂(大礫多量混)。**	**18S123**	**RH 147**	**17-1**
上京遺跡	上・上立売通堀川西入芝薬師町627	7/17	GL-0.63mで灰黄褐色泥砂(炭化物，土器，染付多量含)の近世後期包含層，-0.79mで黒褐色泥砂(砂流含，固く締まる)の室町包含層，-1.08～-1.29mで灰黄褐色粘質土(拳大礫多量含)の室町包含層。	18S282	RH 193	17-1
上京遺跡	**上・元新在家町 地内**	**9/19・20**	**GL-1.05mまで盛土。**	**17S603**	**RH 293**	**17-1**
上京遺跡，世尊寺跡	上・五辻通大宮西入五辻町43-1	9/5	GL-0.6mまで盛土。	18S296	RH 267	16-1 17-1
公家町遺跡	**上・京都御苑(京都御所内)**	**6/14～10/1**	**GL-2.17mまで盛土。**	**18H184**	**RH 135**	**17-1**
北野遺跡，北野廃寺	北・北野下白梅町 地先	6/21	GL-0.20mで灰黄褐色泥砂，-0.48mで黒褐色砂泥，-0.80～-1.80mで浅黄色砂礫の地山。	18S174	RH 150	16-1
北野遺跡，北野廃寺	**北・北野下白梅町29**	**4/24**	**GL-0.1mまで盛土。**	**17S841**	**RH 053**	**16-1**
北野遺跡，北野廃寺	北・北野下白梅町16-4	6/29	GL-0.28mで黄褐色シルト，-0.43mに黒色シルト，-0.73～-0.98mで黄褐色砂礫。	18S231	RH 165	16-1

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北白川廃寺	**左・北白川大堂町 地先(京都市道)**	**6/28**	**GL-0.55mで黒褐色泥砂(微砂混)の混地状堆積。-1.04～-1.58mで黄褐色粗砂。**	**18S061**	**KS 162**	**21**
北白川廃寺，池田町古墳群，小倉町別当町遺跡	左・北白川上別当町～北白川下池田町地内	4/17～11/20	№2：GL-0.3～-0.5mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。№4：GL-0.18mで灰色細砂の耕作土。-0.3～-0.5mでにぶい黄褐色粗砂の近世包含層。№7：GL-0.43mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切ってにぶい黄褐色砂泥の時期不明土坑。	17S663	KS 040	21
池田町古墳群	**左・北白川上池田町3**	**8/1**	**GL-0.36mまで盛土。**	**18S264**	**KS 214**	**21**
小倉町別当町遺跡	左・北白川下別当町26の一部	11/5・6・7	№1：GL-0.3mでにぶい黄褐色泥砂の鎌倉包含層，-0.71mで黒褐色泥砂の弥生包含層，-1.05mで黒褐色泥砂，-1.24mで黒褐色細砂～粗砂，-1.44～-1.64mで明黄褐色粗砂(自河砂)。№2：GL-0.42mで灰黄色泥砂の時期不明包含層，-0.64mで黒褐色泥砂の弥生包含層，-1.27～-1.53mで褐色粗砂(自河砂)。	18S503	KS 379	21
吉田橋町遺跡，聖護院川原町遺跡	**左・吉田下阿達町～吉田橋町 地先**	**4/24～5/24**	**GL-0.76～-1.1mでオリーブ黄色粗砂の氾濫堆積。**	**18S045**	**KS 052**	**21**
聖護院川原町遺跡	左・聖護院川原町 地内	9/25～11/12	遥拝時掘削跡了。	17S604	KS 300	21
得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡	**左・岡崎徳成町6-1，6-8**	**8/22・23**	**古代末～中世のピット群を検出。本報告57ページ。**	**18R225**	**KS 243**	**21**
得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎徳成町5	9/27	GL-0.63mまで盛土。	18R254	KS 299	21
得長寿院跡，尊勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	**左・岡崎徳成町～岡崎西天王町 地先**	**9/12・13・20・26・28，10/4**	**GL-0.57mで褐灰色砂質土の時期不明包含層，-0.7mで黒色細砂の中世包含層(白砂)，瓦，-0.95～-1.1mで灰白色微砂の地山。**	**18R424**	**KS 282**	**21**
尊勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎西天王町82-2，74-25	6/28	GL-0.36mで褐灰色砂質土の旧耕作土，-0.6～-1.08mでにぶい黄橙色細砂(上面マンガン沈着，ラミナ状堆積)。	18R238	KS 163	21
延勝寺跡，岡崎遺跡	**左・岡崎成勝寺町3-2**	**11/16**	**GL-1.92mで浅黄色シルトの地山。**	**18R083**	**KS 400**	**21**
円勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)	4/6・9	2014年度京都市美術館発掘調査の堀27の延長部と考えられる東西溝を検出。本報告59ページ。	13R450	KS 010	21
法勝寺跡	**左・岡崎法勝寺町1の一部**	**8/31**	**GL-0.6mまで盛土。**	**18R244**	**KS 260**	**21**
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎天王町62-30	12/19	GL-0.45mまで盛土。	18R601	KS 447	
白河街区跡	**左・聖護院西町19**	**11/13・15**	**GL-2.08mで灰オリーブ色粘質土の地山。**	**18S321**	**KS 394**	**21**
白河街区跡	左・聖護院中町9-2	7/12	GL-0.2mまで盛土。	18S111	KS 189	21
白河街区跡	**左・黒谷町21-1，21-2**	**4/16**	**GL-0.27～-0.63mで淡黄色砂礫土の地山。**	**17S794**	**KS 037**	**21**
白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎徳成町18-5の一部	9/28	GL-0.45mまで盛土。	18R416	KS 313	21
御土居跡	**上・寺町通清和院口上る二丁目北之辺町394-10，394-20，御車道通清和院口上る九軒町445，445-4**	**7/2**	**GL-0.8mまで盛土。**	**18S182**	**KS 169**	**17-3**

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御上辺跡，寺町旧跡	中・寺町通御池下る下本能寺前町522-18，19，20	7/19	GL-4.77mまで掘見。	18S077	RT196	22
寺町旧跡	**中・寺町通御池下る下本能寺前町521-1**	**4/17・18・23**	**GL-1.25mで暗オリーブ褐色泥砂(土師器含)の近世包含層，-1.33～-1.53mで黄褐色砂礫の地山。**	**17S463**	**RT039**	**22**
寺町旧跡	中・寺町通御池下る下本能寺前町521，521-1	6/7	GL-1.05mまで盛土。	17S464	RT120	22
寺町旧跡	**中・三条通寺町東入石橋町26**	**7/6～8/17**	**GL-2.9mで黄褐色砂礫の地山。**	**18S146**	**RT180**	**22**
御上居跡	下・河原町通松原上る二丁目富永町354-2他	8/23	GL-0.72～2.39mでオリーブ褐色砂礫の河川堆積。	18S158	RT250	22
祇園道跡	**東・四条通大和大路東入祇園町北側347-83**	**10/19**	**GL-2.35mで明黄褐色細砂の地山。**	**18S080**	**RT345**	**22**
建仁寺境内	東・大和大路通四条下る四丁目小松町142-1他	4/18・19，5/22，7/4	GL-0.3mまで盛土。	17S840	RT043	22
法観寺旧境内	**東・金園町339，401，411，388-6**	**5/7・8**	**GL-0.35mで明黄褐色層～中砂の地山を切って黄褐色砂泥とオリーブ褐色泥砂の近世土坑，-0.56～-0.65mで黄褐色砂礫の地山。**	**17S752**	**RT071**	**22**
六波羅蜜寺境内	東・六波羅渡門通東入多門町159	4/4	GL-0.10mまで盛土。	17S762	RT006	22
六波羅政庁跡	**東・松原通大和大路東入弓矢町 地先**	**9/11～20**	**GL-0.75～-0.9mで黄色粗砂。**	**18S409**	**RT280**	**22**
六波羅政庁跡	東・本町通五条上る森下町535	10/16	GL-0.4mまで盛土。	18S355	RT340	22
六波羅政庁跡	**東・五条橋東二丁目7**	**7/4**	**GL-0.7mまで盛土。**	**18S173**	**RT178**	**22**
六波羅政庁跡	東・鞘町通五条下る鞘町一丁目396	5/29	GL-1.1～-1.4mで灰黄色砂礫の地山。	18S030	RT107	22
六波羅政庁跡	**東・建仁寺五条下る一町目東入芳野町79-2，115，455**	**7/18**	**GL-2.55mで灰オリーブ色シルトの地山。**	**17S446**	**RT195**	**22**
六波羅政庁跡	東・正面通本町西入正面町298	7/12～30，8/6～24，9/14	GL-1.4mで黄灰色泥砂の近世包含層，-1.51mで明黄褐砂泥の地山，-1.65～-1.77mで灰黄褐色粗砂の地山。	18S183	RT186	22
六波羅政庁跡	**東・本町新五丁目153，155-2，157-2**	**8/1・6・13・24**	**GL-0.6～-0.88mで黄橙色シルト(径2～3cm大礫混)の地山を切って暗灰黄色砂泥(炭少量含)とオリーブ褐色砂泥の江戸落込。**	**18S313**	**RT213**	**22**
六波羅政庁跡	東・鞘町通七条上る下堀詰町233	4/25，5/2・15・22	GL-0.2mで灰オリーブ色粗砂，-1.09mで灰色砂礫の氾濫堆積，-1.79mで黄色砂礫の氾濫堆積。	17S832	RT057	22
六波羅政庁跡，音羽・五条坂窯跡	**東・五条橋東五丁目471**	**6/29，7/17・18**	**GL-0.13mで9段積みの石垣(音羽川南岸護岸)，-1.9mで黒褐色粗砂(焼土含)，-2.3mで黒褐色シルト。**	**18S149**	**RT166**	**22**
音羽・五条坂窯跡	東・五条橋東五丁目 地先	4/16・27	GL-0.3mで黒褐色砂混粘質土，-0.55～-0.75mで褐灰色粘質土の近世包含層。	18S026	RT038	22
鳥部(辺)野	**東・清閑寺池田町 地先**	**8/27～9/20**	**GL-1.3mまで盛土。**	**18S277**	**RT253**	**22**
妙法院境内，法住寺殿跡	東・常盤町他 地先	8/2・6	GL-1.6mまで盛土。	17S370	RT217	22
法住寺殿跡	**東・三十三間堂廻り642，654，657**	**8/30**	**巡回時掘削終了。**	**18S017**	**RT259**	**22**
法住寺殿跡	東・今熊野池田町～大和大路通塩小路下る南瓦町 地先	9/21～27，10/2・12	GL-0.9mまで盛土。	18S440	RT297	22
法住寺殿跡	**東・大仏南門通大和大路東入三丁目本瓦町656-5・17**	**7/31，8/15，9/21**	**GL-1.22～-1.75mで明黄褐色シルトの地山。**	**18S154**	**RT208**	**22**
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町～南瓦町 地内	10/1・2・4	GL-1.55mまで盛土。	18S301	RT314	22
法性寺跡，今村城跡	**東・本町十二丁目236-31他**	**6/8・11・13**	**GL-0.87mまで盛土。**	**17S799**	**RT123**	**24-2**
法性寺跡，月輪遺跡	東・本町十五丁目他 地内	4/26～9/14	№1：GL-0.6～-0.92mで黄橙色シルト層の地山。№5：GL-0.4～-1.5mでに.ぶい黄橙色泥砂の地山。	17S695	RT059	24-2
法性寺跡	**東・本町十九丁目418-4**	**9/25～27**	**GL-0.2mまで盛土。**	**18S338**	**RT301**	**24-2**
法性寺跡	東・福稲下高松町13-2の一部	10/12	GL-0.25mまで盛土。	18S292	RT332	24-2
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	**山・西野離宮町16-11**	**4/2・4・6**	**GL-0.67mで灰オリーブ色泥上の旧耕作土，-0.84～-0.97mでに.ぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。**	**17S685**	**RT002**	**25-1**
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野山階町12-13の一部	10/30	GL-0.85mまで盛土。	18S466	RT367	25-1
山科本願寺南殿跡	**山・伊勢崎宿町32-11**	**8/20**	**GL-0.22mでに.ぶい黄褐色礫混シルト(炭含)。**	**18S362**	**RT239**	**27-2**
山科本願寺南殿跡	山・伊勢崎宿町32-11	8/7	GL-0.39～-0.53mで暗褐色泥砂。	18S356	RT225	27-2
山科本願寺南殿跡	**山・音羽伊勢宿町32-11**	**8/17**	**GL-0.4mまで盛土。**	**18S176**	**RT236**	**27-2**

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-78	4/13・16	GL-0.35～-0.42mでにぶい黄橙色泥砂(礫混)。	17S744	RT 028	27-2
山科本願寺南殿跡	**山・音羽伊勢宿町34-43**	**8/17**	**№1：GL-0.21mで旧耕作土，-0.51～-0.6mで黒褐色泥土(礫多量混)。**	**18S372**	**RT 235**	**27-2**
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町34-42	8/17	GL-0.27mまで盛土。	18S333	RT 233	27-2
山科本願寺南殿跡	**山・音羽伊勢宿町26-5**	**7/12・13**	**№1：GL-0.2mでにぶい黄橙色泥砂，-0.42～-0.7mで褐灰色泥砂を切って灰黄褐色泥砂の時期不明溝。№2：GL-0.48mでにぶい黄橙色泥砂，-0.69～-0.8mで明黄褐色泥砂。**	**18S312**	**RT 190**	**27-2**
中臣遺跡	山・東野舞台町48-8	12/17	GL-0.2mまで盛土。	18N559	RT 445	25-3
中臣遺跡	**山・東野舞台町47-11**	**8/21**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18N384**	**RT 244**	**25-3**
中臣遺跡	山・東野舞台町47-8	8/3	GL-0.4mまで盛土。	18N317	RT 219	25-3
中臣遺跡	**山・東野舞台町48-9**	**9/25**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18N381**	**RT 302**	**25-3**
中臣遺跡	山・東野舞台町48-10	7/31	GL-0.35mまで盛土。	18N318	RT 209	25-3
中臣遺跡	**山・東野舞台町47-3，47-6**	**9/6**	**GL-0.35mまで盛土。**	**18N342**	**RT 269**	**25-3**
中臣遺跡	山・東野舞台町48-15	10/22	GL-0.3mまで盛土。	18N336	RT 352	25-3
中臣遺跡	**山・東野舞台町**	**9/25**	**GL-0.3mまで盛土。**	**18N454**	**RT 303**	**25-3**
中臣遺跡	山・東野舞台町58-5，59-4	7/31	GL-0.35mまで盛土。	17N793	RT 210	25-3
中臣遺跡	**山・西野山中臣町**	**11/5**	**GL-2.4mまで盛土。**	**17N560**	**RT 380**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町18-23	6/11	GL-0.26～-0.38mまで褐灰色シルト(よく締まる)。	17N708	RT 126	25-3
中臣遺跡	**山・勧修寺西栗栖野町270**	**10/29・30**	**GL-0.29～-0.45mで黒褐色泥土。**	**18N308**	**RT 365**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町270	10/29～11/2	盛土のみ，現状確認。	18N310	RT 366	25-3
中臣遺跡	**山・椥辻番所ケ口町188，189**	**12/10・11・14**	**GL-0.38mまで盛土。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。**	**18N289**	**RT 433**	**25-3**
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町6，13	8/23	GL-0.23mまで盛土。	18N079	RT 251	25-3
中臣遺跡	**山・勧修寺東金ヶ崎町101**	**7/3**	**GL-0.3mまで耕作土。**	**18N232**	**RT 173**	**25-3**
中臣遺跡，中臣十三塚	山・西野山中臣町71-19	10/26	GL-0.16mまで盛土。	18N365	RT 361	25-3
勧修寺旧境内	**山・勧修寺泉玉町76，77，78**	**10/30，11/1・2**	**GL-0.46mでオリーブ黒色シルト，-0.66mで灰色泥砂，-0.84～-0.94mでにぶい黄色シルトの地山。**	**18S280**	**RT 358**	**27-4**
勧修寺旧境内	山・勧修寺泉玉町89	10/15	GL-1.12mまで盛土。	18S469	RT 336	27-4

伏見・醍醐地区(FD)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡，板橋廃寺	**伏・板橋町他 地内**	**8/20～24，11/5～30，12/4**	**GL-0.5mで黒褐色細砂混シルトの近世～近代包含層，-1.45mで黒褐色微砂混シルト，-1.6mで黒褐色シルト(締り良)，-1.9～-2.0mで褐色砂礫の地山。**	**18F170**	**FD 240**	**14**
伏見城跡	伏・桃山最上町～桃山水野左近東町地先	8/20～30，10/15	遺回時掘削終了。	18F359	FD 241	14
伏見城跡	**伏・鷹匠町3-1，36-3，龍城町196-13**	**4/3・4・9・10・16**	**GL-0.92mでオリーブ褐色泥砂を切って暗灰黄色砂泥(反多量)の近世土坑，-1.03mで暗灰黄色泥砂，-1.20mで淡黄色粘質土，-1.53mで明黄褐色微砂(固く締まる)の地山，-1.81～-2.15mでにぶい黄橙色細砂の地山。**	**17F613**	**FD 004**	**14**
伏見城跡	伏・銀座町三丁目317-4	4/11	GL-0.23mで黒褐色泥砂(炭多量，焼土，明赤褐色泥砂ブロック状混)，-0.27mで明赤褐色泥砂(固く締まる)，-0.35～-0.48mでにぶい黄褐色泥砂。	17F748	FD 022	14
伏見城跡	**伏・西町397-1**	**5/9・15**	**GL-1.79mで黄灰色泥砂，-2.01mでオリーブ褐色泥砂，-2.04mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層(土師器)，-2.28mでにぶい黄橙色シルト(微砂混)の地山，-2.85～-3.15mで明褐色砂礫(固く締まる)の地山。**	**17F715**	**FD 075**	**14**
伏見城跡	伏・新町五丁目500-5，501	8/9	GL-0.71～-0.78mでにぶい黄褐色砂泥。	18F241	FD 229	14
伏見城跡	**伏・南部町80-1，80-2，82，84-1**	**6/26・28，7/3**	**GL-0.87mで黄橙色粗砂，-1.17mで明褐色シルト，-1.39mで灰褐色シルト。**	**18F013**	**FD 158**	**14**
伏見城跡	伏・西大手町他 地内	4/19，11/12	GL-1.2mまで盛土。	17F601	FD 044	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	**伏・常盤町34-1**	**12/4・5・6**	**GL-0.44mでにぶい黄褐色泥砂，-0.58mで灰黄褐色泥砂，-0.6mで瓦含む褐色泥砂，-0.78mで染付含むにぶい黄褐色泥土の近世包含層を切って例状の漆喰をすえた灰オリーブ色粗砂の近世土坑，-1.0mでにぶい黄褐色泥砂を切って灰オリーブ色粗砂とにぶい黄褐色泥砂の土坑，-1.22～-1.59mでにぶい黄色砂礫。**	**18F467**	**FD 424**	**14 15**
伏見城跡	伏・桃山町春長老81-7	7/3	GL-0.43～-0.64mで黄褐色砂礫の地山。	17F804	FD 176	14・15
伏見城跡	**伏・深草石橋町他 地内**	**4/10**	**GL-0.5m〜褐色泥砂，-0.8〜-1.15mで黒褐色泥砂(礫混)。**	**17F374**	**FD 016**	**15**
伏見城跡	伏・深草中ノ島町18-3，18-27，18-28，18-29	10/5	GL-0.25mまで盛土。	18F432	FD 320	15
伏見城跡	**伏・深草大亀谷万帖敷町805の一部，804**	**12/6・7**	**GL-0.94mまで盛土。**	**17F669**	**FD 426**	**15**
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町370-6，370-7	5/23，6/11	GL-0.37～-0.51mで黄褐色礫砂。	18F010	FD 101	15
伏見城跡	**伏・桃山町大蔵38他**	**4/27**	**GL-0.29mで旧耕作土，-0.51mで黄褐色砂礫の伏見城期造成土，-1.05mで明黄褐色中〜粗砂，-1.09mで黒褐色砂泥(炭，焼土多量含)，-1.17〜-1.23mで黄色砂礫の地山。**	**17F011**	**FD 060**	**15**
伏見城跡	伏・桃山町大蔵38，39，53，53-1，56他	11/30，12/4・11	GL-0.45mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18F548	FD 417	15
伏見城跡	**伏・桃山町三河49-15の一部，49-11，49-19，56-8，56-10**	**9/18・28，10/2・4**	**GL-0.75mで灰黄褐色泥砂(大礫含)，-0.8〜-1.55mで明黄褐色砂礫の地山を切って黄褐色粗砂(炭化物含)の時期不明土坑。**	**18F319**	**FD 291**	**15**
伏見城跡	伏・桃山町鍋島7-1	12/21	GL-0.25～-0.3mで褐色泥砂(礫混，炭含)の時期不明包含層。	18F621	FD 450	15
太閤堤 (小倉堤，槙島堤)	**伏・向島西堤町56-9，63-1，63-2**	**9/5**	**GL-0.61mで灰黄褐色粗砂混シルト，-0.82mでにぶい黄色粗砂を切ってにぶい黄色粗砂(灰黄褐色粗砂混シルトがブロック状混)の近世土坑(泥面子)，-0.94mでオリーブ褐色粗砂混シルト，-1.12mで明黄褐色中砂〜粗砂，-1.3〜-1.49mでオリーブ褐色粗砂混シルト。**	**18S195**	**FD 268**	**14 15 28-5**
太閤堤 (小倉堤，槙島堤)	伏・向島中島町41	10/3・15	GL-1.01mで明黄褐色粗砂の時期不明包含層，-1.2～-1.57mで明黄褐色礫砂を切って明黄褐色極礫砂の時期不明土坑。	18S239	FD 317	14 15 28-5
太閤堤 (小倉堤，槙島堤)	**伏・向島吹田河原町31の一部**	**4/2**	**GL-0.24mで明黄褐色微砂，-0.32～-0.53mで黄褐色粗砂。**	**17S475**	**FD 003**	**15**
向島城跡	伏・向島本丸町31，二の丸町68-11，81	12/10・11・12	GL-0.6～-0.78mまで淡黄色礫砂～粗砂。	18S596	FD 434	15 28-5
向島城跡	**伏・向島二ノ丸町9の一部，6-1の一部，7-1の一部，4-4の一部**	**11/8**	**GL-1.12mで明黄褐色礫砂混粘質土，-1.45～-1.84mで淡黄色礫砂。**	**18S022**	**FD 387**	**15 28-5**
稲荷山古墳群，深草坊町遺跡	伏・深草願成町17-1の一部	7/3・10・20	GL-2.69～-2.98mで黄灰色泥砂の地山。	18S089	FD 174	28-2
伏見稲荷大社境内	**伏・深草稲荷御前町66**	**10/5・12・15**	**GL-0.69mでオリーブ褐色粘質土の時期不明包含層，-0.98mで黄灰色粘質土，-1.14mで黄灰色粘質土(礫砂混)，-1.6mで灰白色粘土の地山。**	**18S402**	**FD 319**	**28-2**
安楽行院跡，深草坊町遺跡	伏・深草僧坊町44-1の一部	7/24	GL-0.08～-0.1mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。	18S049	FD 200	28-3
嘉祥寺跡	**伏・深草真宗院山町〜深草瓦町 地先**	**7/2〜26，8/2〜13**	**№3：GL-0.2mで黒褐色粘土質シルト(炭含)の時期不明包含層，-0.4〜-0.8mで黄褐色粗砂〜シルトの地山。**	**18S216**	**FD 170**	**28-3**
がんせんどう廃寺	伏・深草谷口町111-20	5/10〜7/3	GL-0.41mで黄褐色礫砂，-0.59mで黄色砂礫。	18S005	FD 078	28-4
深草向ヶ原町遺跡	**伏・深草向ヶ原町66-11，66-12，65-13**	**4/9**	**GL-0.13mで浅黄色砂の地山，-0.41mで灰白色シルトの地山。**	**17S684**	**FD 015**	**28-4**
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町6	5/11～10/9	GL-0.5mまで盛土。	29N111	FD 079	24-3
法界寺旧境内	**伏・日野烏出町2-1，2-2**	**11/7・8・22**	**GL-0.21～-0.6mで明褐色泥砂の地山。**	**18S008**	**FD 382**	**28-6**
法界寺旧境内	伏・日野西大道町64，64-1，64-2	11/15	GL-0.28～-0.53mで黄色粘質土の地山。	18S412	FD 398	28-6

鳥羽地区(TB)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥丸町遺跡	**南・東九条御室町22-10, 22-11**	**11/19, 12/4**	**GL-0.2～-0.25mで黄褐色泥砂(固く締まる)の平安～鎌倉包含層(土師器)。**	**18S521**	**TB 403**	**27-5**
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽鴨田15-2	6/21・25	GL-0.72mで灰色泥土, -0.88mで暗灰黄色泥土(細砂混), -1.02mで黄灰色泥土, -1.14mで灰黄色泥砂, -1.35～-1.92mで黄褐色粗砂。	18S050	TB 151	27-7
鳥羽離宮跡	**伏・竹田西浦ノ井町 地先**	**6/22**	**GL-1.0mまで盛土。**	**18T015**	**TB 154**	**24-1**
鳥羽離宮跡	伏・竹田西浦ノ井町11	6/18・19	GL-0.4mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18T003	TB 141	24-1
鳥羽離宮跡	**伏・竹田西浦ノ井町16, 17**	**6/18・19**	**GL-0.33mで旧耕作土, -0.36～-0.40mで灰黄色泥砂。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。**	**18T004**	**TB 142**	**24-1**
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町91-2	11/26	GL-0.29mで黒褐色細砂混シルト, -0.36mで黒褐色細砂混シルト(炭化物含)の時期不明包含層。	18T558	TB 411	24-1
鳥羽離宮跡	**伏・竹田菩提院町102, 103**	**6/11・15**	**GL-1.11m～-1.44mまで灰褐色シルト～泥土(下層砂礫に変化)。**	**18T188**	**TB 125**	**24-1**
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏・竹田田中殿町92-1	11/5・6・12	GL-1.44mまで盛土。	16T513	TB 376	24-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	**伏・中島御所ノ内町 地先**	**12/12**	**GL-0.55mまで盛土。**	**18T463**	**TB 438**	**24-1**
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏・中島宮ノ前町 地先	8/29, 9/14	巡回時掘削終了。	18T251	TB 257	24-1
下鳥羽遺跡, 芹川城跡	**伏・下鳥羽北ノ口町68の一部、71**	**10/12・15**	**GL-1.2mまで盛土。**	**18S291**	**TB 331**	**27-8**
吉祥院日向地蔵一字一石大乗妙典塔	南・吉祥院西ノ茶屋町68	4/3	石塔下で江戸の一石経を検出。	18A001	TB 005	27-6
羽束師志水町遺跡	**伏・羽束師志水町78, 100-1の各一部**	**6/25～7/9**	**GL-0.16～-0.24mで黄褐色砂泥。**	**18S142**	**TB 157**	**19**
淀城跡	伏・淀池上町101の一部, 101-1の一部, 203-6	4/27, 6/11	GL-0.4mで黄褐色泥砂(焼土, 炭多量含), -0.47mで褐色泥砂(粒子細, 被熱で上面硬化), -0.51mで明赤褐色粗砂, -0.6mで黄橙色粗砂を切って明黄褐色粗砂の廃衣書埋納土坑, -1.04mで黄褐色極細砂。	18S025	TB 061	25-4

長岡京地区(NG)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京						
一条三坊十一町跡	南・久世東上川町35の一部	5/8	GL-0.7mまで盛土。	17NG812	NG 072	25-2
一条四坊二町跡	**南・久世大藪町560-13**	**5/25・28**	**巡回時掘削終了。**	**18NG097**	**NG 103**	**18-3**
二条四坊八・九町跡	南・久世東上川町387	5/17	GL-0.61mで灰色泥土, -0.93mでにぶい黄色泥土, -1.20mで灰色粘土(明黄褐色粘土混), -1.49mで灰色粘土, -1.69～-1.86mで灰色粗砂。	18NG012	NG 087	18-3
三条四坊十二町跡	**伏・久我西出町他 地内**	**5/21, 6/13**	**巡回時掘削終了。**	**17NG705**	**NG 093**	**19**
四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町537-51	4/13	GL-0.1mまで盛土。	17NG801	NG 029	19
四条三坊十四町跡, 羽束師菱川城跡	**伏・羽束師菱川町43-8**	**11/15**	**GL-0.34mまで盛土。**	**18NG520**	**NG 399**	**19**
四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町537-25	12/3	GL-0.2mまで盛土。	18NG595	NG 421	19
五条二坊十二町跡	**伏・羽束師菱川町366-1**	**7/30, 8/1・6**	**GL-0.40mで灰色シルトの旧耕作土, -0.54mで明黄褐色微砂, -0.76mでにぶい黄橙色シルト, -0.91～-1.12mで灰白色粘土。**	**18NG042**	**NG 206**	**19**
六条四坊五・六町跡	伏・淀樋爪町122他 地内	12/6	GL-2.59mで灰色粘土の湿地状堆積, -2.82～-2.92mで灰色砂泥の湿地状堆積。	18NG493	NG 427	19
九条三坊十二町跡, 淀城跡	**伏・淀本町164**	**6/19**	**GL-0.35mまで盛土。**	**18NG056**	**NG 145**	**25-4**

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
右京						
北辺四坊六町跡	**西・大原野上里北ノ町 地内**	**12/26**	**遥拝時掘削終了。**	**18NG258**	**NG 234**	**25-2**
一条三坊十四町跡，上里遺跡	西・大原野上里男前町12-12	12/27	GL-0.5mまで盛土。	18NG589	NG 453	25-2
一条四坊一・八・十三町，二条四坊十六町跡、芝古墳群，大原野石見遺跡，上里遺跡	**西・大原野石見町 地内**	**4/24・25，6/22**	**GL-0.4～-1.7mでにぶい黄色粘質土の地山。**	**17NG817**	**NG 055**	**25-2**

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・嵐山中尾下町2-8	6/28	GL-0.35mまで盛土。	30N001	MK164	26-1
史跡・名勝嵐山	**西・嵐山中尾下町2-6の一部**	**5/1**	**GL-0.3mまで盛土。**	**29N106**	**MK068**	**26-1**
史跡・名勝嵐山	西・嵐山風呂ノ橋町23-3，23-14	12/14	GL-0.35～-1.60mで黄褐色泥砂。	30C044	MK442	26-1
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡	**西・嵐山谷ケ辻子町74**	**4/11・12，5/10・11**	**GL-0.03mで明黄褐色シルトの地山。**	**29C129**	**MK023**	**26-1**
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡	西・嵐山谷ケ辻子町46-4	11/19	GL-0.25～-0.35mで明黄褐色シルトの地山。	30C047	MK404	26-1
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡	**西・嵐山谷ケ辻子町46-2**	**12/3**	**GL-0.3mまで盛土。**	**30C088**	**MK422**	**26-1**
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡	西・嵐山谷ケ辻子町9-2の一部	4/20	GL-0.4mまで盛土。	29C145	MK047	26-1
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡	**西・嵐山谷ケ辻子町9-2の一部**	**4/20**	**GL-0.4mまで盛土。**	**29C146**	**MK048**	**26-1**
松室遺跡	西・松室北河原町199	9/18	GL-0.53mまで盛土。	18S185	MK292	28-7
山田桜谷古墳群	**西・山田桜谷町，下山田下園尾町 他**	**10/29，12/27**	**山田桜谷古墳１・２号墳の墳丘を確認。本報告64ページ。**	**18A006**	**MK373**	**28-8**
浄住寺（谷之堂）跡	西・山田南町27-5，27-6	6/08	GL-0.15mまで盛土。	18S028	MK114	28-8
苯岐館跡	**西・川島玉頭町69-2**	**8/20**	**中世前半のピット群を検出。本報告62ページ。**	**18S132**	**MK242**	**29-1**
三重古墳	西・樫原井戸～川島松園町 他 地内	4/25，5/1・8・15・31，6/12・19・26，7/19・23・24，8/2・8・30，9/14	№1：GL-0.95mで黄灰色シルト，-1.35～-1.45mまで黄色シルトの地山。№2：GL-0.7mで黒褐色粘質シルトの旧耕作土，-0.85～-1.1mで黄灰色シルトの湿地状堆積。№7（推定三重古墳）：GL-0.65mで灰色シルトと灰オリーブ色シルトの旧耕作土，-0.77mでにぶい黄色シルトの地山，-1.05～-1.15mでにぶい黄色砂礫の地山。	17S848	MK054	18-1
樫原遺跡，樫原廃寺瓦窯跡	**西・樫原里ノ垣外町18-1他**	**7/17～8/30**	**GL-0.32～-0.93mで明黄褐色シルトの地山。**	**14S350**	**MK192**	**18-1**
上久世遺跡	南・久世上久世町 地先	11/27	遥拝時掘削終了。	18EE	MK412	18-2
中久世遺跡	**南・久世中久世町二丁目112-4**	**4/13・16**	**GL-0.4～-0.5mで褐色粘質土の地山。**	**17S798**	**MK030**	**18-3**
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112-13	4/16	GL-0.3mまで盛土。	17S797	MK031	18-3
中久世遺跡	**南・久世殿城町90，91，93，568の各一部**	**11/6・26**	**GL-0.6mまで盛土。**	**18S523**	**MK381**	**18-3**
中久世遺跡	南・久世中久世町三丁目89	7/3・5・10	GL-0.74mでオリーブ灰色シルト，-0.89mでオリーブ灰色シルト，-1.01mで明緑灰色シルト，-1.16mでオリーブ灰色細砂を切って明緑灰色シルト(上層)と灰色シルト～細砂(下層)の弥生溝，-1.2mでオリーブ灰色細～中砂，-1.58～-1.69mでにぶい黄色砂礫。	18S223	MK175	18-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡	**南・久世中久世町四丁目8-1，8-2**	**7/10・11・17**	**GL-0.25mで旧耕作土の互層，-0.92mで灰白色シルト(マンガン含)，-1.08mで灰色泥砂の弥生～古墳湿地堆積，-1.41mで灰白色粗砂の河川堆積，-1.52mで灰色微砂の河川堆積，-1.69～-1.91mで灰オリーブ色微砂(粘質土)粘質の河川堆積。**	**18S138**	**MK184**	**18-3**
大藪遺跡，下久世構跡	南・久世殿城町526-1の一部	8/22	GL-0.49mで灰色細砂～シルトの中世包含層。	18S203	MK247	18-3
大藪遺跡	**南・久世築山町103-1，104-1，105-1，106-1，597**	**6/13・14，8/15，11/12**	**GL-0.29mでにぶい黄色シルトの旧耕作土，-0.55mで明黄褐色シルトの旧耕作土，-0.67m～-0.75mまで黄灰色泥砂(マンガン含)。**	**17S712**	**MK134**	**18-3**
大藪遺跡	南区久世殿城町540の一部	9/11	GL-0.31mで旧耕作土，-0.71～-0.8mで灰黄褐色シルト。	18S320	MK275	18-3
上里北ノ町遺跡	**西・大原野上里北ノ町～大原野上里南ノ町 地内**	**9/10・11，11/12**	**GL-0.75mで黄褐色粘質土，-1.5～-1.8mで黄橙色粘質土の地山。**	**18S256**	**MK274**	**25-2**
福西古墳群	西・大枝北福西町四丁目100-2	4/20，6/4	GL-1.04mまで盛土。	17S709	MK046	26-2
福西古墳群	**西・大枝北福西町三丁目1-1**	**5/1**	**GL-0.65～-1.6mで明黄褐色細砂。**	**17S786**	**MK067**	**26-2**

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
常照皇寺経塚	右・京北井戸町	9/11	GL-0.3～-0.44mで黄橙色粘土(砂礫多量混)の地山。	18S334	UK 276	29-2

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　へいせいさんじゅうねんど
書　　名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井哲子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発 行 年 月 日	西暦2019年３月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京四条二坊十二町跡（へいあんきょうさきょうしじょうにぼうじゅうにまちあと）	京都市中京区油小路通四条上る藤本町549（きょうとしちゅうきょくあぶらこうじどおりしじょうあがるふじもとちょう） 同区醒ヶ井通錦小路下る藤西町592-1（どうくさめがいどおりにしきこうじさがるふじにしちょう）	26100	1	35度00分07秒	135度45分10秒	2018/1/12～2/9		共同住宅
平安京左京五条二坊七町跡（へいあんきょうさきょうしじょうにぼうしちまちあと）	京都市下京区岩上通綾小路下る雁金町411, 409-1, 409-2（きょうとしちゅうきょくいわがみどおりあやのこうじさがるかりがねちょう）	26100	1	35度00分06秒	135度45分05秒	2018/2/16～3/12		ホテル
平安京左京五条三坊三町跡・烏丸綾小路遺跡（へいあんきょうさきょうしじょうさんぼうさんまちあと・からすまあやのこうじいせき）	京都市下京区新町通仏光寺下る岩戸山町436-1, 436-2（きょうとしちゅうきょくしんまちどおりぶっこうじさがるいわとやまちょう）	26100	1 712	35度00分00秒	135度45分23秒	2018/3/19～3/30		ホテル
平安京左京六条四坊十五町跡（へいあんきょうさきょうしじょうろくぼうじゅうごまちあと）	京都市下京区御幸町通五条上る安土町616他（きょうとしちゅうきょくごこうまちどおりごじょうあがるあづちちょう）	26100	1	34度59分47秒	135度45分58秒	2018/5/7～7/19		ホテル

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京四条二坊十二町跡	都城跡	平安時代中期 平安時代末～鎌倉時代 鎌倉時代・江戸時代	ピット・溝・土坑	土師器・須恵器 瓦器・陶磁器 砥石・瓦質土器・硯	各時期における宅地利用を確認。
平安京左京五条二坊七町跡	都城跡	平安時代末～鎌倉時代	土坑	土師器・須恵器 焼締陶器	平安時代末～鎌倉時代の土坑群を確認。
平安京左京五条三坊三町跡・烏丸綾小路遺跡	都城跡 集落跡	中世	土坑	土師器・須恵器・陶磁器	
平安京左京六条四坊十五町跡	都城跡	平安～鎌倉時代・江戸時代	落込み 土坑	土師器皿	

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　へいせいさんじゅうねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2019年3月29日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京八条二坊十町跡	京都市下京区 油小路通木津屋橋下る・同区北不動堂町 490-2, 491	26100	1	34度59分16秒	135度45分13秒	2018/10/23～11/2		事務所
平安京左京九条一坊十一町跡・史跡教王護国寺境内	京都市南区九条町1	26100	1 A752	34度58分52秒	135度44分14秒	2017/10/5～2018/7/24		修理
平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡	京都市中京区 西ノ京東月光町24-1	26100	1 462	35度00分37秒	135度44分42秒	2018/11/29		保育所
平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋遺跡	京都市南区 唐橋西寺町　地先	26100	1 A751 756	34度58分51秒	135度44分14秒	2017/5/31～2018/1/1		排水管布設替

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京八条二坊十町跡	都城跡	平安時代前期 平安時代末～鎌倉時代 室町時代・江戸時代	ピット・溝・土坑	土師器・須恵器 瓦器・灰釉陶器 緑釉陶器・瓦質土器・瓦	平安時代前期の町内内溝を検出。 墨書土器が出土。
平安京左京九条一坊十一町跡・史跡教王護国寺境内	都城跡	平安時代	国宝御影堂 前堂礎石 基壇化粧土	土師器	御影堂基壇土を確認。
平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡	都城跡	古墳時代後期 平安時代中期	溝・ピット・土坑	土師器・須恵器・黒色土器 白磁・緑釉陶器	平安時代中期のピットを検出。 古墳時代後期の小溝（竪穴?）を検出。
平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋遺跡	都城跡 史跡 集落跡	平安時代	整地層	土師器・瓦	

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　へいせいさんじゅうねんど
書　　名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発 行 年 月 日	西暦2019年３月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
愛宕山遺跡（あたごやまいせき）	京都市右京区（きょうとしうきょうく）嵯峨愛宕町（さがあたごちょう）1	26100	831	35度 03分 33秒	135度 38分 07秒	2017/12/2 ～2018/8/5		表採
市名勝三千院（しめいしょうさんぜんいん） 有清園庭園及び（ゆうせいえんていえんおよび） 聚碧園庭園・大原（じゅへきえんていえん・おおはら） 延暦寺別院境内（えんりゃくじべついんけいだい）	京都市左京区（きょうとしさきょうく）大原来迎院町（おおはららいごういんちょう）540	26100	C330 349	35度 07分 09秒	135度 50分 05秒	2018/2/15 ～2/21		庭園修理
得長寿院跡・（とくちょうじゅいんあと・） 白河街区跡・（しらかわがいくあと・） 岡崎遺跡（おかざきいせき）	京都市左京区（きょうとしさきょうく）岡崎徳成町（おかざきとくせいちょう）6-1, 6-8	26100	417-9 417 418	35度 00分 50秒	135度 46分 38秒	2018/8/21 ～22		個人住宅
円勝寺跡・（えんしょうじあと・） 岡崎遺跡（おかざきいせき）	京都市左京区（きょうとしさきょうく）岡崎円勝寺町（おかざきえんしょうじちょう）124（おかざきこうえん） （岡崎公園）	26100	417-4 418	35度 03分 46秒	135度 47分 00秒	2017/5/31 ～2018/1/1		美術館

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
愛宕山遺跡	寺院跡	江戸時代	遺物散布地	江戸時代前半の 陶磁器類	
市名勝三千院 有清園庭園及び 聚碧園庭園・大原 延暦寺別院境内	名勝 寺院跡	江戸時代	園池	土師器等	
得長寿院跡・ 白河街区跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 邸宅跡 集落跡	鎌倉時代	ピット 土坑	土師器	得長寿院の西限付近でピットを複数検出。
円勝寺跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 邸宅跡 集落跡	近世	溝	土師器等	

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　へいせいさんじゅうねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2019年3月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
革嶋館跡（かわしまかやかたあと）	京都市西京区（きょうとしにしきょうく）川島玉頭町69-2（かわしまたまがしらちょう）	26100	997	34度58分31秒	135度42分01秒	2018/8/20		共同住宅
山田桜谷古墳群（やまださくらだにこふんぐん）	京都市西京区（きょうとしにしきょうく）山田桜谷町・同区（やまださくらだにちょう・どうく）下山田下園尾町（しもやまだしもぞのおちょう）	26100	974	34度59分17秒	135度41分03秒	2018/4/21～12/27		範囲確認調査

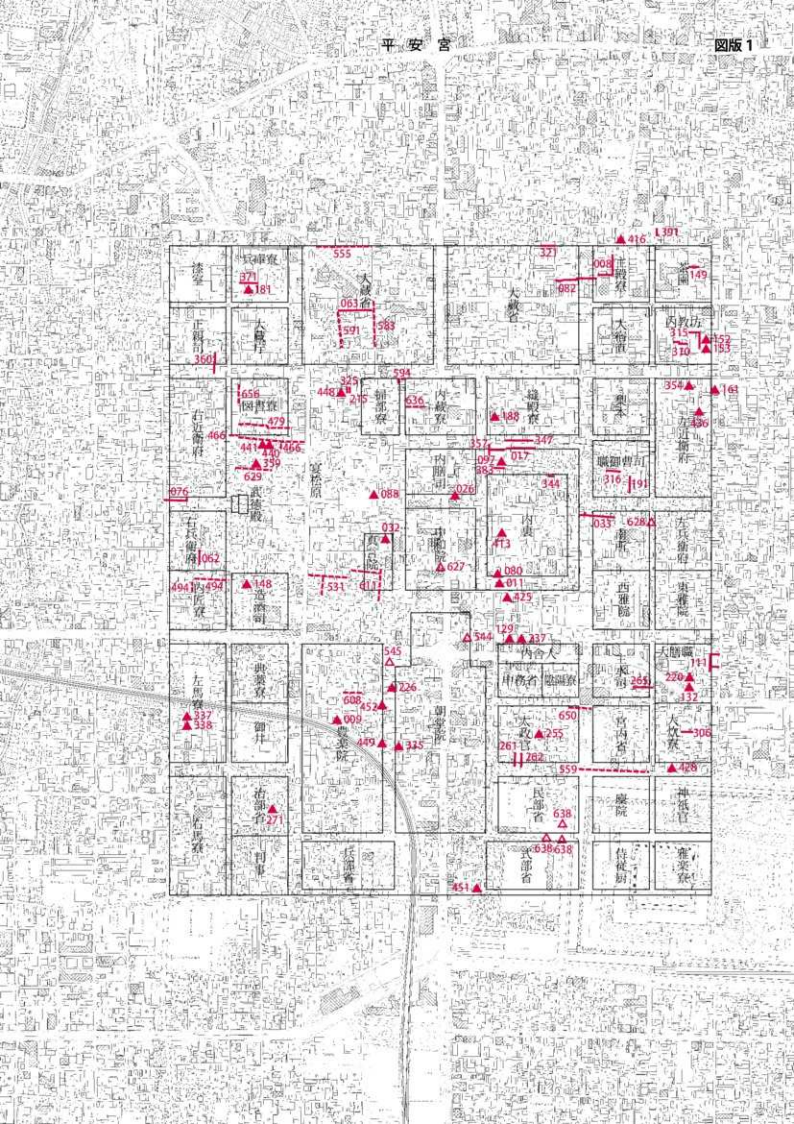
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
革嶋館跡	城跡	鎌倉時代	ピット	土師器	
山田桜谷古墳群	古墳	古墳時代	墳丘	埴輪	山田桜谷1号墳・2号墳を踏査。赤色レーザー測量を実施。

図　　版

凡　例

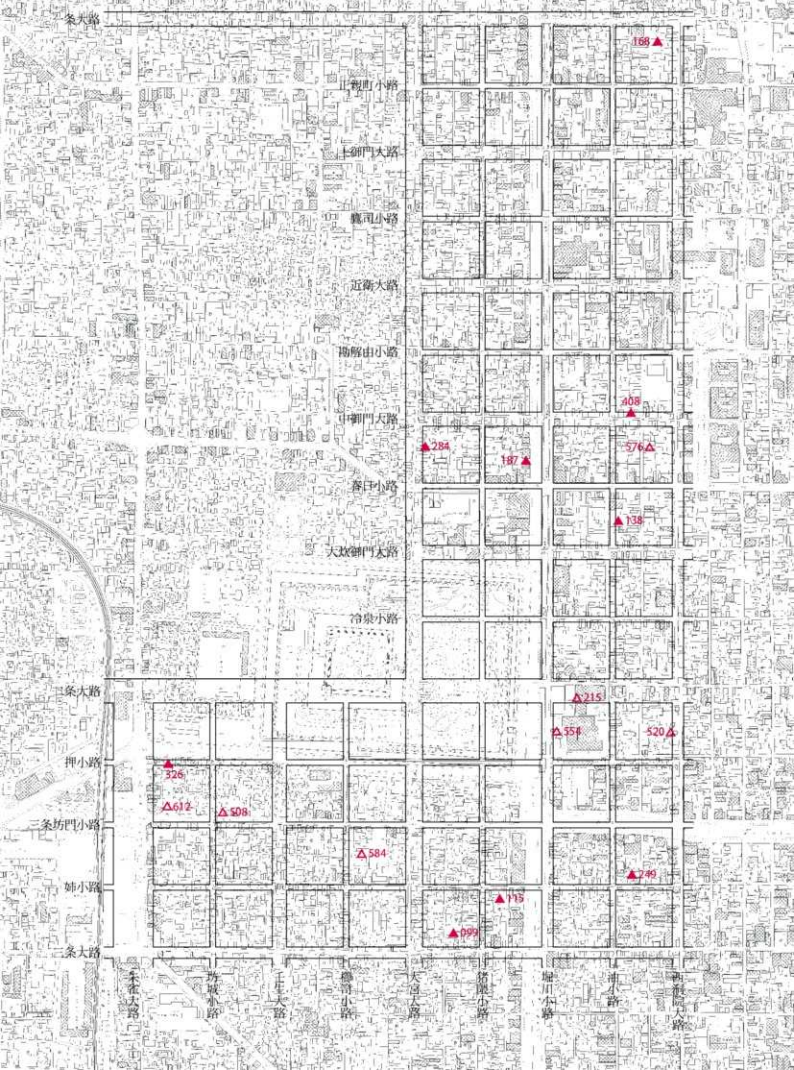
△ ------- 2018年１～３月期(平成29年度)詳細分布調査地点

▲ ——— 2018年４～12月期(平成30年度)詳細分布調査地点


漆室
兵庫寮
大蔵省
正親司
大炊寮
内匠寮
内蔵寮
織部寮
造酒寮
大膳職
内膳司
内豎
内舎人
中務省
図書寮
左近衛府
右近衛府
左兵衛府
右兵衛府
左馬寮
右馬寮
典薬寮
造酒司
宮内省
大学寮
民部省
兵部省
刑部省
治部省
式部省
雅楽寮
内匠寮
陰陽寮
内教坊
左京職
右京職
左弁官
右弁官
太政官
神祇官
中宮職
東宮坊
春宮坊
中務省
朝堂院
豊楽院
宴松原
武徳殿
内裏
紫宸殿
清涼殿
弘徽殿
飛香舎
凝華舎
梅壺
桜壺
藤壺
承香殿
麗景殿
宣耀殿
登華殿
常寧殿
貞観殿
温明殿
宜陽殿
内侍所
内侍司
内侍所
内侍司
内侍所
内侍司

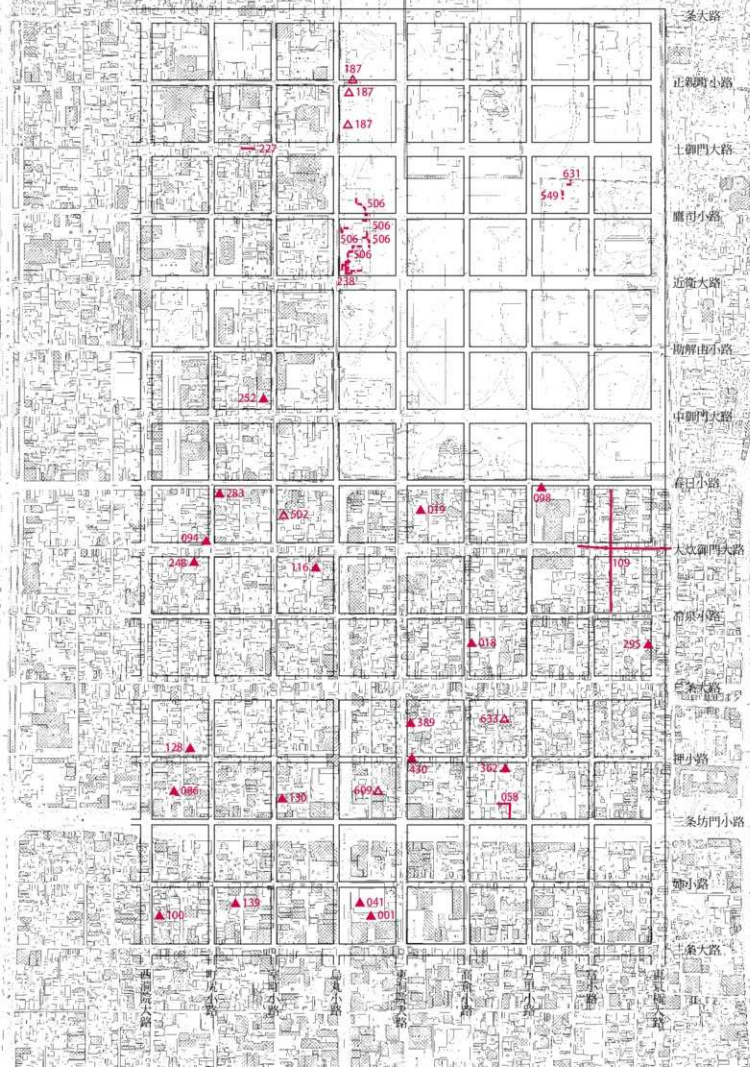
図版 2

平安京左京北辺～三条一・二坊



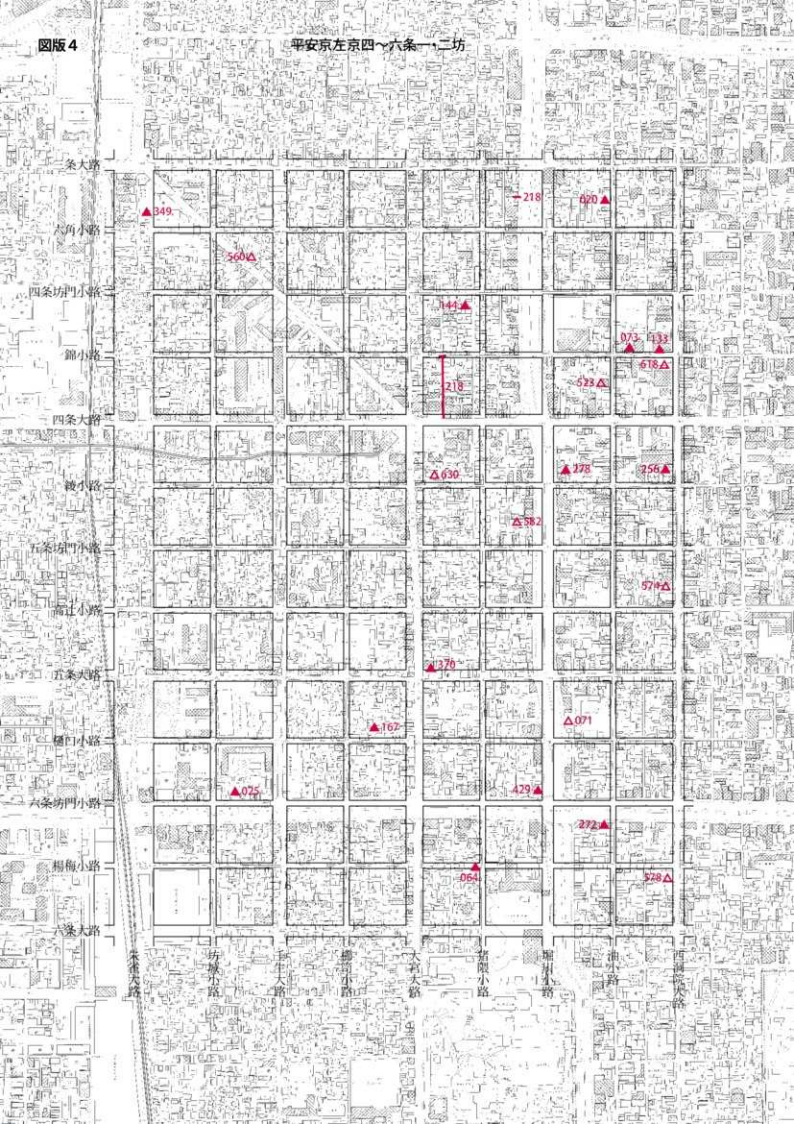
平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3

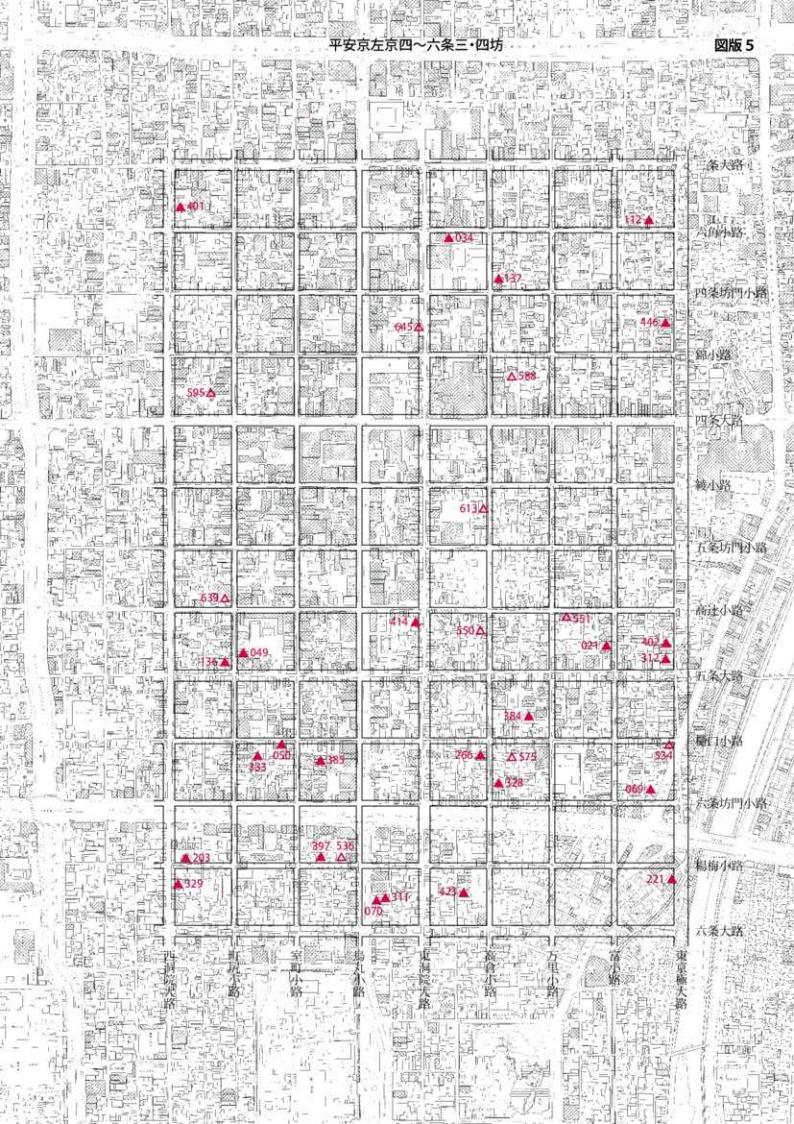


図版4

平安京左京四～六条一・二坊

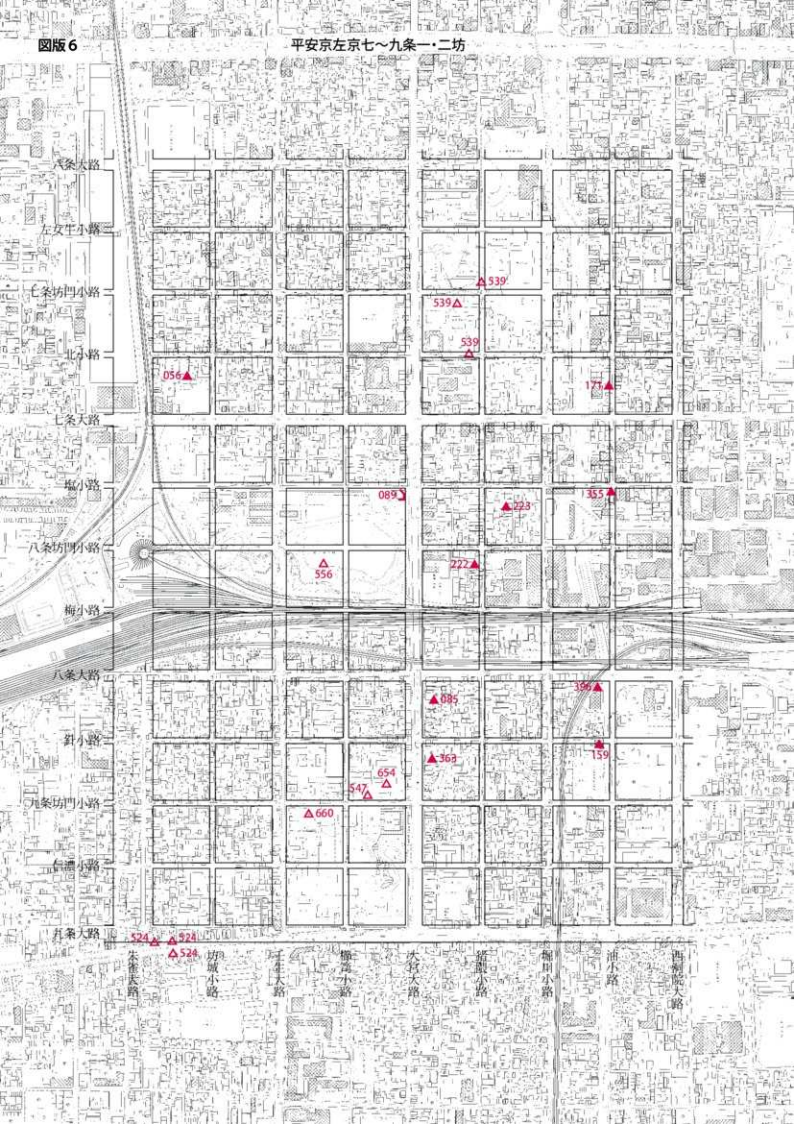


平安京左京四～六条三・四坊



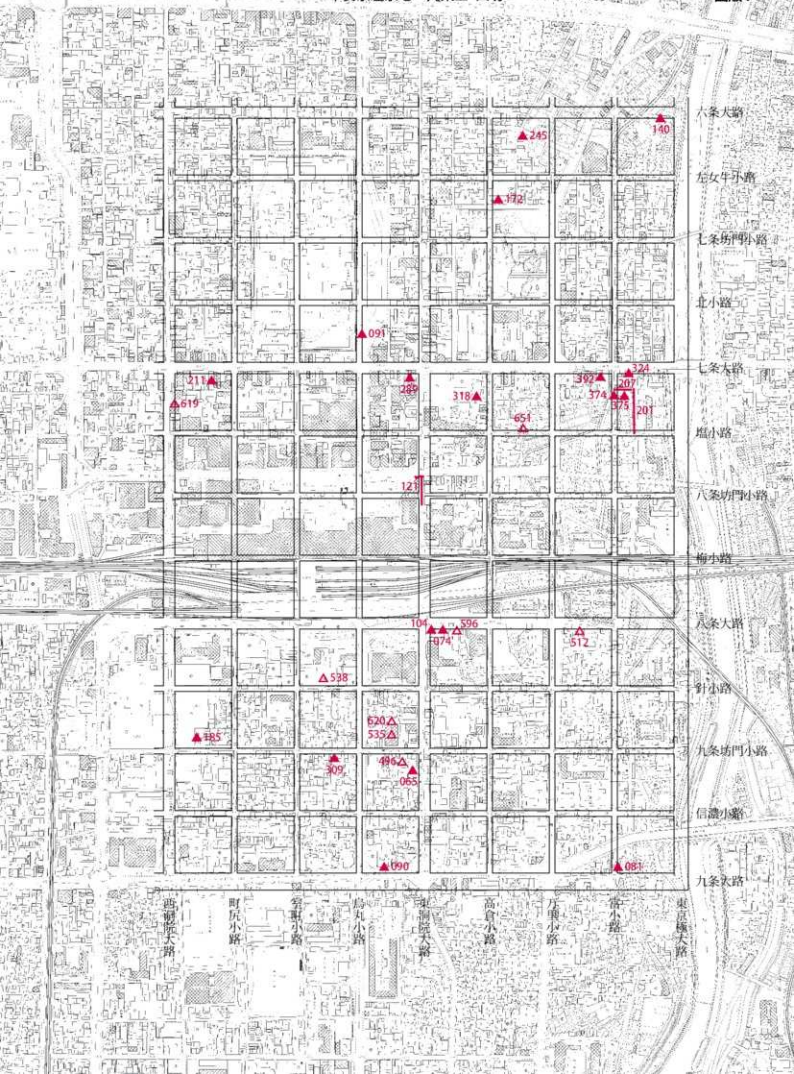
図版6

平安京左京七～九条一・二坊



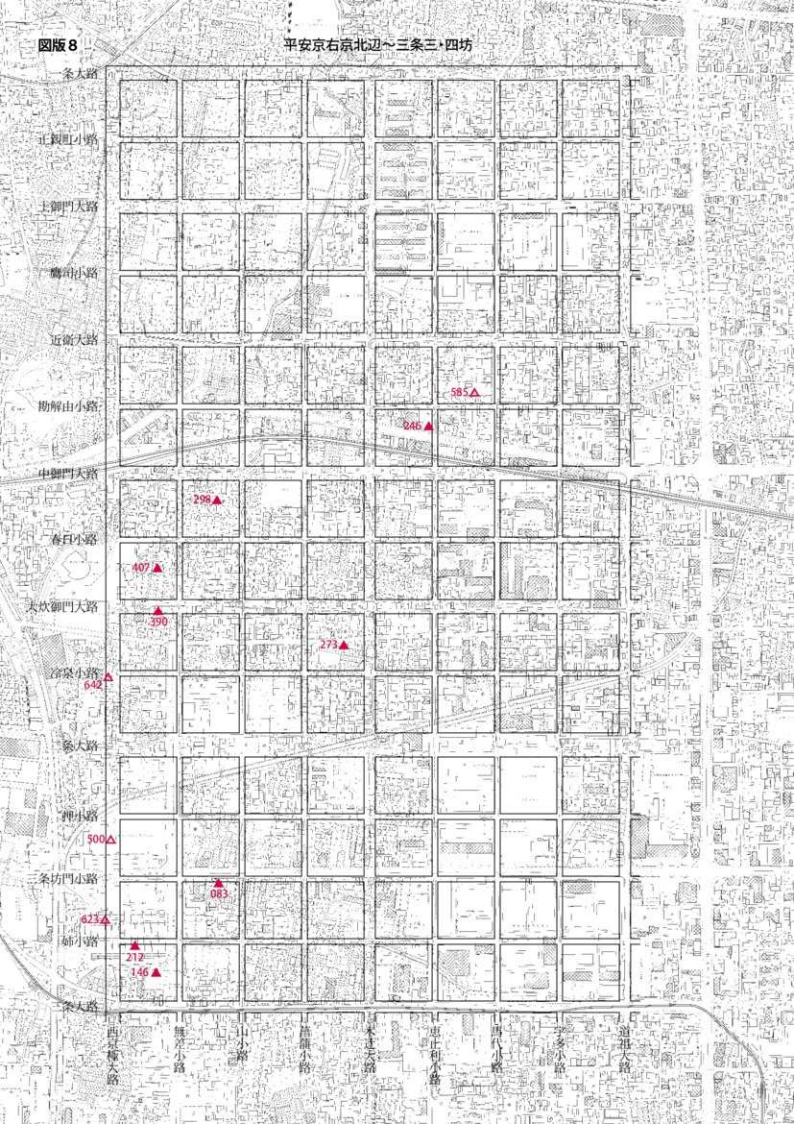
平安京左京七～九条三・四坊

図版 7



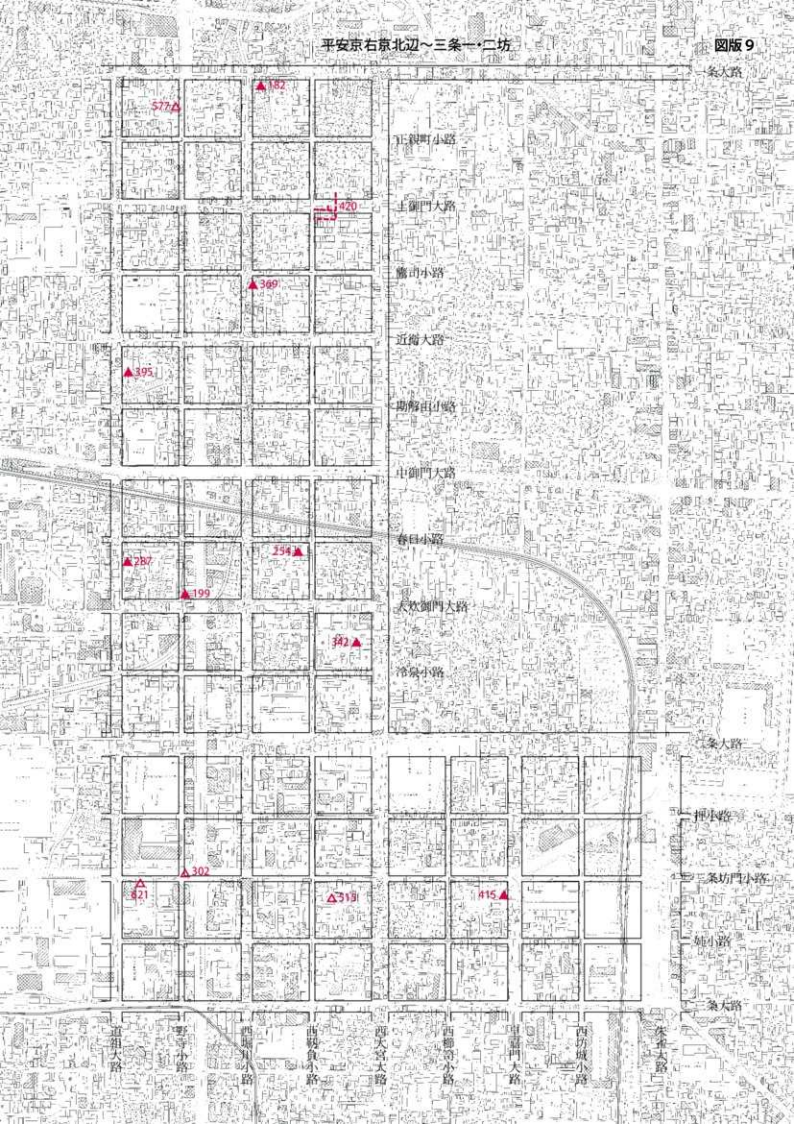
図版 8

平安京右京北辺～三条三・四坊



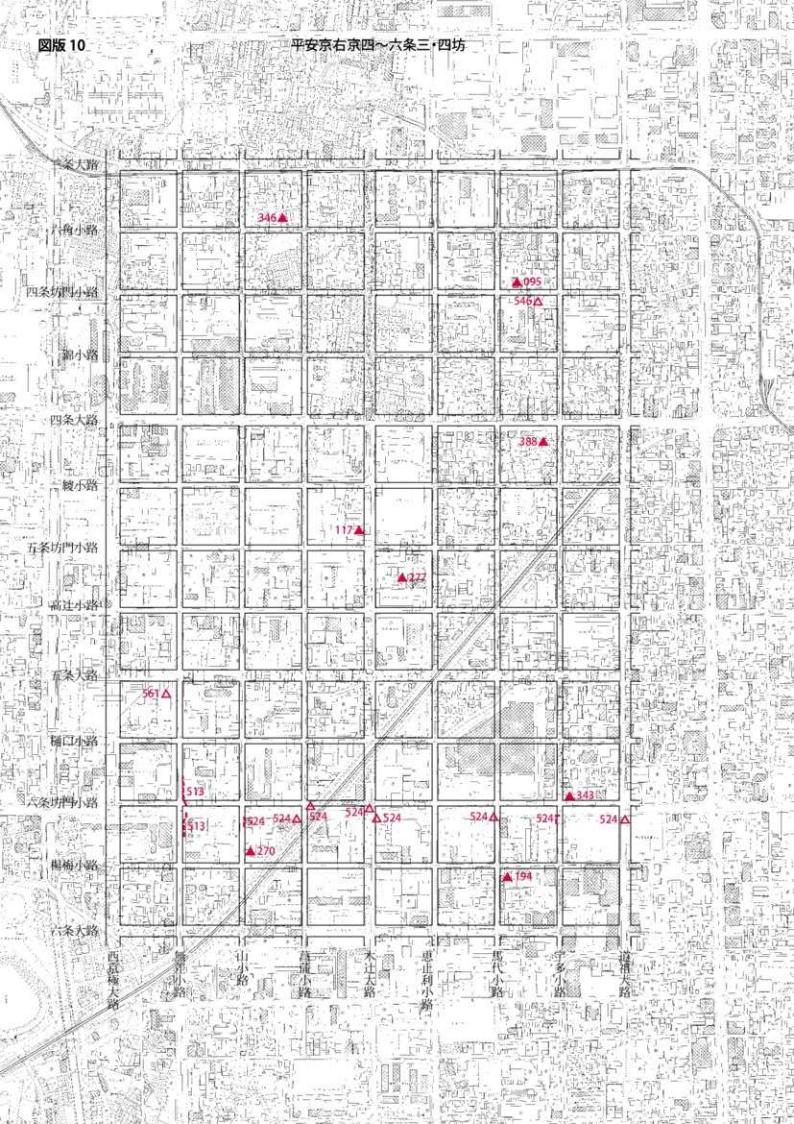
平安京右京北辺～三条一・二坊

図版９

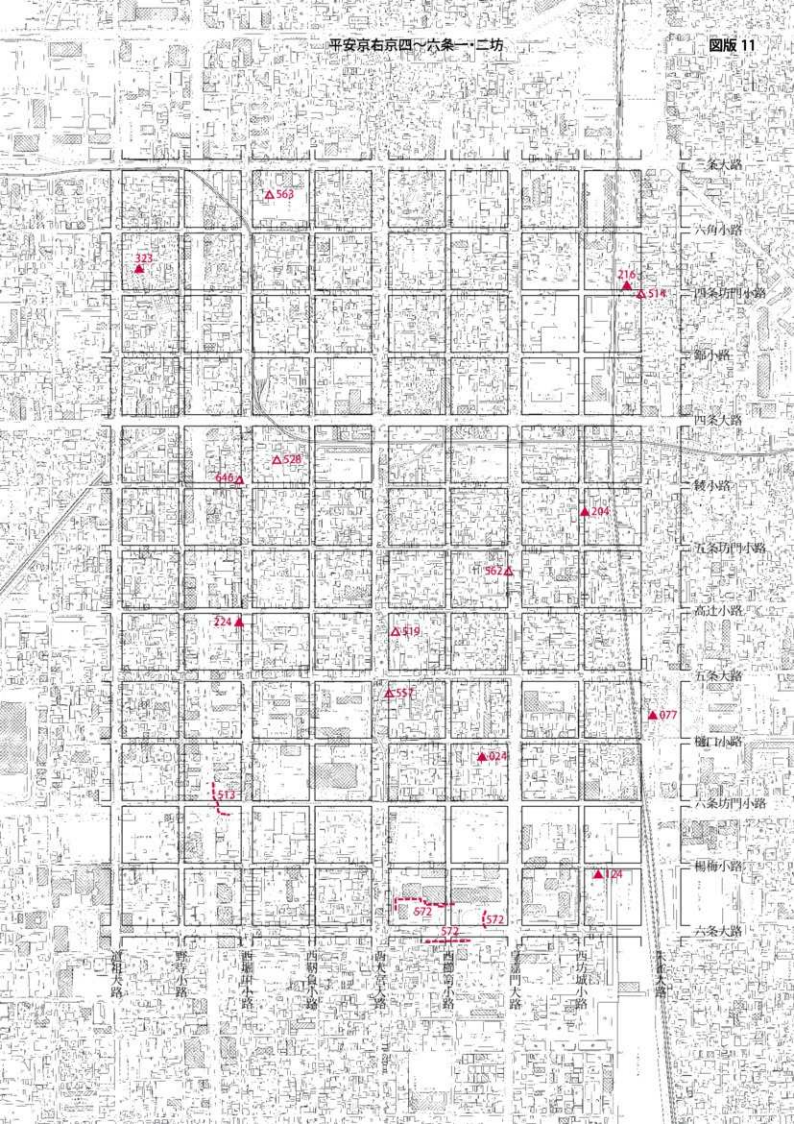


図版 10

平安京右京四～六条三・四坊

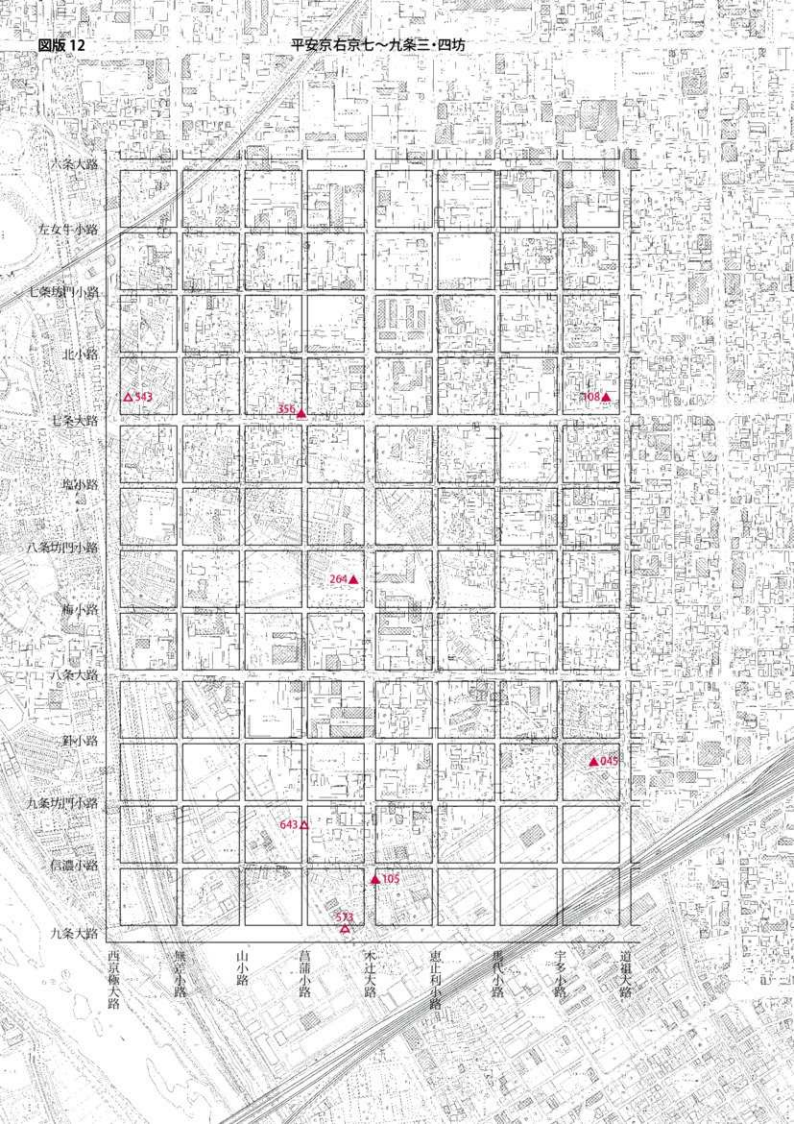


平安京右京四～六条一・二坊



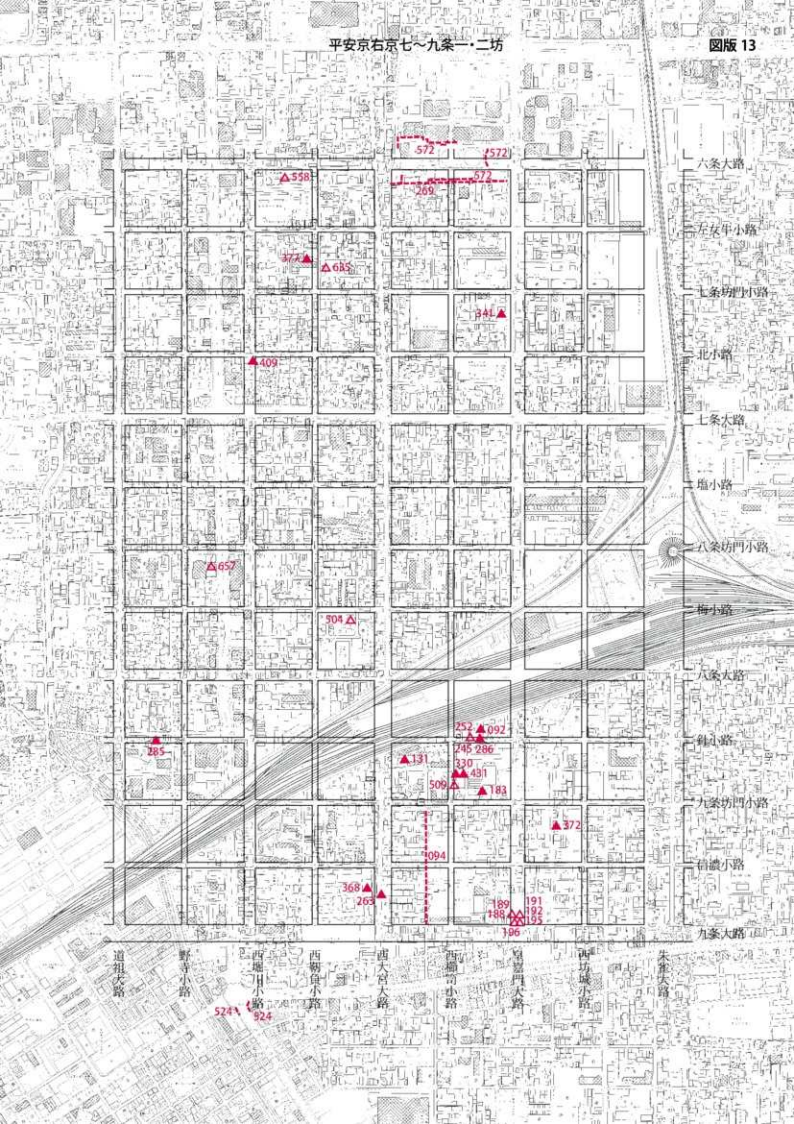
図版 12

平安京右京七～九条三・四坊

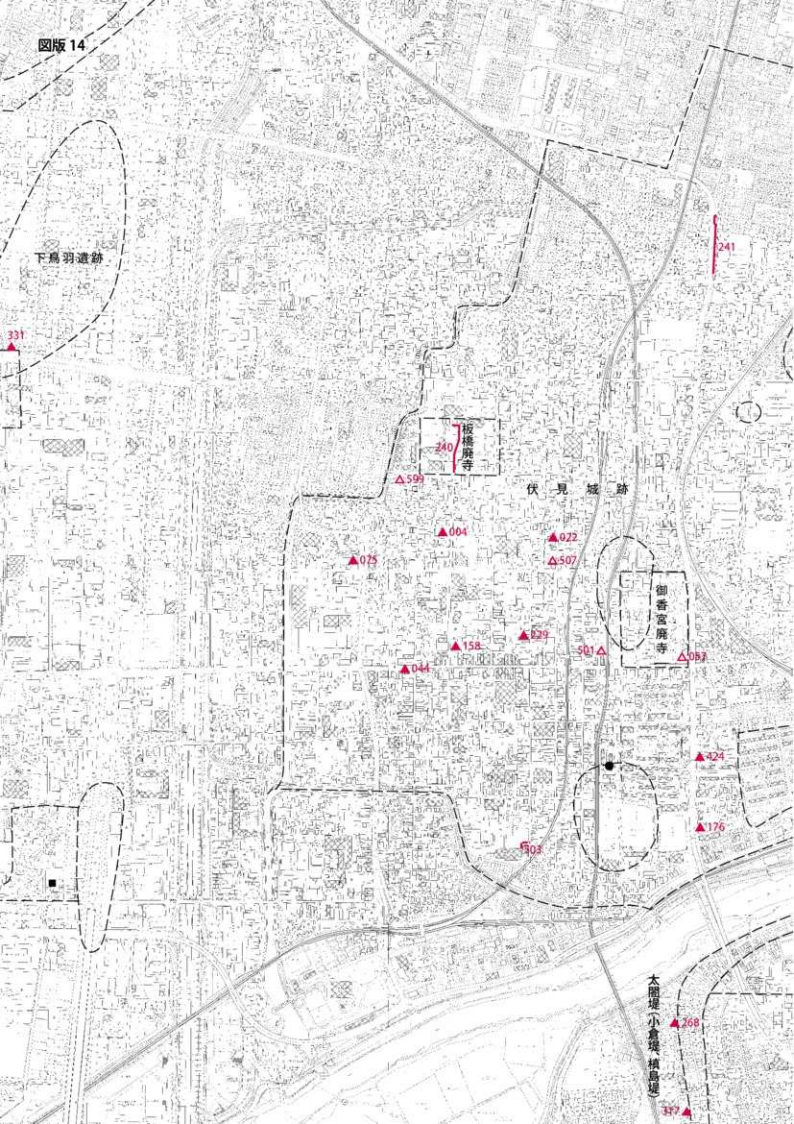


平安京右京七～九条一・二坊

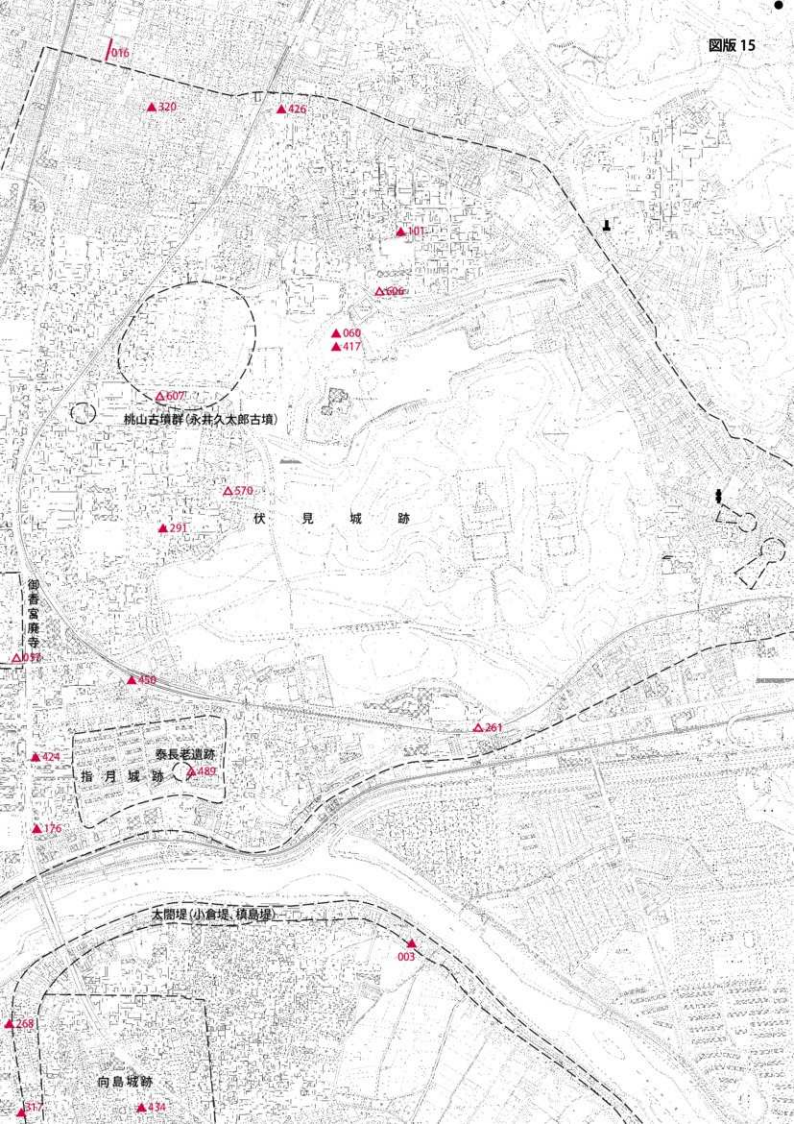
図版 13



図版 14


下鳥羽遺跡
331
241
板橋廃寺
240
599
伏見城跡
004
022
075
507
御香宮廃寺
229
158
501
044
087
424
176
503
太閤堤（小倉堤・横島堤）
268
379

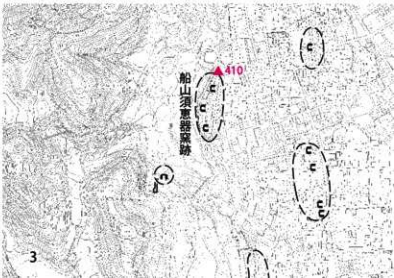
図版 15


016
320
426
101
606
060
417
607
桃山古墳群（永井久太郎古墳）
570
291
伏見城跡
御香宮廟寺
019
458
261
424
泰長老遺跡
指月城跡
489
176
太閤堤（小倉堤、槙島堤）
003
268
向島城跡
317
434

図版 16

大徳寺旧境内
432
御土居跡
339
雲林院跡
155
066
035
世尊寺跡
267
619
上京遺跡
124
124
124
542
北野遺跡
北野天満宮
北野廃寺
150
165
053
1

岩倉忠在地遺跡
118
2


410
船山須恵器窯跡
3

図版 17

上総町遺跡

592

155

雲林院跡

066

042

350

802

寺ノ内旧域

351

035

325

325

相国寺旧境内

寺町旧域

世喜寺跡

193

267

615

上京遺跡

188

369

205

530

590

605

室町殿跡（花の御所）

269

147

上京遺跡

294

公家町遺跡

453

135

135

1

史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）

036

036

036

036

564

036

2

036

17

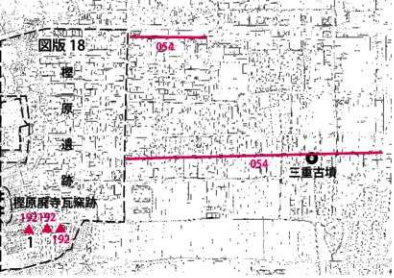
2

御土居跡

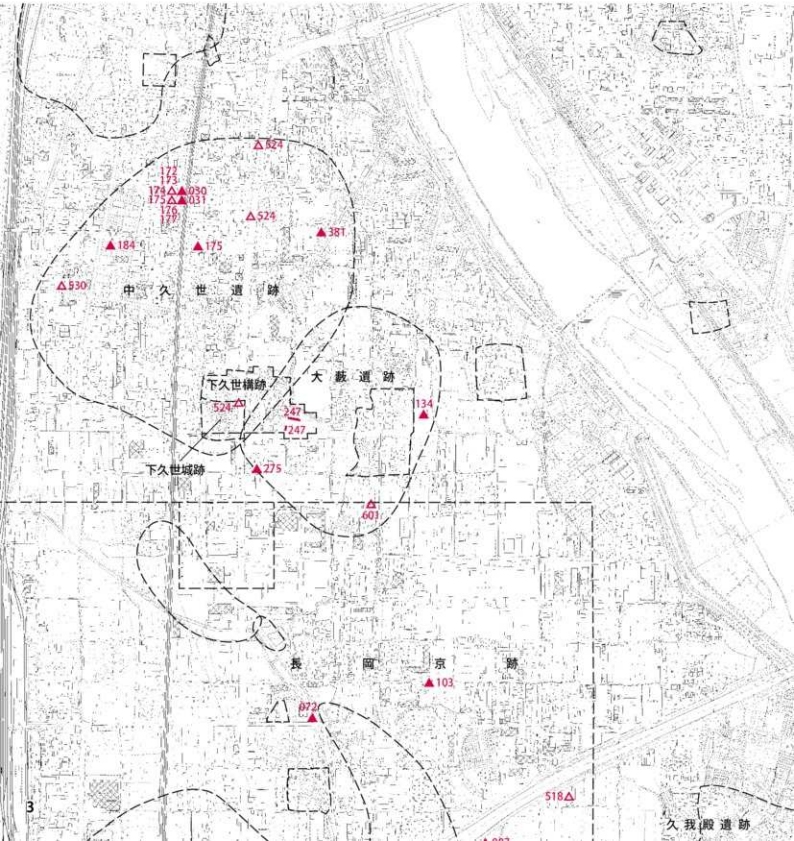
169

3

図版 18


054
櫻原遺跡
054
三重古墳
櫻原廃寺瓦窯跡
192 192
192
1

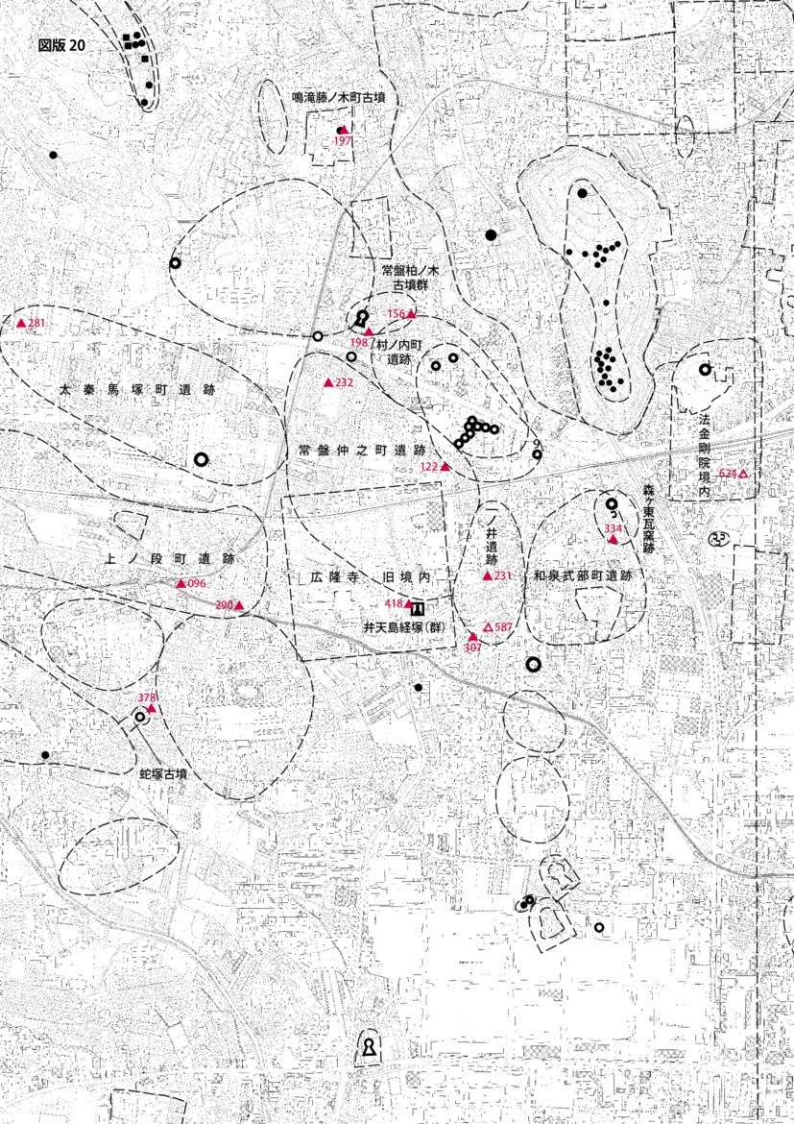
412
上久世遺跡
2


624
172
173
174 030
175 031
176
177
524
381
184
175
530
中久世遺跡
下久世構跡
大藪遺跡
524
247
247
134
下久世城跡
275
601
長岡京跡
103
072
518
久我殿遺跡
3

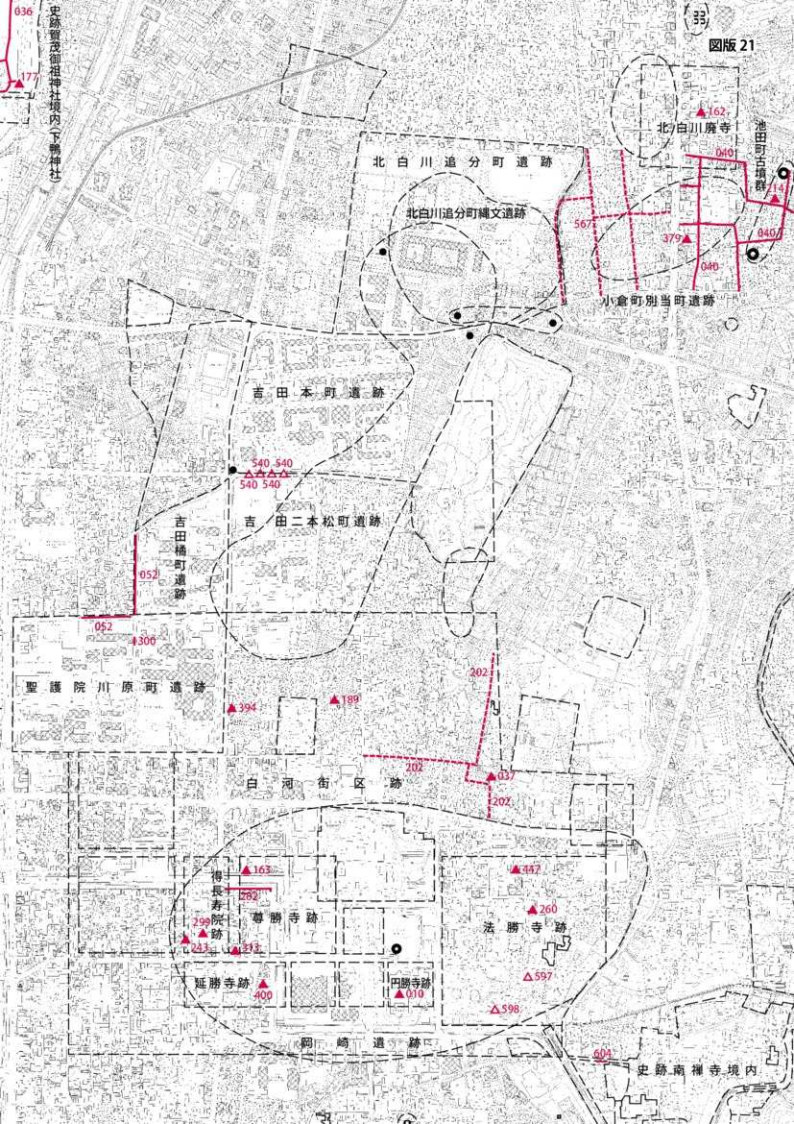
図版19

518
325
087
東土川遺跡
566
久我殿遺跡
093
093
長岡京跡
029
421
399
589
久我東町遺跡
羽束師菱川城跡
羽束師志水町遺跡
157
206
483
483
427
537

図版 20


鳴滝藤ノ木町古墳
197
常盤柏ノ木
古墳群
156
198
村ノ内町
遺跡
281
232
太 秦 馬 塚 町 遺 跡
常 盤 仲 之 町 遺 跡
122
法金剛院境内
628
森ケ東瓦窯跡
334
井遺跡
231
和泉式部町遺跡
上 ノ 段 町 遺 跡
096
290
広 隆 寺 旧 境 内
418
井天島経塚（群）
587
307
378
蛇塚古墳

図版 21


史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）
北白川追分町遺跡
北白川追分町縄文遺跡
北白川廃寺
池田町古墳群
小倉町別当町遺跡
吉田本町遺跡
吉田二本松町遺跡
吉田橋町遺跡
聖護院川原町遺跡
白河街区跡
得長寿院跡
尊勝寺跡
法勝寺跡
延勝寺跡
円勝寺跡
岡崎遺跡
史跡南禅寺境内

図版 22

法勝寺跡
岡崎遺跡
196
039
120
180
寺町旧域
御土居跡
史跡青蓮院旧仮御所
592
593
637
知恩院境内
345
祇園遺跡
649
250
533
建仁寺境内
043
202
法観寺旧境内
290
六波羅蜜寺寺旧境内
340
006
038
038
178
107
195
晉羽・五条坂窯跡
166
六波羅政庁跡
186
213
方広寺跡
217
妙法院境内
652
640
057
648
259
鳥部（辺）野
253
法住寺殿跡
192
208
314

図版 23

571

広沢古墳群

614

嵯峨遺跡

△625

▲296

壇林寺跡

▲179

宝幢寺境内

▲302

012

▲327

△586

嵯峨北堀町遺跡

嵯峨遺跡

603

▲160

449

013

△634

051

051

植物園北遺跡

014

▲007

深泥池窯跡

芝本瓦窯跡

568

▲386

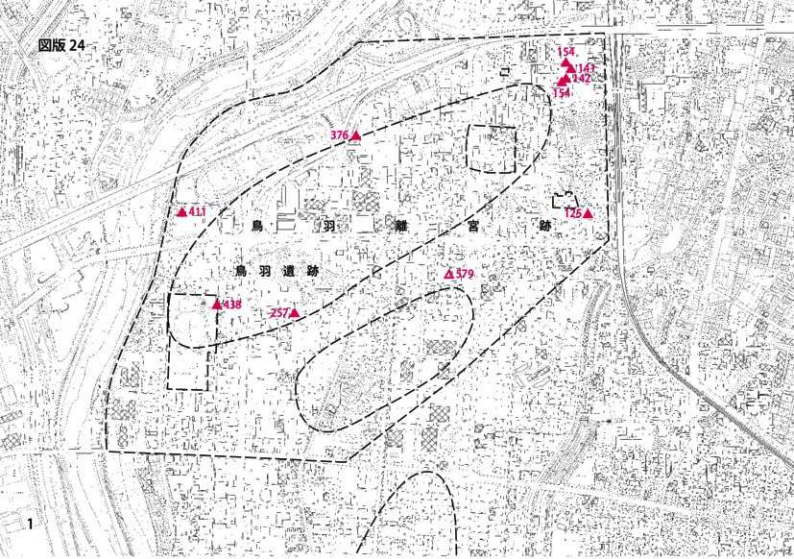
△568

▲110

658

2

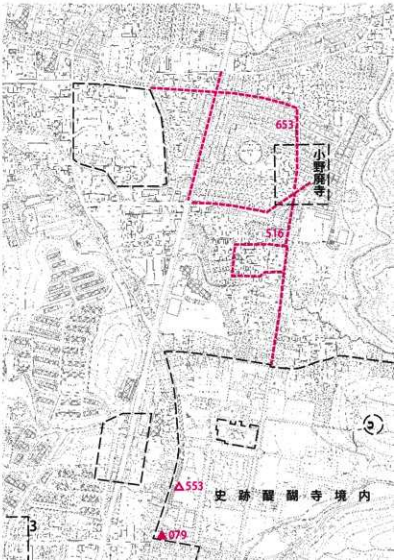
図版 24


154
143
142
154
376
411
126
鳥羽離宮跡
鳥羽遺跡
579
438
257

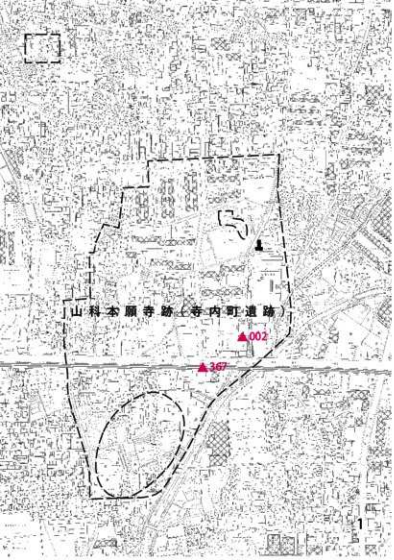
1

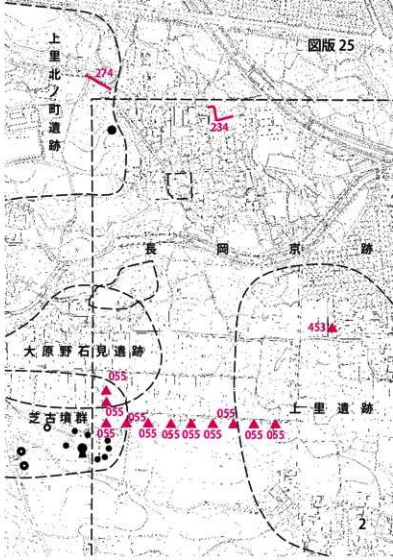
123
今村城跡
法性寺跡
059
月輪遺跡
301
332

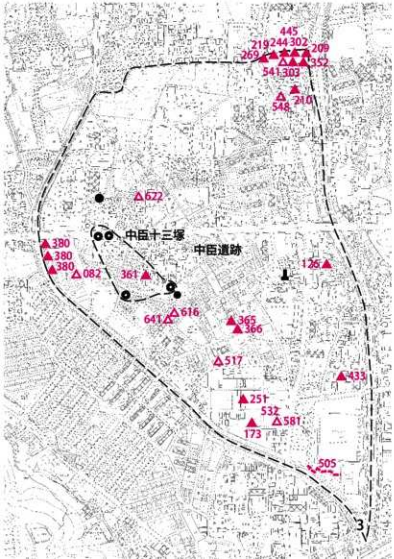
2

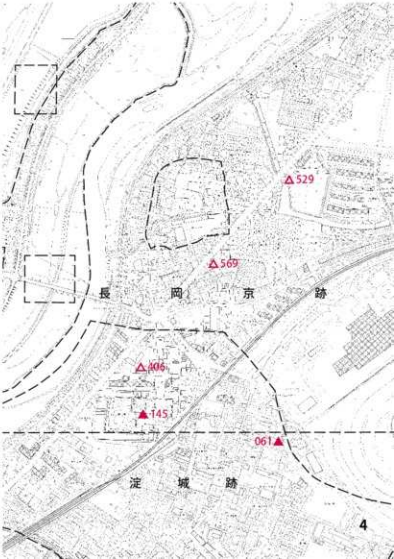

653
小野殿寺
516
553
史跡醍醐寺境内
079

3

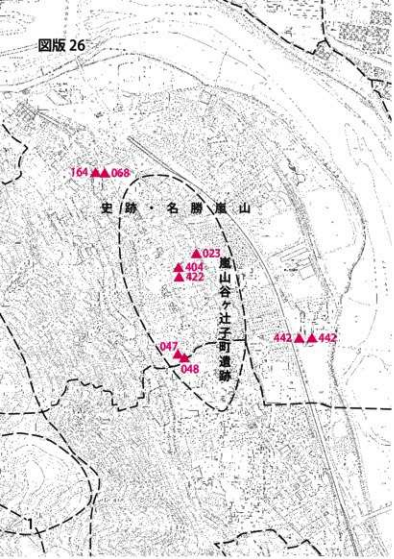

山科本願寺跡（寺内町遺跡）
002
367
1

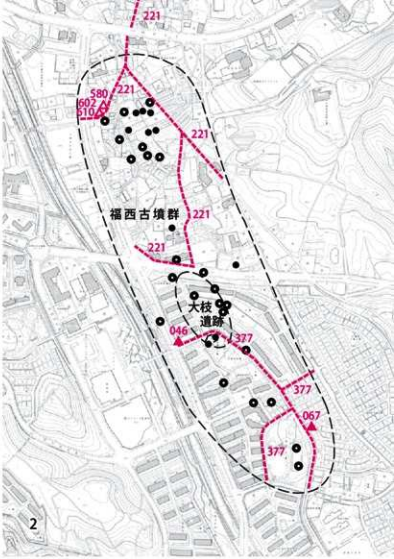

上里北ノ町遺跡
274
234
長岡京跡
453
大原野石見遺跡
055
上里遺跡
芝古墳群
055 055 055 055 055 055 055 055 055
2


445
219 244 302
269 209
352
541 303
548 210
622
中臣十三塚
中臣遺跡
380
380
380
082
361
126
641 616
365
366
517
433
251
532
581
173
505
3

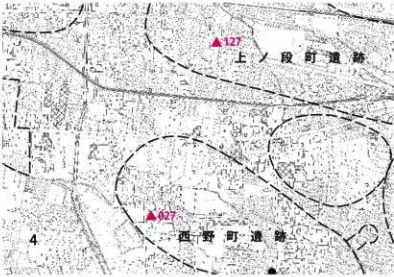

529
569
長岡京跡
406
145
061
淀城跡
4

図版 26


164
068
史跡・名勝嵐山
023
404
422
嵐山谷ヶ辻子町遺跡
047
048
442
442
1


221
580
602
510
221
221
福西古墳群
221
221
大枝遺跡
046
377
377
067
377
2

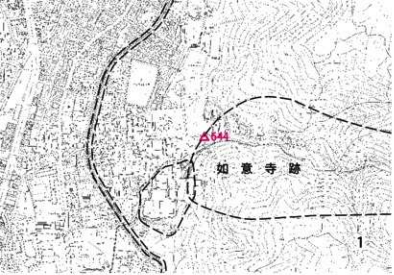
632
愛宕山遺跡
3


127
上ノ段町遺跡
627
西野町遺跡
4

大原延暦寺別院境内
617
市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園
5

522
史跡詩仙堂
6

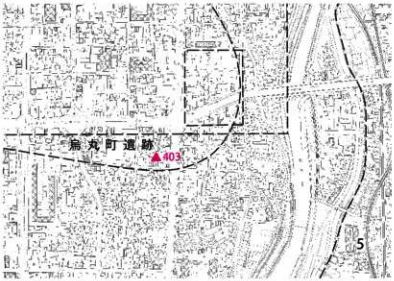
図版 27


644
如意寺跡
1

239
239
225
236
628
235
233
190
190
565
山科本願寺南殿跡
2

626
元慶敕願寺
3

358
510
336
勧修寺旧境内
647
4


烏丸町遺跡
403
5

吉祥院日向地蔵
一字一石大乗妙典塔
005
6

上鳥羽遺跡
151
7

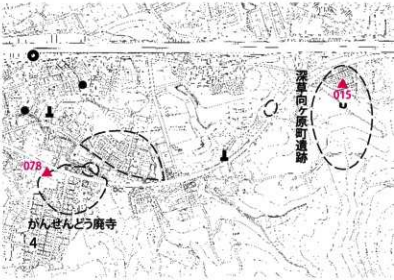
下鳥羽遺跡
659
331
芦川城跡
8

図版 28

深草遺跡
009
1

174
稲荷山古墳群
119
伏見稲荷大社境内
2

安楽行院跡
200
深草坊町遺跡
170
嘉祥寺跡
3


深草向ヶ原町遺跡
015
078
かんせんどう廃寺
4

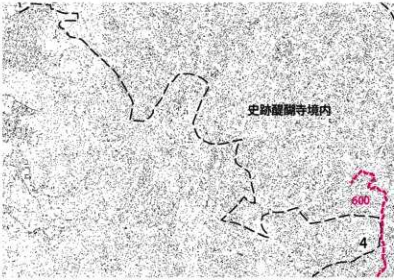
268
太閤堤（小倉堤、横島堤）
317
向島城跡
434
387
5

法界寺旧境内
382
396
6

511
松尾二塚古墳群
松室遺跡
292
7

373
山田桜谷古墳群
浄住寺（谷之堂）跡
114
552
8

図版 29



1　第1区全景（北東から）

2　第1区全景（南西から）

京都市内遺跡詳細分布調査報告
平成３０年度

発行日　２０１９年3月２９日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
住　所　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町３９４
Y・J・Kビル２階
TEL.（０７５）３６６－１４９８
印　刷　奥田印刷株式会社
TEL.（０７５）４４１－７０６０